

平成28年度

# 柏市学力・学習状況調査結果報告書

**「学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む」**

平成28年8月  
柏市教育委員会

## 平成28年度 柏市学力・学習状況調査結果報告書 目次

◆教育長巻頭言 「+Oneの教育」を」	3
■柏市学力・学習状況調査概要及び結果について	
□柏市学力学習状況調査内容について	4
□学力状況結果一覧	
□過去5年間の学力状況の推移一覧	
■学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む4つのCについて	10
■小学校【第2学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	16
■小学校【第3学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	18
■小学校【第4学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	20
■小学校【第5学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	22
■小学校【第6学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	24
■中学校【第1学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	26
■中学校【第2学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	28
■中学校【第3学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	30
■小学校【第6学年社会】学力状況調査結果及び指導改善案	32
■中学校【第1学年社会】学力状況調査結果及び指導改善案	34
■中学校【第2学年社会】学力状況調査結果及び指導改善案	37
■中学校【第3学年社会】学力状況調査結果及び指導改善案	40
■小学校【第2学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	42
■小学校【第3学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	44
■小学校【第4学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	46
■小学校【第5学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	48
■小学校【第6学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	50
■中学校【第1学年数学】学力状況調査結果及び指導改善案	52
■中学校【第2学年数学】学力状況調査結果及び指導改善案	54
■中学校【第3学年数学】学力状況調査結果及び指導改善案	56
■小学校【第6学年理科】学力状況調査結果及び指導改善案	58
■中学校【第1学年理科】学力状況調査結果及び指導改善案	60
■中学校【第2学年理科】学力状況調査結果及び指導改善案	62
■中学校【第3学年理科】学力状況調査結果及び指導改善案	64
■中学校【第2学年英語】学力状況調査結果及び指導改善案	66
■中学校【第3学年英語】学力状況調査結果及び指導改善案	68
■生活・学習意識調査結果及び学力との関連について	
□ICT活用に関する意識と課題	70
□学校図書館の活用	72
■分析用エクセルシートの使用方法	74

## 「+Oneの教育」を

柏市教育委員会

教育長 河 篤 貞

柏市が独自に実施する「学力・学習状況調査」は、本年度で5年目となりました。柏市全体としては、小中学校共にすべての教科・学年において、全国とほぼ同程度の結果となり、良好な状況といえます。しかし、5年間分のデータが蓄積されているのですから、各校においては一人一人の子どもの学びの状況に目を向け、より細やかな分析が必要です。たとえ、学校や学年、学級の平均値が高くても、その中には学んだことが定着していない子どもがいるはずです。その子どもの学びの状況を把握し、改善に向けた手立てを講じることが、本調査を継続している趣旨なのです。

人は、「自分の努力により、自分が変わった。」という実感を得ることによって、それが意欲への向上へと繋がり、新たな一步を踏み出します。そのためには、本調査によって得られた、一人一人の子どもの実態をきちんと把握し、「変化への+One」を与えていくことが大切です。この報告書に記されている授業改善策を一助に、意欲の向上に繋がる授業アイデアを出し合い、全ての学級で「達成可能な+One」を促す授業が展開されることを願います。

また、昨年度の「生活・学習意欲調査」から、柏市が全ての子ども達に身につけさせる力として掲げる「学ぶ意欲と学ぶ習慣」を数値化する取り組みを始めました。意欲と習慣を身につけるための、4つの力（4つのC）を設定し、その状況を「見える化」しています。

柏市全体では、4つのCの総合平均点が、昨年度の3.19から3.24に向上しました。また、増加率はわずかではありますが、指標としている全ての項目（40項目）で向上が見られたことは、各校における取り組みの成果として高く評価できます。見通す力（Concept）・挑戦する力（Challenge）・関わり合う力（Communication）・自律する力（Control）をバランス良く身につけることが、解の無い課題に向かい、目の前の課題をより良く解決しながら、21世紀をたくましく生き抜く力につながるものと考えています。従って、4つのCについても各校における強みと課題を的確に把握し、日々改善に努めることで、子ども達の心にも「変化への+One」が表れることを切に臨むところです。

## 柏市学力・学習状況調査の概要及び結果について

実施日 平成28年4月6日（水）～22日（金）の期間中で、各学校が設定した日。

実施校 柏市内小中学校（小学校 42校 中学校 20校）

実施学年及び実施教科等

学校種	学年	人数	実施教科等
小学校	2年	3,614人	2年から6年国語及び算数（2教科） 生活・学習意識調査（柏市独自アンケート） 6年は、社会及び理科を加えた4教科
	3年	3,610人	
	4年	3,490人	
	5年	3,459人	
	6年	3,517人	
中学校	1年	3,251人	国語、数学、社会、理科（4教科） 生活・学習意識調査（柏市独自アンケート）
	2年	3,222人	国語、数学、社会、理科、英語（5教科）
	3年	3,243人	生活・学習意識調査（柏市独自アンケート）

### 柏市学力・学習状況調査内容について

#### 【学力調査事項】

- ・児童生徒の前年度の履修内容を調査。
- ・出題内容は、学習指導要領の評価の観点に基づいて出題。
- ・基礎問題と活用問題で構成されており、活用問題は「思考力・判断力」「表現力」を問う問題で出題。
- ・国語と英語は全学年で聞き取り問題と作文を出題。
- ・記述論述問題を一定量（35～50%）出題し、作図や作文の問題、論理的思考力や考えるプロセスを考慮した問題を出題。

#### 【生活・学習意識調査事項】

- ・学習意欲、学習習慣、生活習慣、学校図書館やICTの活用等に関するアンケート調査。  
小2（一部小4）から中3まで、同一設問で調査。調査項目のうち40項目は、学ぶ意欲と習慣を図る指標として数値化する。

#### 【学力調査分析内容について】

学年・教科別に正答状況を数値で示す。

まず、当該学年教科について、全国の平均正答率と本市の平均正答率を比較し、レーダーチャート図に整理したもので全体傾向を把握できるようにした。

次に、経年変化として、本年度の当該学年教科の平均正答率と、同一児童生徒の1年前のものとの比較、前年度同学年の児童生徒のものとの比較を、レーダーチャート図にまとめております。子供たち自身の成長を把握すると同時に、前年度の子供たちとの比較をし、経年変化を2側面から分析した。

調査結果から把握できる、子供たちの良さ（強み）と課題を示し、良さを伸ばしつつ、課題を克服していくための授業改善について、改善の方向性や具体的指導例を示した。



【生活・学習意識調査について】

学ぶ意欲，学校図書館活用，ICT活用の度合いと，学習状況との比較を行い，よりよい授業改善に資する内容を記載した。

柏市学力状況結果一覧

学年	評価欄説明 ≡ 目標値同等の学力 △ 目標値以上の学力 ▼ 目標値に達せず課題あり	国語					社会					算数/数学					理科					英語									
		基礎		活用			基礎		活用			基礎		活用			基礎		活用			基礎		活用							
				思考・判断力	表現力				思考・判断力	表現力				思考・判断力	表現力				思考・判断力	表現力				思考・判断力	表現力						
小2年	目標値	78.0	82.6	56.3	55.0	57.5						79.2	83.5	62.5	63.6	55.0															
	市町村 平均正答率	80.1	85.6	54.4	53.0	55.8						83.3	88.7	62.0	62.5	58.4															
	全国 平均正答率	81.2	86.5	55.9	54.8	57.0						84.2	89.4	64.2	64.4	62.3															
	評価	≡	≡	≡	≡	≡						≡	△	≡	≡	≡															
小3年	目標値	74.6	77.8	62.0	65.0	57.5						72.0	75.6	53.3	56.3	47.5															
	市町村 平均正答率	79.4	82.5	66.7	71.9	58.8						76.5	80.1	58.0	62.2	49.6															
	全国 平均正答率	79.6	82.8	66.9	72.2	58.9						76.8	80.6	57.6	62.1	48.6															
	評価	≡	≡	≡	△	≡						≡	≡	≡	△	≡															
小4年	目標値	68.0	72.6	47.0	48.3	45.0						67.2	73.4	43.1	45.8	35.0															
	市町村 平均正答率	71.6	76.4	49.7	51.4	47.0						74.7	80.3	53.2	56.4	43.3															
	全国 平均正答率	70.0	74.6	48.7	50.6	46.0						73.7	79.6	50.9	52.6	45.7															
	評価	≡	≡	≡	≡	≡						△	△	△	△	△															
小5年	目標値	68.4	71.3	55.0	60.0	47.5						63.9	66.9	48.3	50.0	45.0															
	市町村 平均正答率	74.9	78.6	57.3	62.7	49.1						69.2	71.9	54.4	54.0	55.2															
	全国 平均正答率	73.4	77.0	56.0	60.8	48.9						70.8	73.5	56.3	56.4	56.1															
	評価	△	△	≡	≡	≡						△	△	△	≡	△															
小6年	目標値	68.1	72.1	49.0	53.3	42.5	66.4	69.6	49.0	50.0	47.5	63.3	68.1	42.1	48.0	27.5	69.5	72.8	59.4	55.8	70.0										
	市町村 平均正答率	72.9	77.5	50.5	55.0	43.7	66.8	69.8	50.7	53.0	47.4	67.4	72.3	45.6	52.8	27.5	71.0	75.0	58.6	55.7	67.5										
	全国 平均正答率	74.4	79.0	52.2	57.2	44.7	70.0	73.0	53.7	55.3	51.3	69.2	74.1	47.3	54.5	29.2	73.1	76.4	62.8	57.9	77.4										
	評価	≡	△	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡										
中1年	目標値	66.2	69.8	54.3	60.0	40.0	60.7	63.0	50.0	54.0	30.0	67.1	68.1	61.7	70.0	45.0	63.3	65.6	55.0	53.8	56.7										
	市町村 平均正答率	69.6	73.4	57.1	63.2	41.8	60.8	64.2	45.0	49.6	21.8	68.4	68.7	66.9	77.9	45.0	64.6	67.1	55.4	58.0	52.0										
	全国 平均正答率	68.7	72.5	56.2	61.9	41.7	60.6	64.1	44.0	48.6	20.9	68.6	69.2	65.9	76.6	44.5	64.2	66.5	55.4	57.4	52.9										
	評価	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	▼	≡	▼	≡	≡	△	△	≡	≡	≡	≡	≡	≡										
中2年	目標値	69.2	71.6	60.7	63.0	55.0	51.1	52.9	42.0	38.3	47.5	58.2	61.8	44.4	48.3	32.5	56.4	60.3	41.9	41.7	42.5	58.6	64.4	44.0	58.8	34.2					
	市町村 平均正答率	70.8	72.7	64.1	67.0	56.9	53.2	53.3	52.5	47.5	60.0	60.3	64.1	46.1	50.5	33.0	55.7	60.1	39.7	41.5	34.2	61.7	65.8	51.5	64.0	43.2					
	全国 平均正答率	70.9	73.0	63.4	66.5	55.9	53.3	54.0	49.6	45.7	55.6	59.6	63.6	44.5	48.3	33.1	55.7	60.1	39.7	41.1	35.8	59.8	64.1	48.8	62.8	39.4					
	評価	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	△	△	△	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	▼	≡	≡	△	△	△					
中3年	目標値	65.0	68.5	52.1	46.0	67.5	53.7	56.3	40.0	40.0	40.0	56.4	59.4	40.8	42.5	37.5	54.7	57.6	45.6	46.7	43.3	57.6	63.8	42.0	52.5	35.0					
	市町村 平均正答率	67.2	70.9	53.3	45.2	73.6	52.9	55.4	39.9	34.3	48.4	56.5	59.9	39.0	39.3	38.6	53.3	56.3	43.6	46.0	38.7	59.7	64.8	46.5	58.9	38.0					
	全国 平均正答率	68.2	71.4	56.2	48.2	76.2	54.1	56.7	40.5	37.4	45.2	57.6	61.0	40.0	39.5	41.1	53.9	57.2	43.2	45.0	39.6	59.4	64.8	46.0	59.3	37.2					
	評価	≡	≡	≡	≡	△	≡	≡	≡	▼	△	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	△	≡					

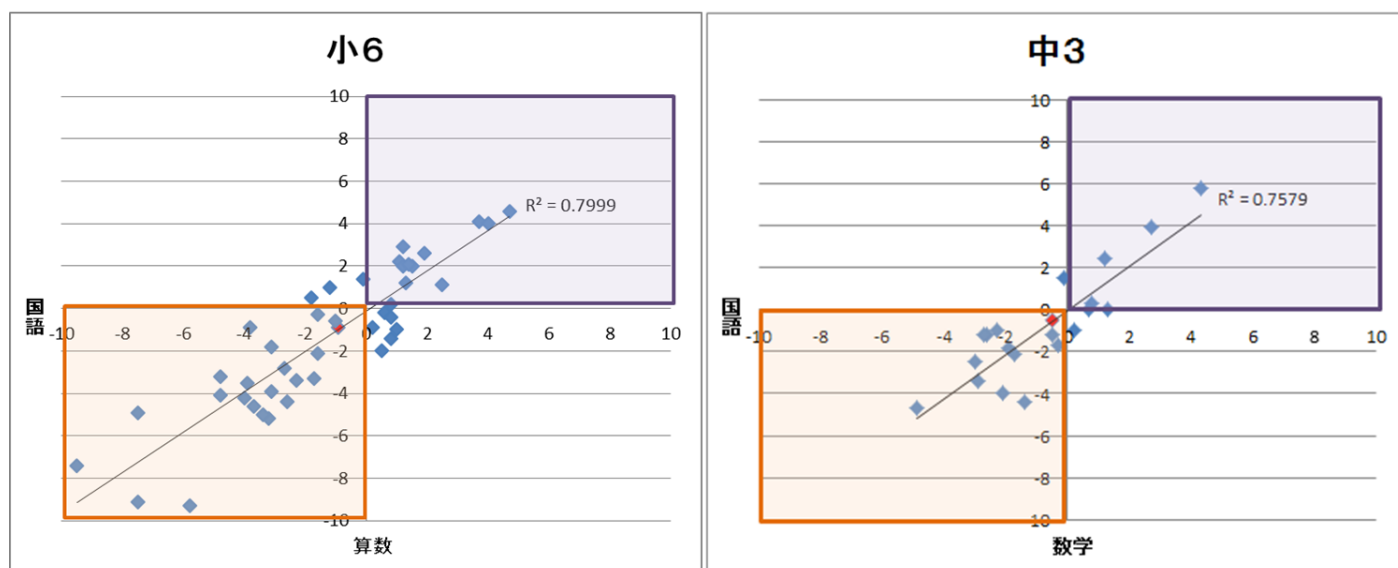
【目標値とは、問題作成時に十分に学力が備わっている状況として設定され、統計的に処理されている期待値】

学年別に見ると、小学校は、全学年が全国とほぼ同程度で、良好な状況である。特に小学4年生に日ごろの指導の成果が表れている。中学校も、全学年が全国とほぼ同程度で、良好な状況といえる。特に2年生に日ごろの指導の成果が表れている。

教科別に見ると、小学校は、全教科が全国とほぼ同程度で、良好な状況である。特に国語に日ごろの指導の成果が表れている。中学校も、全教科が全国とほぼ同程度で、良好な状況である。特に、英語は5年連続して良い結果が見られる。

ただし、学校ごとに差が大きい状況にある。下図は、小学校6年と中学校3年の結果について、縦軸を算数・数学、横軸を国語として、標準スコアとの差を表したものである。中心が、全国標準となり、右上に位置する学校は、どちらの教科でも標準スコアを上回っている、良好な結果となる。反対に、左下に位置する学校は、どちらの教科でも標準スコアを下回っている、課題がある結果となる。小学校6年、中学校3年共にばらつきがあり、特に小学校は、その差が大きい。従って、各学校に送付されている結果について、校内で詳細に分析することが重要である。また、分析結果について、中学校区の学校と共有し、中学校区として子供をどう育てるか協議し、授業改善につなげることを期待する。

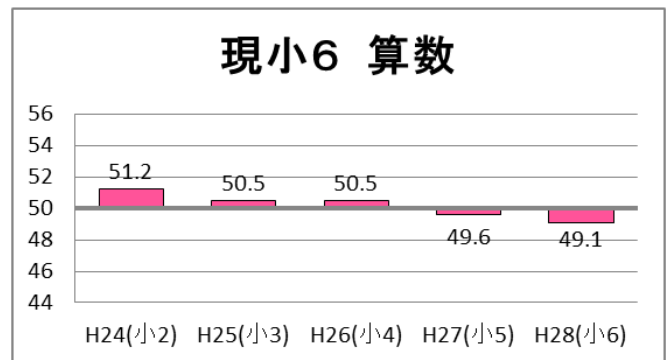
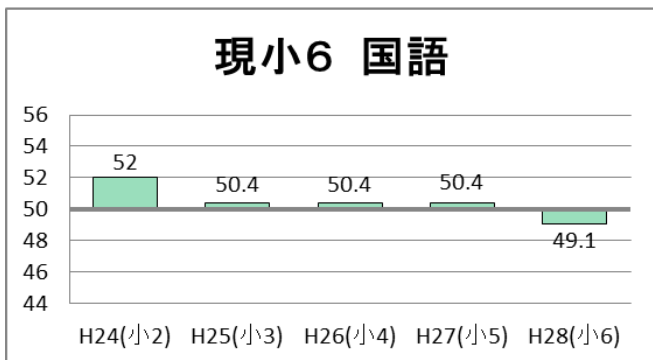
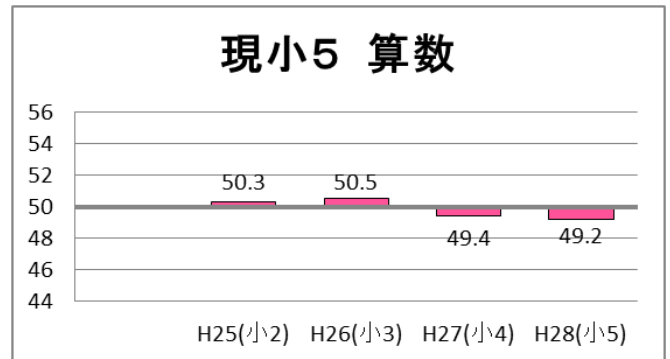
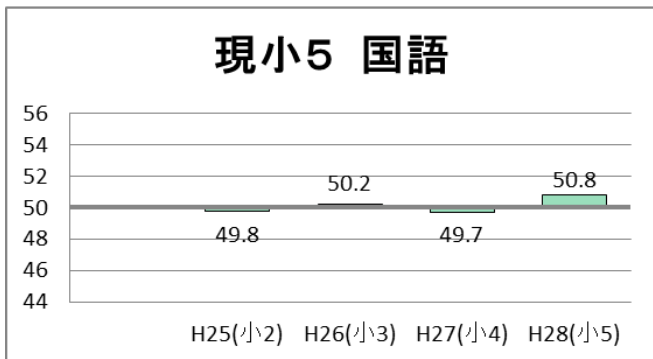
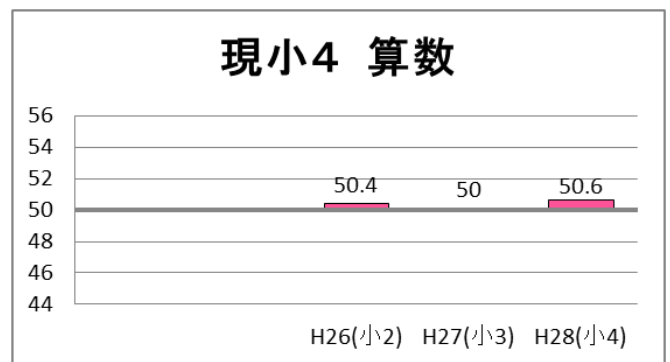
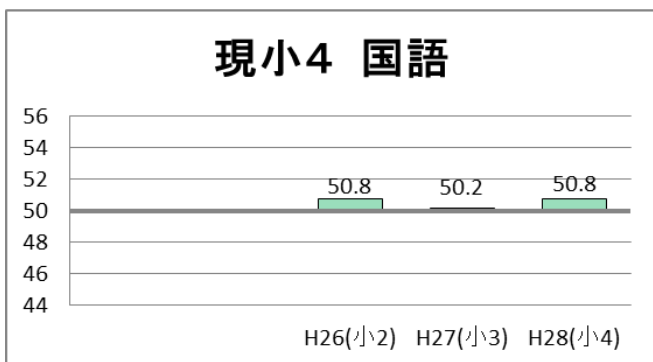
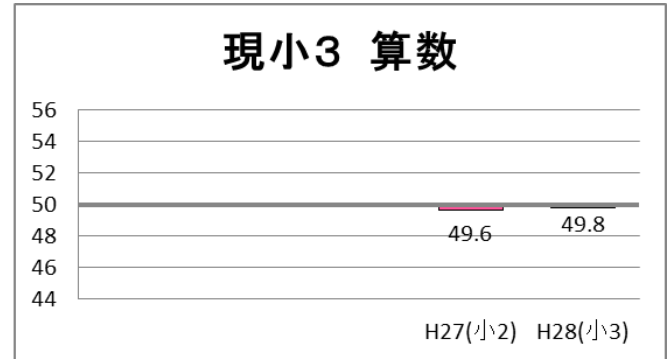
標準スコアとの差による学校の分布（国語-算数/数学）

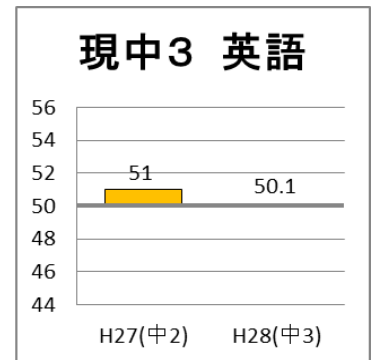
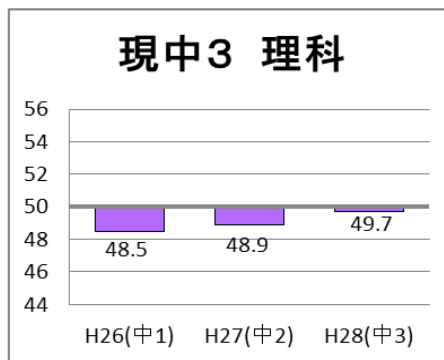
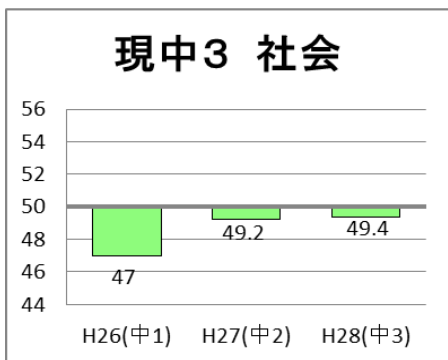
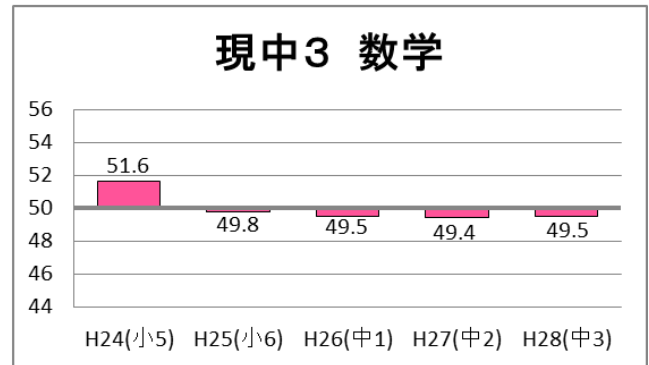
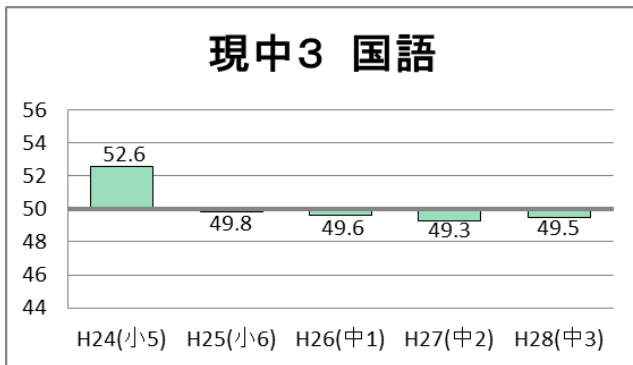
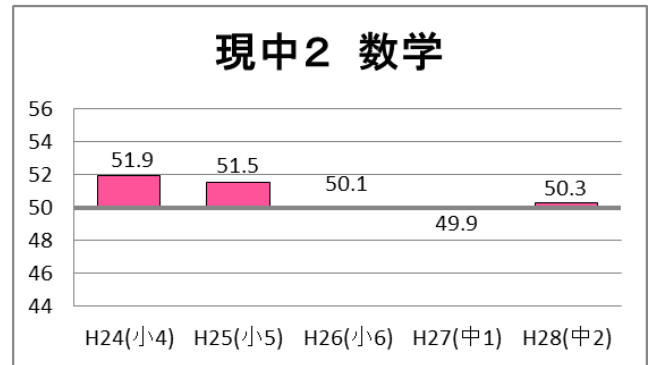
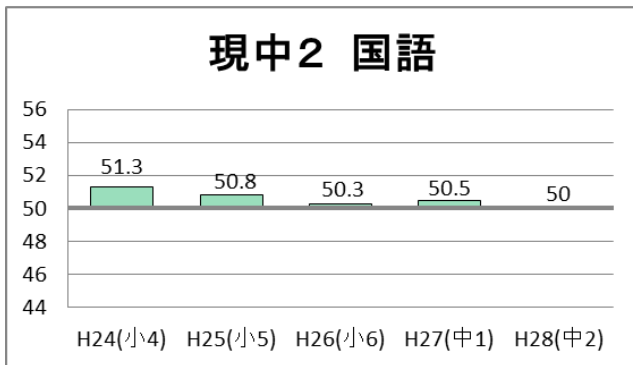
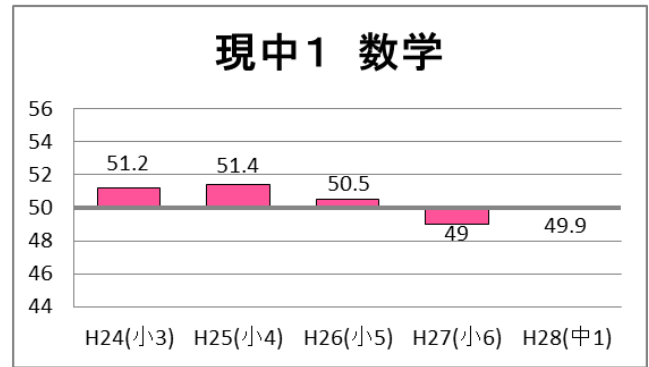
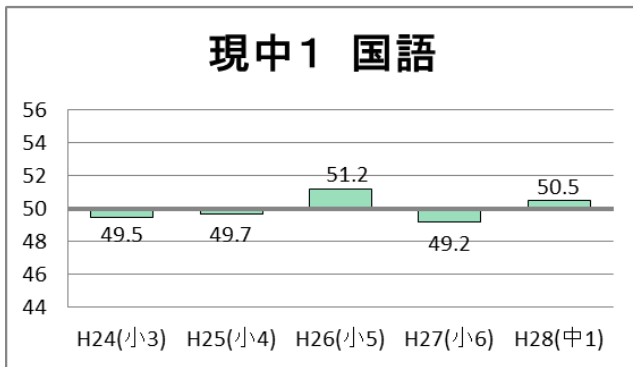


## 過去5年間の学力状況の推移一覧

過去5年間の児童生徒の変化を標準化得点によりグラフ化したものを示す。

【中央の線が標準スコアとなり、良い場合は上向き、劣る場合は下向きに表示】





柏市の同一集団の児童生徒の状況を全国（標準スコア）と比較すると、経年により力が落ちていく集団が見られる。この危機感を柏市全教職員で共有し、児童生徒が意欲を持って学べるよう、授業改善を強く押し進める必要がある。

また、過去5年間共通している現象として、小学5年生時と比べて小学6年生時で柏市全体の標準スコアが下がるという結果が見られる。小学6年生の結果は、小学5年生での学習内容で実施されていることから、その要因は小学5年生での学習状況によるものであると考える。柏市小学5年生の学習内容が定着できていない要因について、学習指導の見

直しはもちろん、児童を取り巻くあらゆる状況について分析し、改善を図ることが急務である。

同一集団における標準スコアの変化（国語-算数/数学）



## 学ぶ意欲と学ぶ習慣を見える化する「4つのC」について

柏市教育委員会では、児童生徒の学力向上において、学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけることが最重要課題であるとしている。

なぜ、意欲と習慣に焦点を当てているのか。

児童生徒が大人として活躍する21世紀中盤から後半の社会は、知識基盤社会と言われ、“正解と言われる解”の無い課題に対して、他者と協力し合いながら最善を尽くし、新たなものを創造する力が求められている。知識を利用しながら定型的な処理をする仕事は、第四の産業革命と言われるロボットの台頭により無くなるだろうと言われ、数多くの仕事が消えて無くなる仕事リストに掲げられ、今の小学生の65%は、現在存在しない職業に就くだろうとも言われている。

このような近未来社会へ向けて「学力」を育む時、「学力」を「学んだ結果」として捉えるのではなく、「学ぶ力」として捉えることが、21世紀を生き抜く為の「学力」の実態に即していると考えられる。そして、この学ぶ力の根底となるものが学ぶ意欲と学ぶ習慣である。

ここに示す4つの力「見通す力（Concept）」「挑戦する力（Challenge）」「関わり合う力（Communication）」「自律する力（Control）」は、変化の激しい時代を生き抜く柏市の児童生徒に身に付けて欲しい力である。即ち「4つのC」＝学ぶ力であり、それは困難に直面したとき乗り越える為に学ぼうとする力であり、生涯学び続ける力である。我々は、日々の学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む教育活動の中で児童生徒の学ぶ力が培われていくものと考えている。

本年度学習状況調査では、児童生徒一人一人の「4つのC」の定着状況を数値化できるよう、全学年共通で40の質問項目を設定した。この数値が62校共通の指標となり、児童生徒の学ぶ力が全校で共有化され、授業改善を図る為の指標となることを目指すものである。

### 学ぶ意欲と学ぶ習慣を支える4つの力（4つのC）はこう決まった

平成25年度第2回調査結果から、学校が好き、国語や算数が好きと回答する児童生徒の方が正答率が高く、学ぶ意欲と正答率の相関関係が認められた。さらに、好きと回答する割合は、小学校高学年から急激に低下し、その低下と正答率の低下にも相関が認められ、学ぶ意欲を持続することが課題であると認識された。

さらに、学ぶ習慣の指標とされる家庭学習時間30分以内と回答する児童生徒が、小学校4年生で50%存在するが、中学校3年でも40.6%存在するという事実を把握し、学ぶ習慣を身につけることの重要性も認識された。

平成26年度第3回調査結果を元に、児童生徒の学ぶ意欲と学ぶ習慣の状況について分析を行った。分析の結果から、中学校区単位で取り組んだり、学校全体の授業改善を通して取り組んだり、組織的に授業における指導改善を行った学校で、一定の効果が見られることがわかった。

このことから、意欲と習慣に関する指標を明確に設定し、校内や中学校区において共通目標を持って取り組めるようにすることが重要であることがわかった。そこで、これからの子供たちに必要な力を、学校管理職・学校教職員・市役所事務系職員・指導主事・管理主事等総勢50名近くにより、複数回のブレインストーミングを通して抽出されたキーワードが、「見通す力」「挑戦する力」「関わり合う力」「自律する力」の4つの力である。

当初、「挑戦する力」と「関わり合う力」の2つを意欲、「見通す力」と「自律する力」の2つを習慣とする考えもあったが、4つの力それぞれに、意欲的に取り組むことと、習慣化することの両面があるとの結論に至り、4つの力ごとに「意欲」に関する質問項目と「習慣」に関する質問項目を5項目ずつ設定して、計40項目を評価指標とした。

## 4つの力（4つのC）質問項目一覧

4つのC	見出し	番号	小学校2～4年生用	小学5年生～中学校1年生用	中学校2・3年生用	
コンセプト	意欲	夢・目標	1	しょうらいのゆめはありますか。	将来の夢や目標を持っていますか。	将来の夢や目標を持っていますか。
		計画	4	きまった時間にしゅくだいをして していますか。	ものごとに取り組む時、計画を立て て取り組んでいますか。	物事に取り組む時、計画を立てて取 り組んでいますか。
		計画の見直し	5	やろうとしたことがうまくいかなかったと き、べつのやりかたをかながえますか。	ものごとが計画的に進まない時、計 画の見直しをしていますか。	物事が計画的に進まない時、計画の 見直しをしていますか。
		地域社会 への関心	28	テレビのニュースを見ています か。	地域・社会で起こっているできごとやニ ュースに関心がありますか。	地域・社会で起こっているできごと やニュースに関心がありますか。
		地域社会 への貢献	27	学校でべんきょうしたことを、だれかのた めにやくだてたいとおもいますか。	学校で学んだことを、地域や社会のため に役立てたいと思いますか。	学校で学んだことを、地域や社会の ために役立てたいと思いますか。
	見通す力	学習のめ あて	6	めあてをかながえながらべんき ょうをしていますか。	めあてや学習課題を意識して授業 に参加していますか。	めあてや学習課題を意識して授業 に参加していますか。
		予想	7	もんだいをとくときに、よそを たてていますか。	課題に対して予想を立てて勉強し ていますか。	課題に対して予想を立てて勉強し ていますか。
		本・ICT 活用	8	本でしらべることがすぎですか。	課題を解決するために、本やコンピ ュータなどを活用していますか。	課題を解決するために、本やコンピ ュータなどを活用していますか。
		学習方法 （関わり）	15	わからないことがあったとき、人に聞いたり じぶんでしらべたりしていますか。	わからないことがあった時、人に聞いたり 自分で調べたりしていますか。	わからないことがあった時、人に聞いたり 自分で調べたりしていますか。
		学習の振 り返り	20	じゅぎょうのおわりに、まとめや ふりかえりをしていますか。	ものごとに取り組んだ時、まとめや 振り返りをしていますか。	物事に取り組んだ時、まとめや振り 返しをしていますか。
チャレンジ	意欲	学習の目 標	3	ことしのもくひょうはありませ んか。	ものごとに取り組む時、目標を立て て取り組んでいますか。	物事に取り組む時、目標を立てて取 り組んでいますか。
		発見する 喜び	25	べんきょうをして、あたらしいこ とを知ることはいはれしいですか。	学習して新しいことを知ったり、身につ けたりすることはいはれしいですか。	学習して新しいことを知ったり、身につ けたりすることはいはれしいですか。
		困難さへ の挑戦	36	むずかしいことでもちようせん していますか。	難しいことでも、失敗をおそれない で挑戦していますか。	難しいことでも、失敗をおそれない で挑戦していますか。
		粘り強さ	37	こまったときに、あきらめずにいろ いろなやり方をかながえていますか。	困難に直面しても、あきらめずにいろ いろな方法を考えていますか。	困難に直面しても、あきらめずにい ろいろな方法を考えていますか。
		承認経験	41	友だちからほめられてうれし かったことはありますか。	友だちから認められてうれし かったことはありますか。	友だちから認められてうれし かったことはありますか。
挑戦する力	習慣	夢・目標 への努力	2	そのゆめにむかってがんば っていますか。	将来の夢や目標に近づくために努 力していますか。	将来の夢や目標に近づくために努 力していますか。
		ノートの 工夫	16	ていねいにノートを書いていま すか。	ノートの取り方について、自分 なりの工夫をしていますか。	ノートの取り方について、自分 なりの工夫をしていますか。
		間違いの 見直し	22	テストでまちがえた問 いは、あとでやりなおして いますか。	テストでまちがえた問題は、後 でやり直していますか。	テストでまちがえた問題は、後 でやり直していますか。
		学びの活 用	26	学校でべんきょうしたことを、い えでの生活に生かそうと していますか。	学校で学んだことを、普通の生活 に生かそうと考えていますか。	学校で学んだことを、普通の生活 に生かそうと考えていますか。
		読書習慣	23	すすんで本を読んでいます か。	進んで本を読んでいます か。	進んで本を読んでいます か。

コミュニケーション 関わり 合う 力	意欲	地域行事への参加	29	ちいきのぎょうじ（おまつりなど）やボランティアかつどうにさんかしていますか。	地域の行事やボランティア活動に参加しようと思いますか。	地域の行事やボランティア活動に参加しようと思いますか。
		思いやり（意欲）	38	人の気もちがわかる人になりたいと思いますか。	人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか。	人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか。
		傾聴（意欲）	17	話し合いをする時、友だちの話をしっかりと聞いていますか。	話し合いをする時、相手の考えをしっかりと聞きたいと思いますか。	話し合いをする時、相手の考えをしっかりと聞きたいと思いますか。
		あいさつ	30	じぶんから先にあいさつしていますか。	自分から先にあいさつするところをこころがけていますか。	自分から先にあいさつするところをこころがけていますか。
		積極的な発言	18	話し合いをする時、じぶんの思ったことやかんがえたことをすすんで話していますか。	話し合いをする時、自分の意見を積極的に発言しようと思いますか。	話し合いをする時、自分の意見を積極的に発言しようと思いますか。
	習慣	家庭での会話	31	いえの人と学校のできごとについて話をしていますか。	家の人と学校のできごとについて話をしていますか。	家の人と学校のできごとについて話をしていますか。
		傾聴（習慣）	44	先生や友だちのはなしをよく聞いていますか。	先生や友だちの話をよく聞いていますか。	先生や友だちの話をよく聞いていますか。
		思いやり（習慣）	45	学校で、友だちの気もちを考えてこうどうしていますか。	普段の生活の中で、相手の立場を考えて行動していますか。	普段の生活の中で、相手の立場を考えて行動していますか。
		仲間づくり	46	友だちになりたいとおもった時、じぶんから声をかけていますか。	友だちになりたいと思った時、自分から声をかけていますか。	友達になりたいと思った時、自分から声をかけていますか。
		意思表示	49	先生や友だちにいいたいことをうまくはなすことはできますか。	先生や友だちに伝えたいことをうまく伝えることはできますか。	先生や友だちに伝えたいことをうまく伝えることはできますか。
コントロール 自律する 力	意欲	貢献意欲	39	しょうらい人のやくに立つ人になりたいと思いますか。	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
		自己肯定感	40	じぶんによいところがあるとおもいますか。	自分に良いところがあると思いますか。	自分に良いところがあると思いますか。
		授業への集中	19	じゅぎょうにしゅう中していますか。	集中して授業に取り組んでいますか。	集中して授業に取り組んでいますか。
		がんばっていること	51	学校生活でがんばっていることはありますか。	学校生活で打ち込めるもの、がんばっていることはありますか。	学校生活で打ち込めるもの、がんばっていることはありますか。
		運動への意欲	52	体をうごかすこと（うんどう・スポーツ・外あそびなど）はすきですか。	体を動かすこと（運動・スポーツ・外遊びなど）は好きですか。	体を動かすこと（運動・スポーツ・外遊びなど）は好きですか。
	習慣	規範意識	42	学校のきまりをまもっていますか。	学校の規則やクラスで決めたことを守っていますか。	学校の規則やクラスで決めたことを守っていますか。
		家庭学習	21	しゅくだいをきちんとやっていますか。	宿題や課題をきちんとやっていますか。	宿題や課題をきちんとやっていますか。
		素直さ	50	じぶんがわるかったとおもうときは、すなおにあやまっていますか。	自分が悪かったと思う時は、すなおにあやまっていますか。	自分が悪かったと思う時は、すなおにあやまっていますか。
		運動習慣	53	体いくのじゅぎょういがいに、すすんで体をうごかしていますか。	体育の授業以外に、積極的に体を動かしていますか。	体育の授業以外に、積極的に体を動かしていますか。
		規則正しい生活	54	まい日おなじくらのじかんにねて、あさはじぶんでおきていますか。	毎日同じくらの時刻に寝て、朝は自分で起きていますか。	毎日同じくらの時刻に寝て、朝は自分で起きていますか。



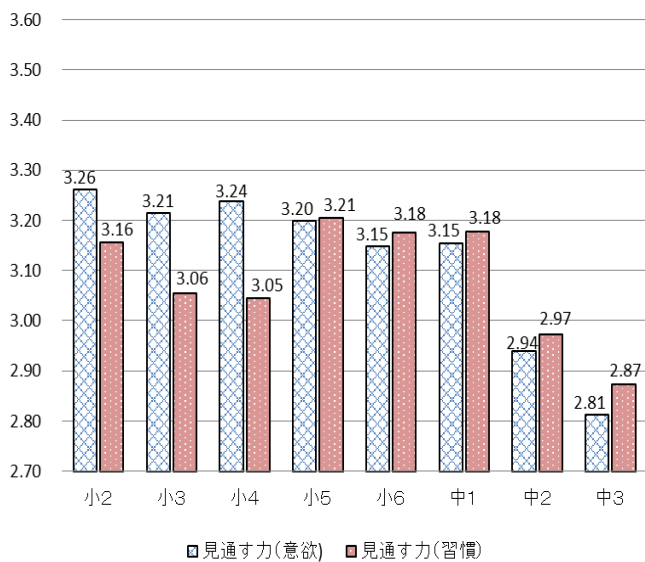
## 4つの力(4つのC)の状況について

柏市全体では、4つの力の総合平均点が昨年度の3.19から3.24に向上している。増加率はわずかであるが、すべての設問で増加していることは、各学校の取り組みの成果である。ただし、学校間における差がみられるので、学校ごとに状況を詳しく分析する必要がある。

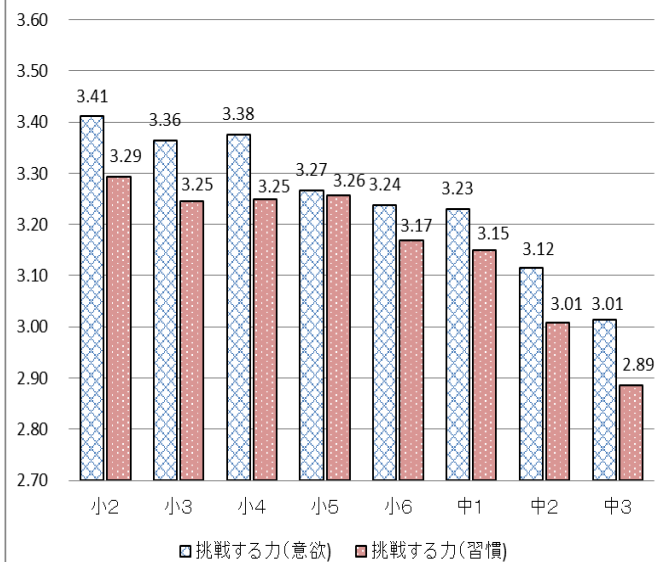
4つのCの中で、コミュニケーション力とコントロール力については、どの学年も、意欲面・習慣面共に比較的好意的回答が多い、一方、コンセプト(見通す力)やチャレンジする力については、意欲と習慣のバランスが整わず、力の認識も低いことが伺われる。

どの項目も中学校に入ると極端に低下する傾向が見られる。同一集団における変容を見ると、中学2年生は昨年度と比べ、「がんばっていること」「運動習慣」を除いた38項目で減少している。特に、「夢・目標」「学習のめあて」の項目の減少率が大きいので、中1ギャップへの対応を含め、学ぶ意欲を高めるための授業改善や教育課程の工夫改善について、検討し、改善の手立てが有効に機能したものについては、共有化を図っていきたい。

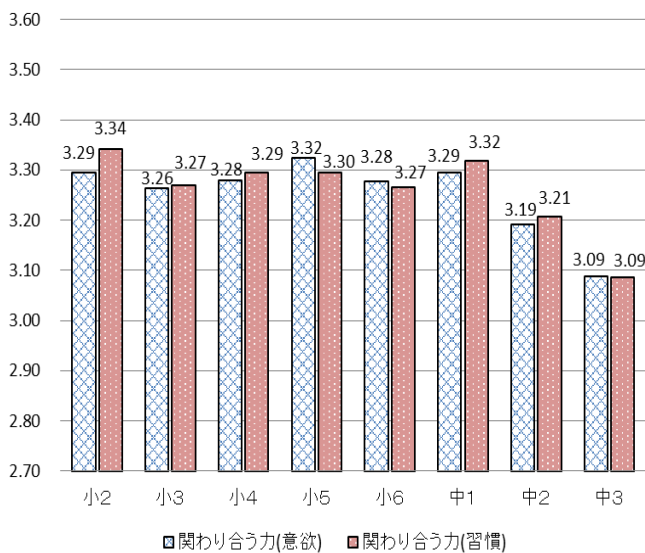
### コンセプト(見通す力) 意欲と習慣



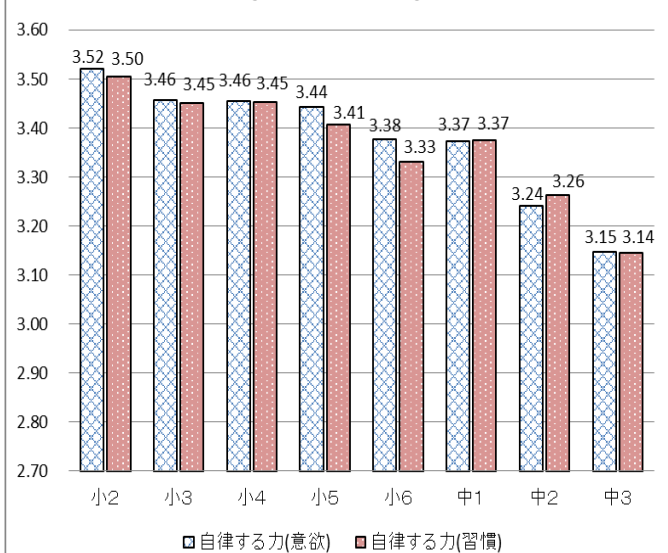
### チャレンジ(挑戦する力) 意欲と習慣



### コミュニケーション(関わり合う力) 意欲と習慣



### コントロール(自律する力) 意欲と習慣



平成 28 年度 生活・学習意識調査 結果一覧表(平成 27 年度と比較して)

	4 C 総 平均	意 欲	習 慣	見通す力		挑戦する力		関わる力		自律する力		
				意 欲	習 慣	意 欲	習 慣	意 欲	習 慣	意 欲	習 慣	
H27	小2	3.30	3.33	3.28	3.22	3.11	3.36	3.26	3.26	3.28	3.47	3.45
	小3	3.29	3.33	3.26	3.22	3.08	3.36	3.26	3.28	3.27	3.44	3.45
	小4	3.29	3.33	3.25	3.22	3.04	3.37	3.22	3.29	3.29	3.45	3.44
	小5	3.27	3.28	3.27	3.16	3.17	3.24	3.24	3.29	3.27	3.43	3.40
	小6	3.22	3.23	3.21	3.12	3.15	3.20	3.15	3.25	3.25	3.35	3.30
	小計	3.28	3.30	3.25	3.19	3.11	3.31	3.23	3.27	3.28	3.43	3.41
	中1	3.25	3.25	3.24	3.13	3.16	3.22	3.15	3.28	3.30	3.36	3.37
	中2	3.03	3.04	3.03	2.86	2.87	3.02	2.95	3.09	3.11	3.18	3.19
	中3	3.02	3.02	3.01	2.82	2.88	3.02	2.90	3.08	3.09	3.17	3.17
	中計	3.10	3.10	3.10	2.94	2.97	3.09	3.00	3.15	3.17	3.24	3.24
小中計	3.19	3.20	3.18	3.06	3.04	3.20	3.11	3.21	3.22	3.33	3.33	
H28	小2	3.35	3.37	3.32	3.26	3.16	3.41	3.29	3.29	3.34	3.52	3.50
	小3	3.29	3.32	3.26	3.21	3.06	3.36	3.25	3.26	3.27	3.46	3.45
	小4	3.30	3.34	3.26	3.24	3.05	3.38	3.25	3.28	3.29	3.46	3.45
	小5	3.30	3.31	3.29	3.20	3.21	3.27	3.26	3.32	3.30	3.44	3.41
	小6	3.25	3.26	3.24	3.15	3.18	3.24	3.17	3.28	3.27	3.38	3.33
	小計	3.30	3.32	3.27	3.21	3.13	3.33	3.24	3.29	3.29	3.45	3.43
	中1	3.26	3.26	3.26	3.15	3.18	3.23	3.15	3.29	3.32	3.37	3.37
	中2	3.12	3.12	3.11	2.94	2.97	3.12	3.01	3.19	3.21	3.24	3.26
	中3	3.01	3.02	3.00	2.81	2.87	3.01	2.89	3.09	3.09	3.15	3.14
	中計	3.13	3.13	3.12	2.97	3.01	3.12	3.02	3.19	3.20	3.25	3.26
小中計	3.24	3.25	3.22	3.13	3.09	3.26	3.16	3.25	3.26	3.38	3.37	

#### 4つの力（4つのC）を活用する授業改善について

##### （1）効果的な実践を共有する

「学ぶ意欲と学ぶ習慣」を見える化する「4つのC」の改善に取り組むことは、結果として子供たちに学ぶ力を育成することとなり、柏市が目指す学力の育成に繋がると考えている。

4つのCに関する質問は、小学校2年生から中学校3年生まで共通内容で実施した。（文言は年齢相応に変更）これは、課題を共有化し、効果のある実践を共有化することにつながるように意図して行っていることである。各学校・各学級の課題解決に向けた取り組みが、オール柏の実践に反映していけることを理想に掲げ、お互いの実践交流が頻繁に行われることを期待している。

##### （2）指標を生かした授業改善マネジメントを進める

課題とは、目指す姿と現状との差のことを指す。

自校の課題を明確にするために、4つのCの指標を活用し、目指す子供の姿と現状を把握した上で取り組めるよう、次のような手立てを講じるよう努めたい。

###### ① 子供たちの今の姿（現状）を共有する

学習状況調査の4つのCのデータから、課題は何か、自校の強みと弱み等を分析し全職員（事務やサポート・図書館・理科等の人材も含むと良い）で共有化を図る。

###### ② 目指す子供の姿の共有化

課題（現状と目指す姿との差）が明確になったら、全職員によるワークショップ型研修により、自校の子供たちに付けたい力を出し合い、共通理解を深めながら最も力を入れて取り組む内容（指標の質問項目）を1～3点程度に定め、全職員で共有する。

###### ③ 課題解決に向けた実践の手立てを共有する

最も力を入れて取り組む内容（指標の質問項目）が定まったら、この力を育むために

授業の中で何に留意し、どう取り組むか（教科・学年ごとに）の方針を立て実践する。また、学校生活や学校行事の中でどう取り組むかを共通理解する。これらの取組の中で効果的な手立てがあれば実践の共有化を図る。

④ 子供たちの姿を見取りながら実践を深める

柏市学力学習状況調査は年1回であるが、学ぶ意欲と習慣を育む為の日々の実践が重要である。課題に偏ることなく、指標となる項目をもとに、子供たちの意識の変化や指導の効果を検証し、子供たちの現状を見取りながら実践を進めることが大事である。授業改善が子供たちの学ぶ力の育成に繋がった時、成就感や達成感とともに、組織としての一体感を得ることができる。

(3) 家庭や地域との連携に生かす

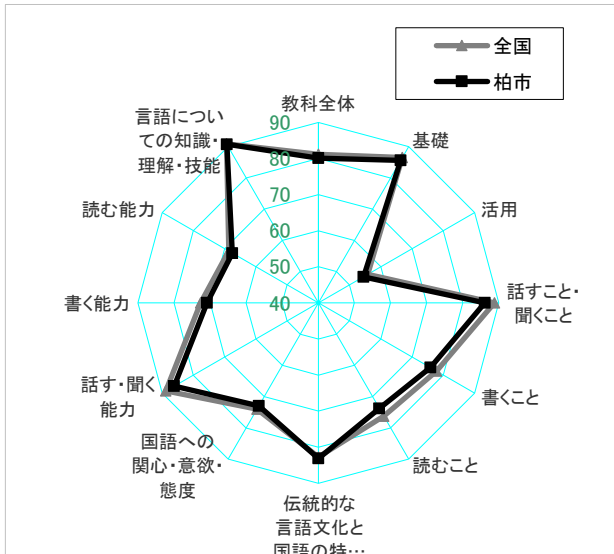
指標から自校の課題を明確にして、全職員で共通実践を行うと同時に、家庭や地域の協力が必要な項目について1～2点程度選び、家庭や地域に具体的に協力を依頼することも大事である。教育ミニ集会等のテーマとして、全職員で行ったようなワークショップを実施して、参加者みんな決めて、参加者みんなで活動することにより、マネジメントサイクルを生かした取組が実施できる。

(4) 強みを生かし、重点的に取り組む

学校教育目標に照らし、4つのCに現れる子供たちの実態の中から、強み（得点が高いもの）を生かしながら、弱みを引き上げる工夫を図り、課題となっているもの全てに取り組むといった、総花的な取組みにならないよう留意したい。

# 小学 2年 国語

## 1. 全体傾向

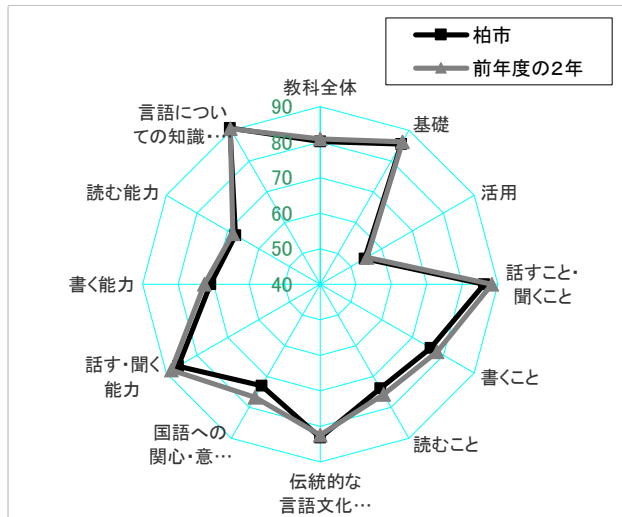
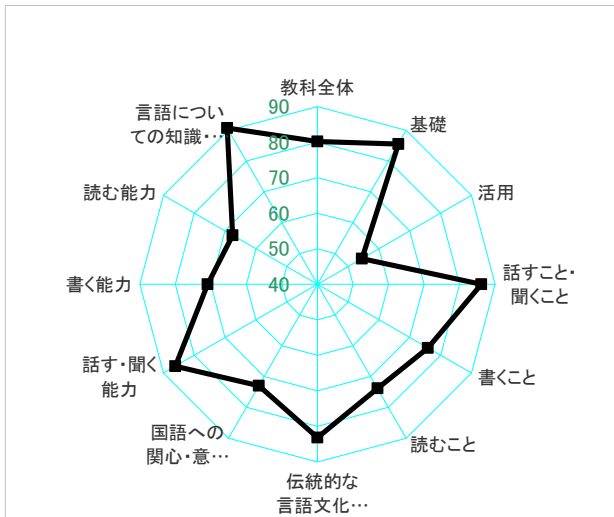


全国とほぼ同程度で良好。

領域別にみると、「話すこと・聞くこと」「読むこと」が、全国平均正答率と比べて2ポイント以上、下回った。

問題別では、23問中、全国正答率より3ポイント以上、下回ったのは、4問である。特に、「話題に沿った質問をすることができるか」を問う設問は7ポイント下回り課題である。「与えられた情報から、例にならって文を書くことができるか」を問う設問は、全国正答率より上回った。

## 2. 経年変化



第1学年未実施

前年度の2年生の傾向とほぼ一致している。国語への関心・意欲・態度が前年度より下回った。

## 3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

○平均正答率が80.1ポイントであることから、今回出題された学習内容については、概ね身につけていると考えられる。また、「与えられた情報を読み取り、例にならって文を書くことができる」ことを問う設問の正答率が前年度より大きく上回っており、全国平均正答率と比べても高いことから、現小学2年生の強みと言える。

●「話を聞き取ること」「読み取る」にやや課題がみられる。特に、「場面の様子の読み取り」は、全国平均正答率より、約3～4ポイント下回っており、昨年度と比べても低い。また、「読み取ったことから文を書く」の記述問題の無回答率が、20パーセントを超えることから、「読み取り」が現小学2年生の弱みと言える。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名 お話を読んで, しょうかいしよう『アレクサンダとぜんまいねずみ』

—— 「レオ＝レオニ展」を開こう ——

【参考】『小学校国語科映像資料 ～言語活動の充実を図った「読むこと」の授業づくり～』

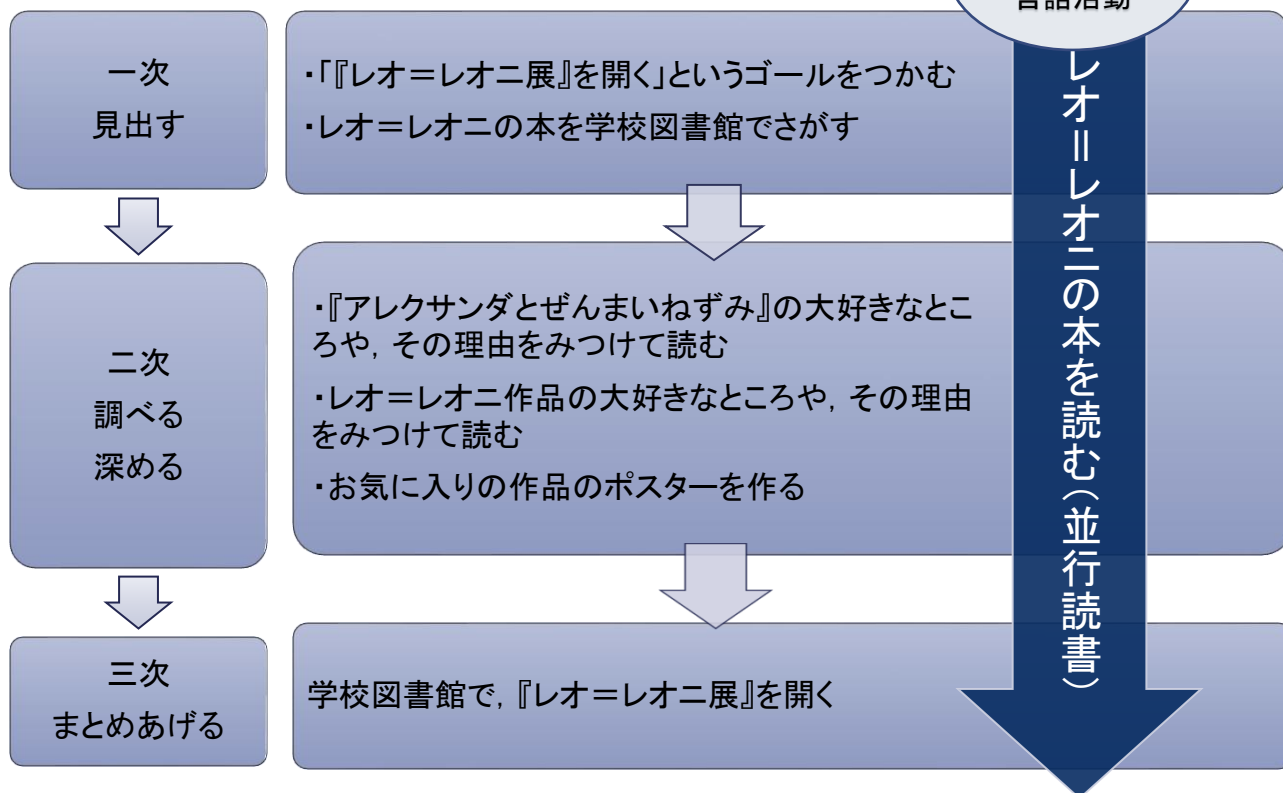
(2) つけたい力

楽しんだり知識を得たりするために, 本や文章を選んで読むこと。(C 読むことー力)

(3) つけたい力に合った言語活動

レオ＝レオニの本を読む(並行読書)

(4) 単元の構想(例)



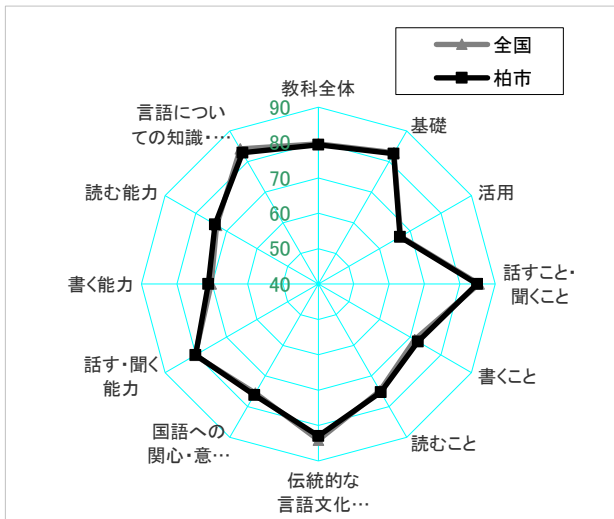
友だちの作ったポスターを見合い, 意見を述べ合う

#### 指導のポイント!

低学年の児童は, 「お気に入り」や「ひみつ見つけ」が大好きです。大好きを見つけ, そのわけを書いたポスターを作って, 「レオ＝レオニ展」を開きます。1年生を楽しませる, 参観日に保護者に見てもらおうなど, 相手意識を持たせるとなおよいでしょう。レオ＝レオニの本を探すときは, 学校図書館指導員に支援を頼みましょう。

# 小学 3年 国語

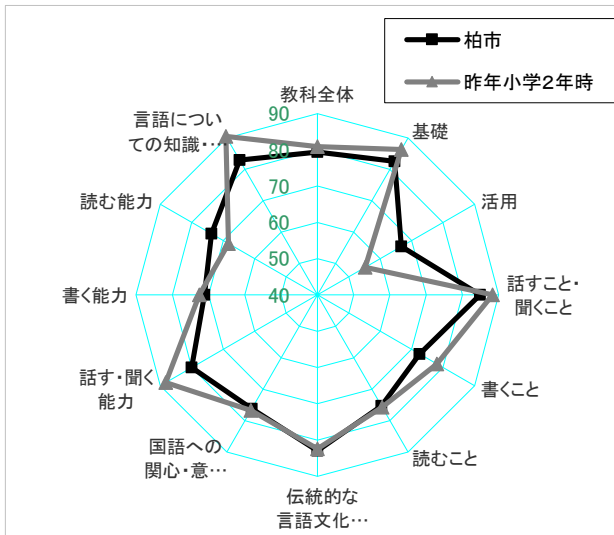
## 1. 全体傾向



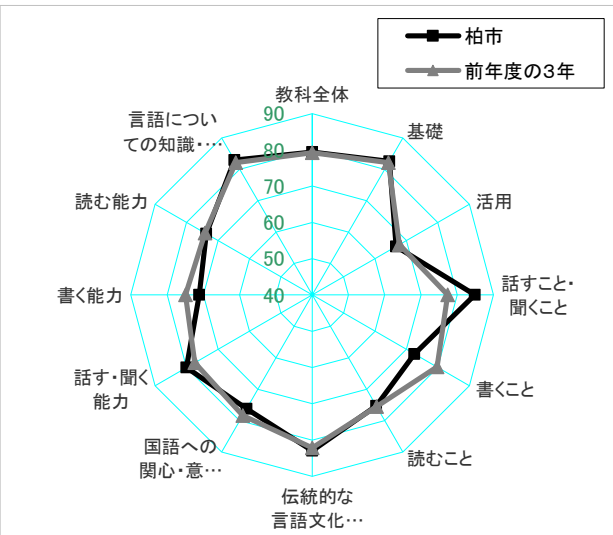
全国とほぼ同等で良好。

問題別にみると、「漢字を読む・書く」の設問で、全国の平均正答率を約8ポイント下回る漢字があり、漢字の定着に課題がみられた。

## 2. 経年変化



現小学3年生は、2年生時と比較すると、「活用問題」が10ポイント以上、上回った。領域では、「書くこと」が5ポイント強、下回った。国語への関心・意欲は、昨年同様である。



前年度の3年生の国語の能力について比較すると、ほぼ同等であるが、「書く能力」がやや下回った。問題別では、「カードをもとに文章を書く」設問は、前年度より3ポイント以上、下回った。「漢字を書く」設問は、全国より正答率は低いが、前年度より上回ってきている。

## 3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

○平均正答率が79.4ポイントであることから、国語科でつけるべき力がバランスよく身についていると考えられる。3年生の強みである。

●「漢字の読み書き」では、全国と比較して、正答率が約8ポイント低い漢字もあり、課題である。記述式のどの問題も、約14%の児童が無回答である。「書くこと」の領域が弱みである。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名 物語のおもしろいところをしょうかいしよう 『モチモチの木』

—— 「イチおしフリップ」で, 大好きな登場人物を紹介しよう ——

【参考】『小学校国語科映像資料 ～言語活動の充実を図った「読むこと」の授業づくり～』

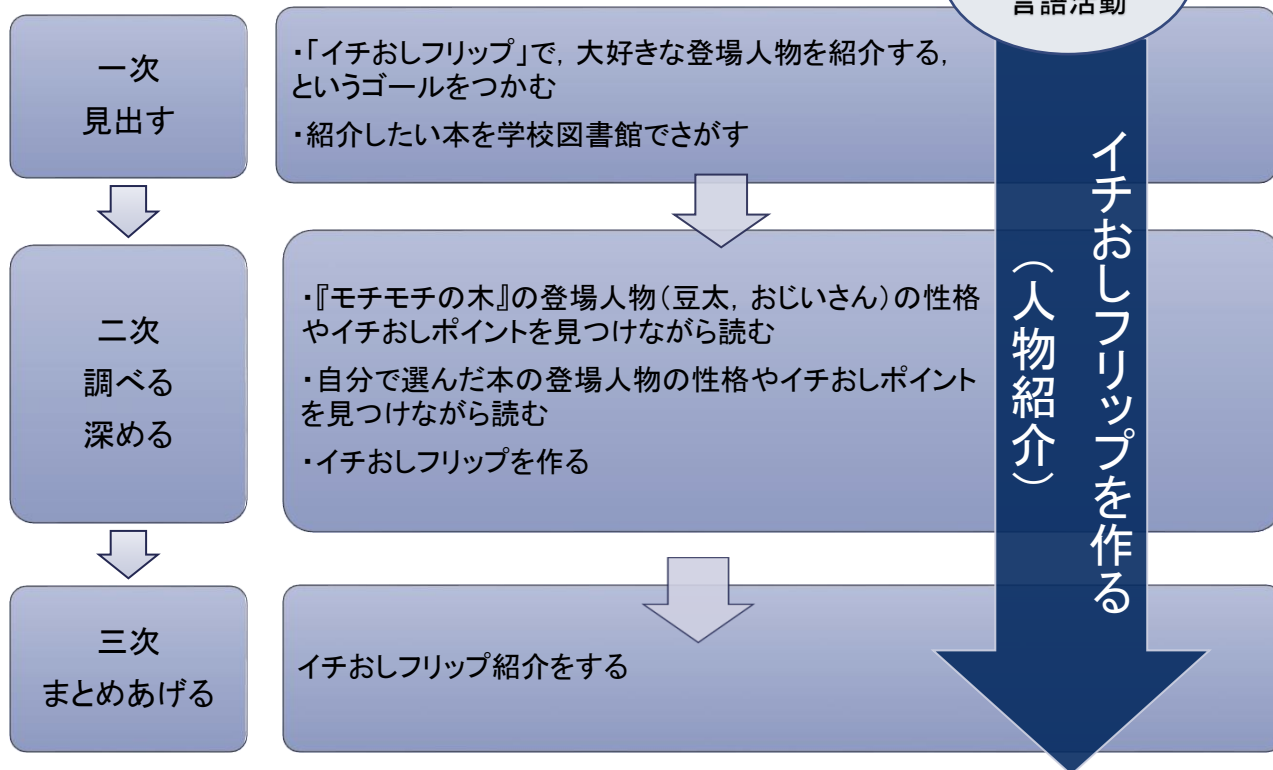
(2) つけたい力

場面の移り変わりに注意しながら, 登場人物の性格や気持ちの変化, 情景などについて, 叙述を基に想像して読むこと。(C 読むことーウ)

(3) つけたい力に合った言語活動

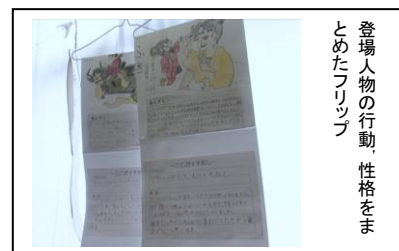
イチおしフリップを作る(人物紹介)

(4) 単元の構想(例)



指導のポイント!

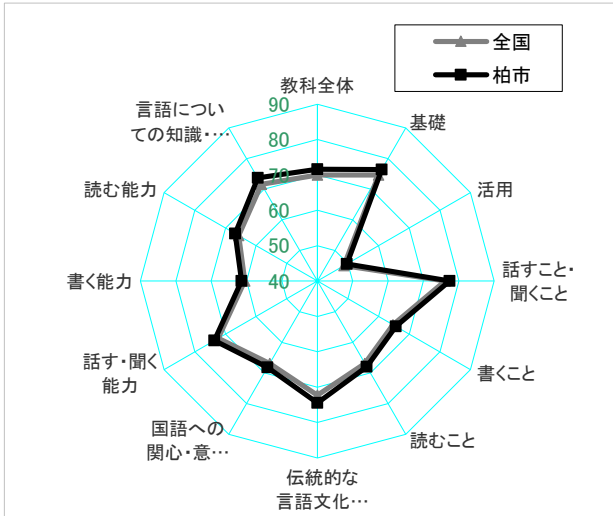
自分が選んだお話の登場人物を紹介する, という目的を子どもにもたせて, 物語を読ませます。自然と, あらすじや登場人物の行動, 性格, 気持ちの変化などに注目していきます。弱みである「書くこと」につなげるため, ここでは「イチおしフリップ」を取り上げましたが, まとめ方はどのような形でもよいでしょう。





# 小学 4年 国語

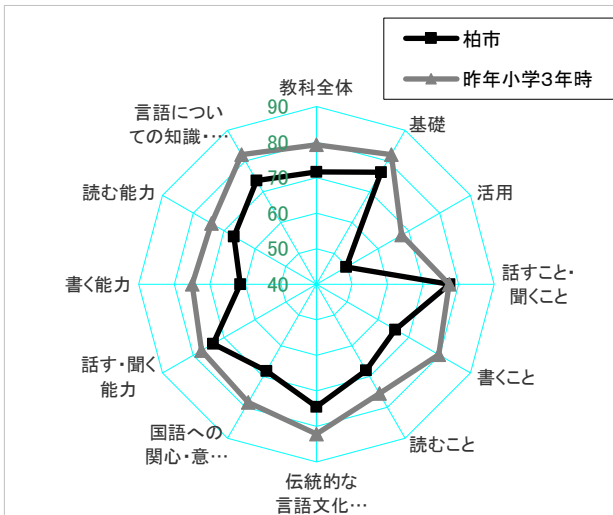
## 1. 全体傾向



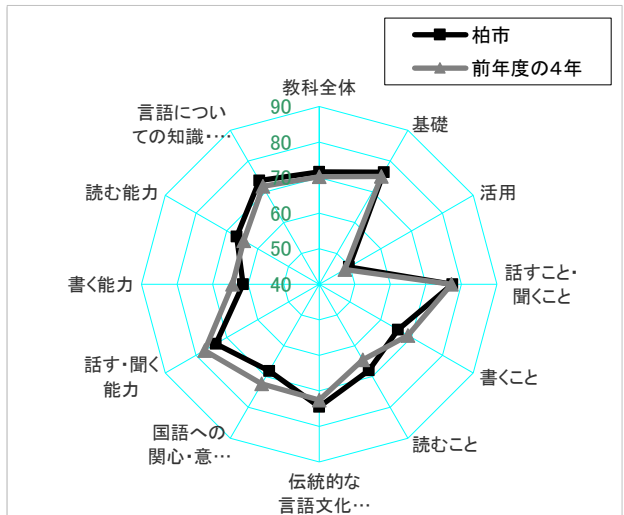
全国よりやや上回っており良好。

問題別にみると、「漢字を書く」設問が、全国正答率を大きく上回っている。

## 2. 経年変化



現小学4年生は、3年生時と比較すると、全体的に下回っている。問題の傾向によるものであると考えられるが、「活用問題」が大きく下回っている。



前年度の4年生の国語の能力について比較すると、やや下回っている。しかし、問題別では、「漢字を書くこと」「ローマ字を書くこと」の正答率向上や記述問題の無回答率減少がみられ、改善されている。「文法」については、昨年度より8ポイント下回っており、課題がみられた。

## 3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

- 「読むこと」については、説明文においても、物語文においても、全国正答率を上回っており、4年生の強みである。「漢字」や「ローマ字」の習得が向上しており、学習成果が出てきている。
- 文法問題に課題がみられる。記述式の問題について、昨年度より改善されているが、どの問題も約13パーセントと高く、課題がみられる。



#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名 想像を広げて日記を書こう『白いぼうし』

—— 松井さんシリーズの不思議を見つけよう ——

【参考】『小学校国語科映像資料 ～言語活動の充実を図った「読むこと」の授業づくり～』

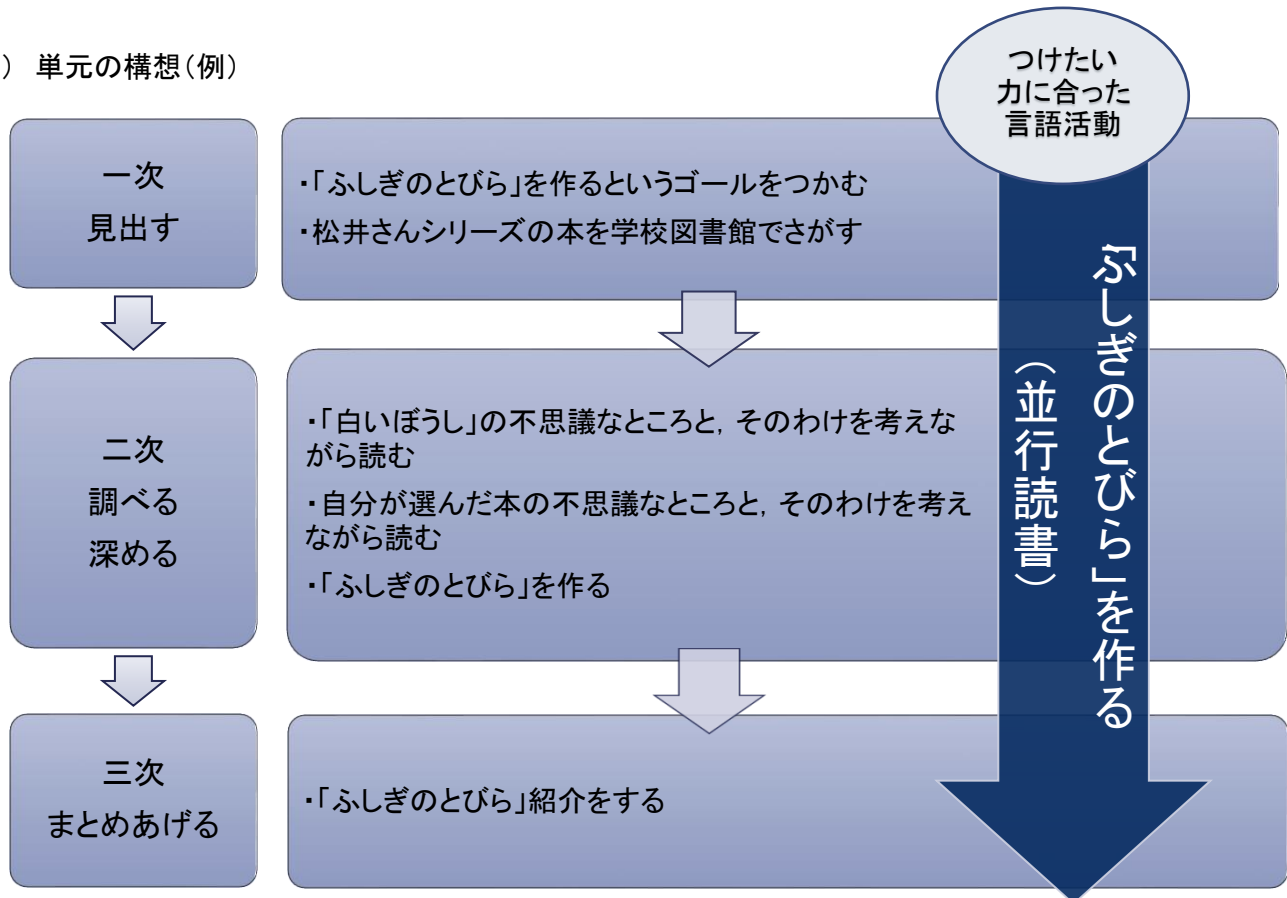
(2) つけたい力

目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。(C 読むこと一カ)

(3) つけたい力に合った言語活動

「ふしぎのとびら」を作る(並行読書)

(4) 単元の構想(例)



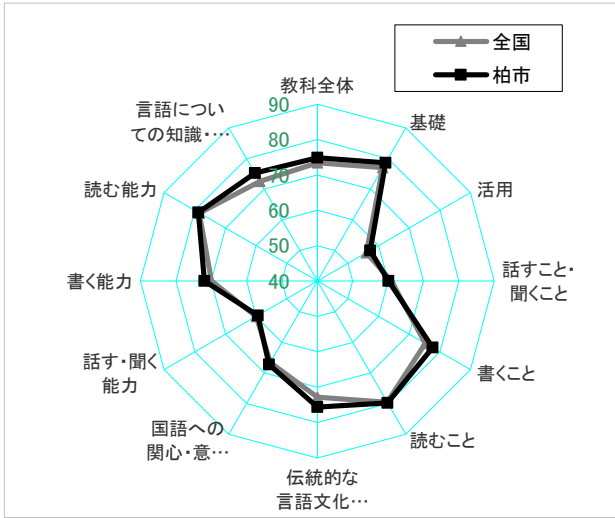
「ふしぎのとびら」をめくりながら、自分が選んだ本の不思議を紹介

#### 指導のポイント！

自分が選んだお話の不思議を見つける、という目的を子どもにもたせて、物語を読ませます。強みである「読むこと」をさらに強める学習です。この学習は、5年『雪わたり』や6年『きつねの窓』など、ファンタジーの読解やお話作りへとつながっていきます。ここでは「ふしぎのとびら」を取り上げましたが、まとめ方はどのような形でもよいでしょう。

# 小学 5年 国語

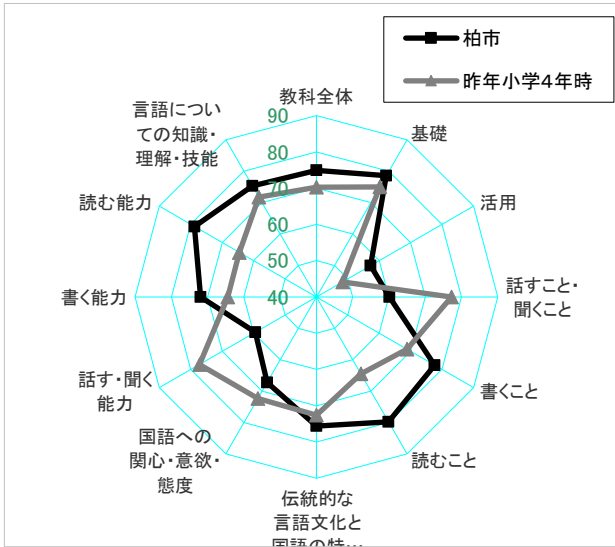
## 1. 全体傾向



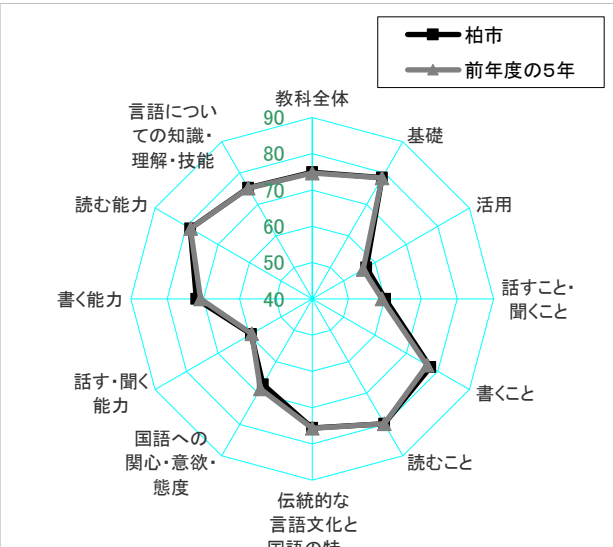
全国よりやや上回っており良好。

問題別にみると、「漢字読む・書く」設問が、全国正答率を大きく上回っている。「作文」も全国を上回っており、良好である。「文法問題」は、10ポイント以上全国を下回っている問題もあり、課題がみられる。

## 2. 経年変化



現小学5年生は、4年生時と比較すると、ほぼ全体的に上回っている。しかし、問題の傾向によるものであると考えられるが、「話す・聞く能力」だけは大きく下回った。



前年度の5年生と比較すると、ほぼ同等である。しかし、問題別では、「漢字を書く読む」「作文」に正答率向上がみられた。「文法問題」は、昨年度より1～8ポイントで全ての問題が下回っており、課題がみられた。

## 3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

○作文の無回答率が低く、2段落構成で、意見と理由を区別して、自分なりの考えを書けることは、5年生の強みである。漢字の定着率が高い。

●文法問題に課題がみられる。知識の習得とともに、読解指導や作文指導の中でも取り上げ、実践的に指導していく必要がある。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名 興味のある人物を紹介しよう 『伊能忠敬』

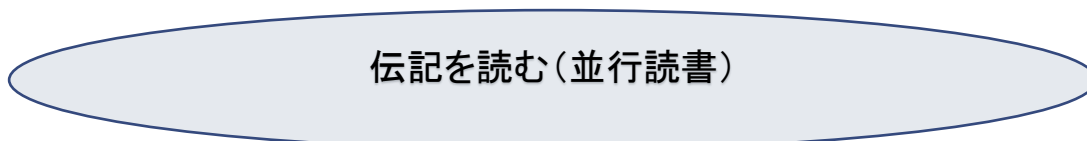
—— 伝記を読んで, 「自分を支える一文」を見つけよう ——

【参考】『小学校国語科映像資料 ～言語活動の充実を図った「読むこと」の授業づくり～』

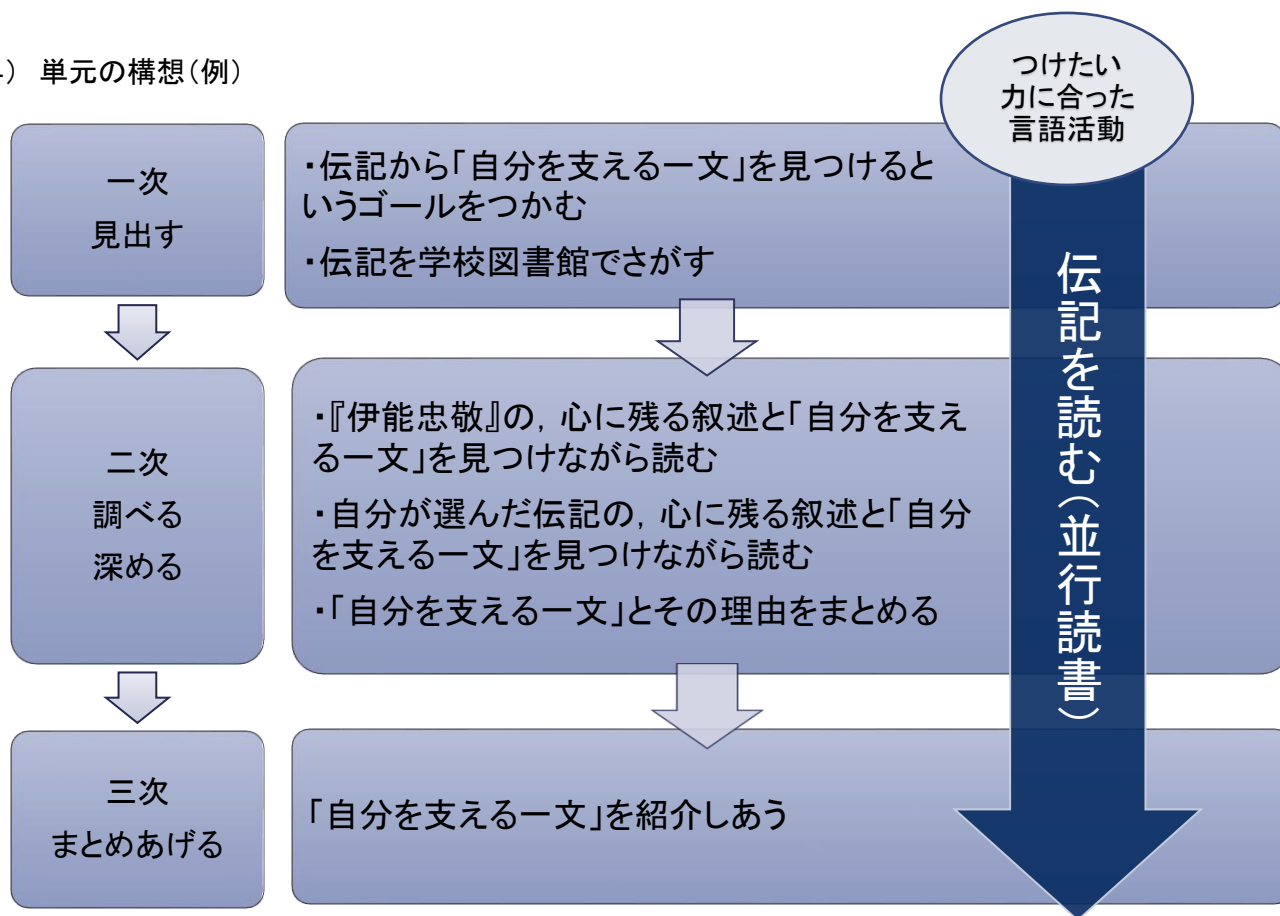
(2) つけたい力

本や文章を読んで考えたことを発表し合い, 自分の考えを広げたり深めたりすること。(C 読むことーオ)

(3) つけたい力に合った言語活動



(4) 単元の構想(例)

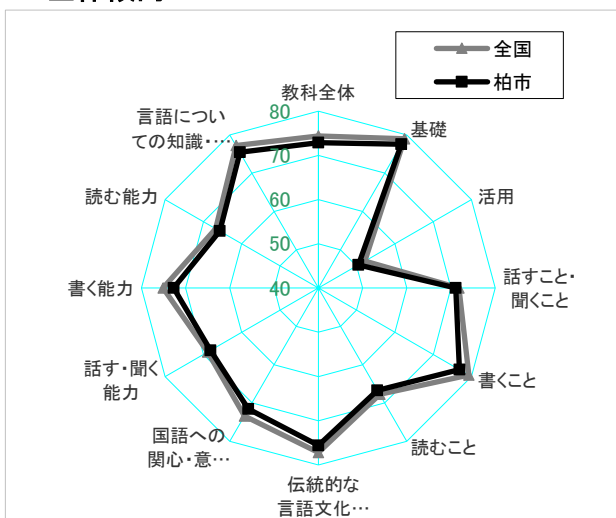


#### 指導のポイント!

読書量を増やすことと, 読書を通じて自分の考えを持たせることを目的とした活動です。強みである「自分の考えを書くこと」にさらに力を入れた内容です。教材文『伊能忠敬』を読むときは, ペア, グループ, 学級など, 様々な人数構成で自由に語り合う時間をとるとよいでしょう。また, 友達の紹介を聞いたら, すぐその伝記を手にとって読むことができるような環境と時間も用意しておきましょう。

## 小学 6年 国語

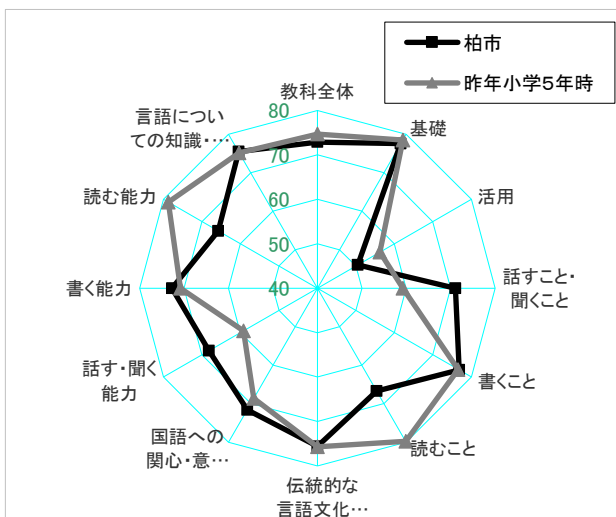
### 1. 全体傾向



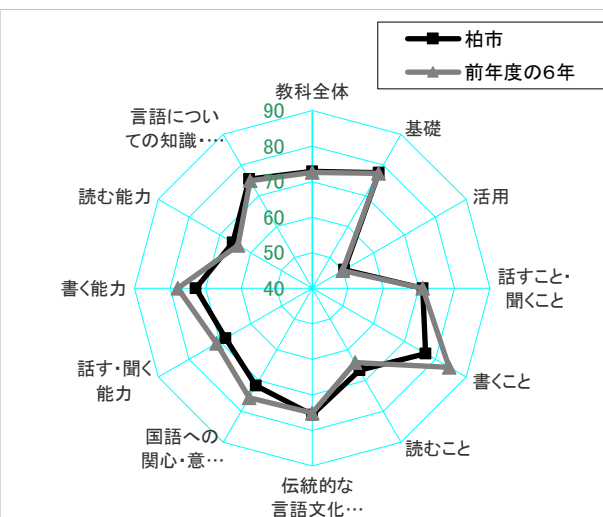
全国よりやや下回っているが、ほぼ同等で良好。

問題別にみると、「文法問題」「文章や資料の内容を読み取る問題」が、全国正答率を大きく下回っている。

### 2. 経年変化



現小学6年生は、5年生時と比較すると、「話す・聞く能力」が上回っている。問題の傾向によるものであると考えられるが、「書く能力」が大きく下回っている。



前年度の6年生と比較すると、能力面で全体に下回っている。特に、「書く能力」が大きく下回った。問題別では、「指定された長さで文書を書くことができるか」を問う設問が前年度より4ポイント下降しており課題がみられた。

### 3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

○「自分の意見とその理由を区別して書くことができるか」を問う設問は、9割の児童が正答している。全国正答率に比べ多少低いものの、現6年生の強みである。

●文法問題に課題がみられる。知識の習得とともに、読解指導や作文指導の中でも取り上げ、実践的に指導していく必要がある。物語文に比べ、説明文の内容読み取りの正答率が低く、弱みである。

## 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

## (1) 単元名

物語の世界を想像して書こう 『きつねの窓』

—— ジグソー学習で「窓」のなぞを解き明かそう ——

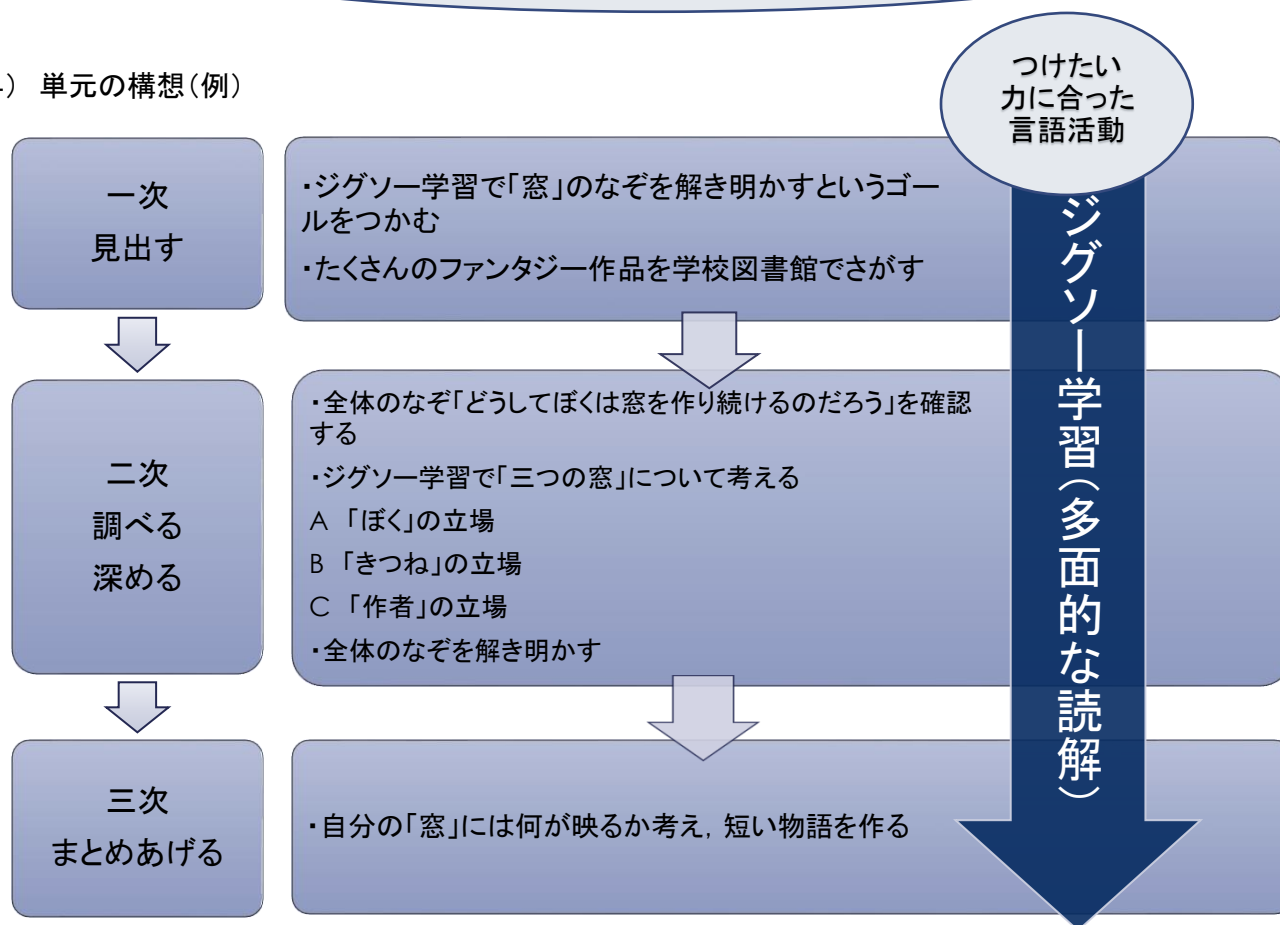
## (2) つけたい力

本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。(C 読むことーオ)

## (3) つけたい力に合った言語活動

ジグソー学習(多面的な読解)

## (4) 単元の構想(例)

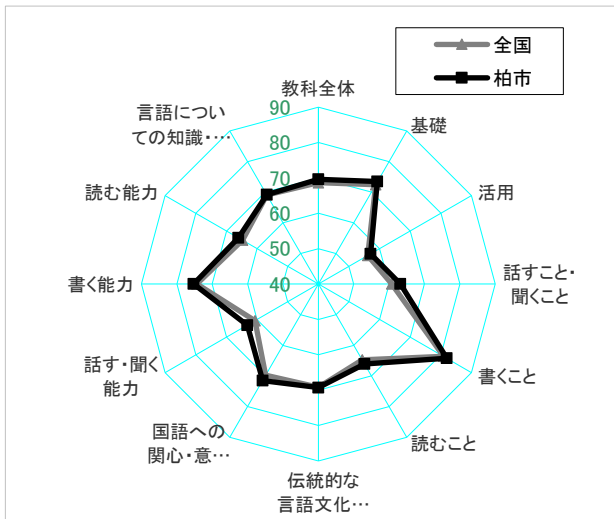


## 指導のポイント！

ジグソー学習は、自分の考えをもつこと、それを友だちに伝えること、伝え合って影響を受け合うことを体験する学習法として、大変効果的です。また、自分ひとりの読みでは気づけなかった多面的な読みができるようになることも期待でき、説明文の読解にも有効です。自分の考えを持ち、交流する学習の方法としては、他に「読書会」「ビブリオバトル」も有効です。中学生の指導例で紹介しています。

# 中学 1年 国語

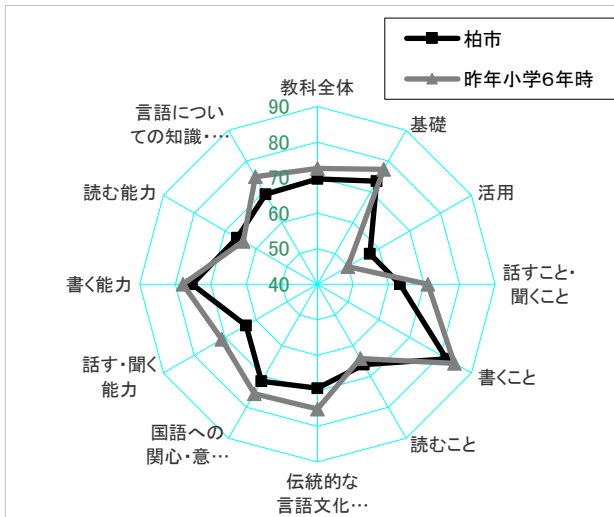
## 1. 全体傾向



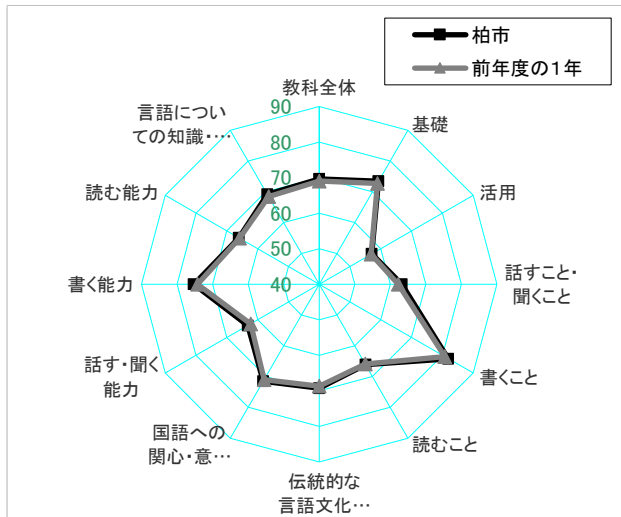
全国とほぼ同等で良好。

問題別にみると、「話の内容を正確に聞き取ることができるか」を問う設問が全国正答率より10ポイントも大きく上回っている。「熟語の構成」「修飾語」の設問は、全国より下回った。

## 2. 経年変化



現中学1年生は、小学6年生時と比較すると、問題の傾向によるものであると考えられるが、全体的に下回っている。「活用問題」に改善の傾向が見られた。



前年度の中学1年生と比較すると、ほぼ同等である。「漢字の書き」は、前年度より正答率が高い。

## 3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

○全国と比較してほぼ同等であるが、全ての領域で下回っているものはない。特に「話すこと・聞くこと」の領域が向上しており、話し合い活動を取り入れた授業づくりが成果として現れたものと考えられる。現中学1年生の強みである。

●文法「修飾語」の理解が定着していない。知識の習得とともに、読解指導や作文指導の中でも取り上げ、実践的に指導していく必要がある。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

近代文学へのいざない 『蜘蛛の糸』

—— ビブリオバトルで近代文学作品を紹介しよう ——

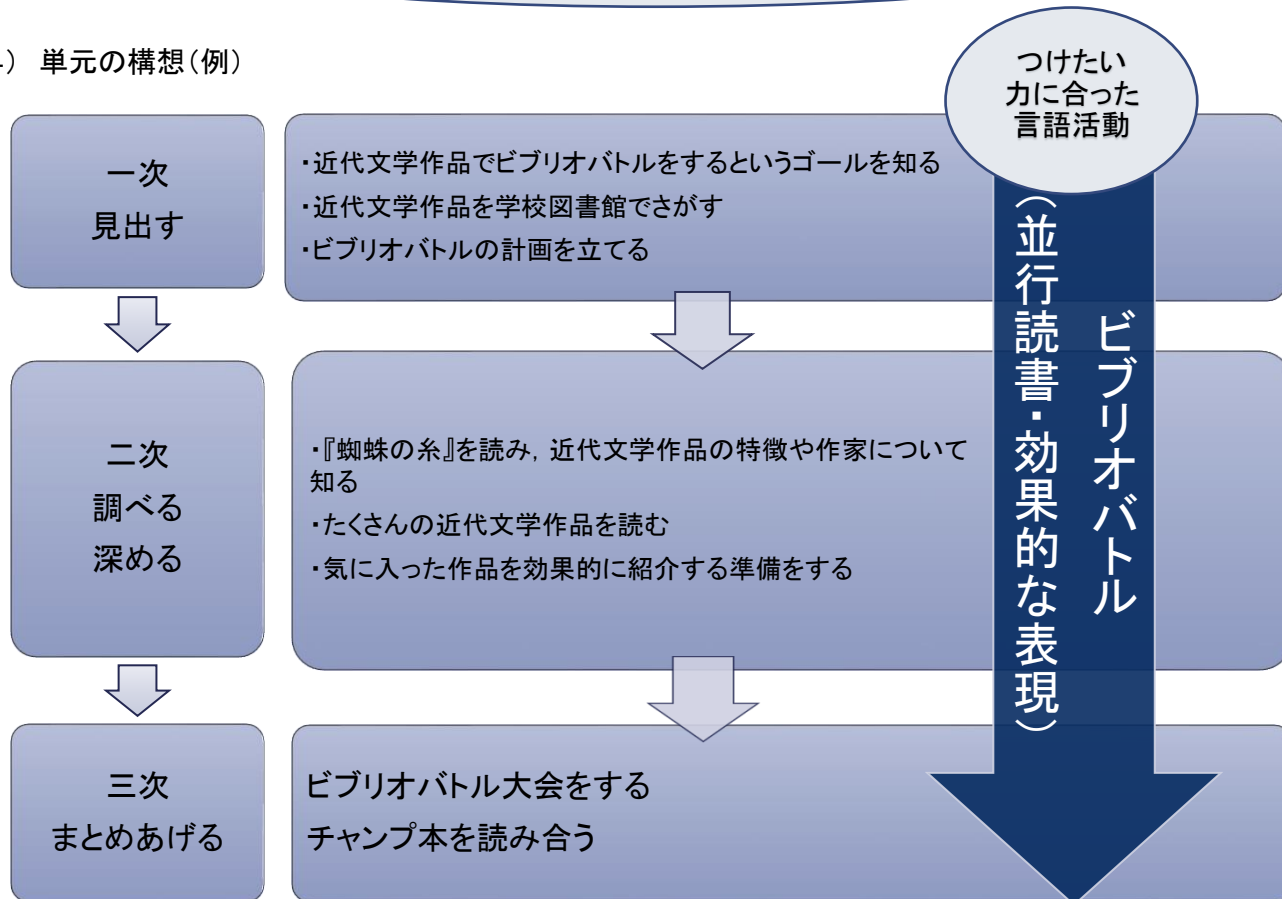
(2) つけたい力

- ・文章の構成や展開, 表現の特徴について, 自分の考えを持つこと(C 読むことーエ)
- ・話す速度や音量, 言葉の調子や間の取り方, 相手に分かりやすい語句の選択, 相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと(A 話すこと・聞くことーウ)

(3) つけたい力に合った言語活動



(4) 単元の構想(例)



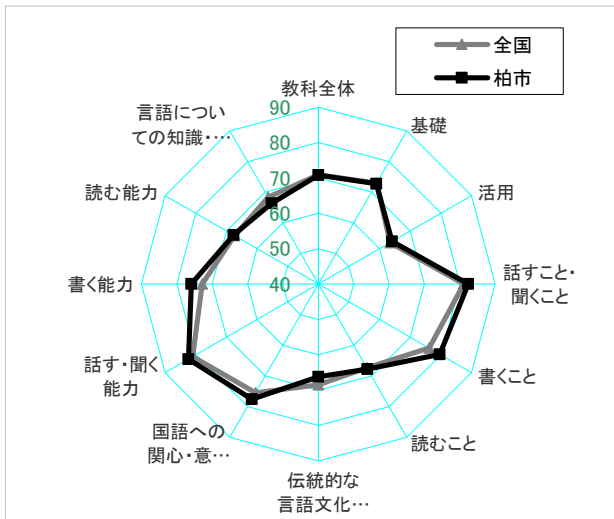
指導のポイント!

ビブリオバトル(知的書評合戦)は, 質の良いアウトプットの場として, また, ゲーム的な要素もあるため, 生徒が楽しく主体的に取り組みながら, 「C 読むこと」と「A 話すこと・聞くこと」の両方をねらうことができます。グループや学級で予選をして, 学年で本戦を行うなど, 取り組み方は工夫次第です。近代文学作品を集めるときは, 学校図書館指導員に支援を頼みましょう。



## 中学 2年 国語

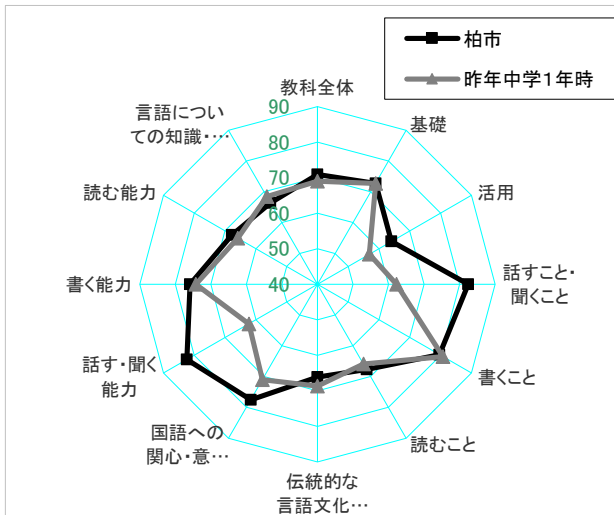
### 1. 全体傾向



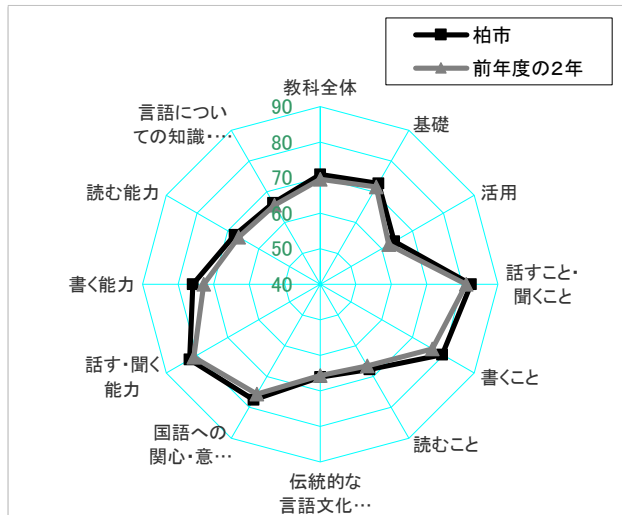
全国とほぼ同等で良好。

「書くこと」の領域が全国を上回っており、問題別にみると、特に「3段落構成でかくことができるか」を問う設問が全国正答率より5ポイントも上回っている。「漢字の書き」の設問が、全国より下回った。

### 2. 経年変化



現中学2年生は、中学1年生時と比較すると、問題の傾向によるものであると考えられるが、「話す・聞く能力」が下回った。「活用問題」に改善の傾向が見られた。



前年度の中学2年生と比較すると、ほぼ同等である。「作文」の設問全てが、前年度より正答率が向上している。

### 3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

○全国と比較してほぼ同等であるが、現中学2年生は、「活用問題」が全国より上回っている。「自分の考えを書くこと」が全国と比較しても前年度と比較しても上回っており、知識を活用して表現する力が向上したといえる。現中学2年生の強みである。

●「言語についての知識・理解」にやや課題がある。漢字については、反復練習による習得とともに、読解指導や作文指導の中でも取り上げ、実践的に指導していく必要がある。



#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

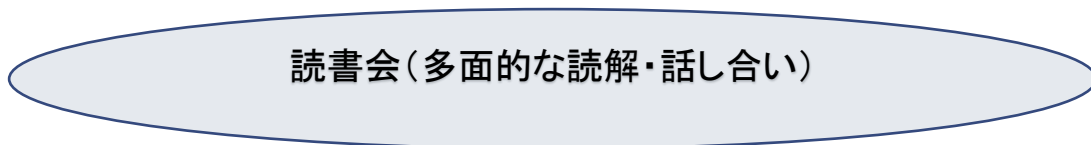
『走れメロス』

—— 読書会で思いを伝え合おう ——

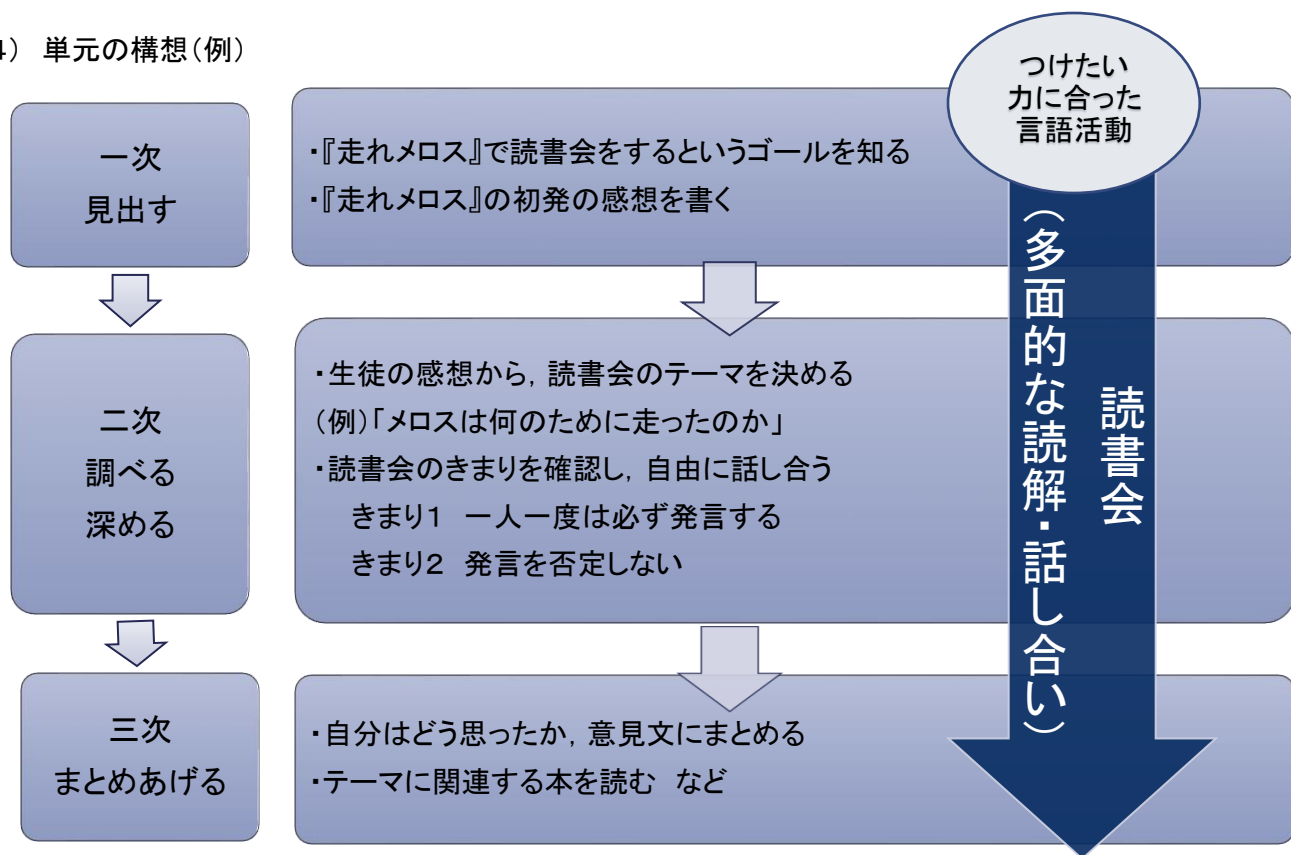
(2) つけたい力

- ・文章に表れているものの見方や考え方について, 知識と体験とを関連付けて自分の考えを持つこと(C 読むことーエ)
- ・相手の立場や考えを尊重し, 目的に沿って話し合い, 互いの発言を検討して自分の考えを広げること(A 話すこと・聞くことーオ)

(3) つけたい力に合った言語活動



(4) 単元の構想(例)

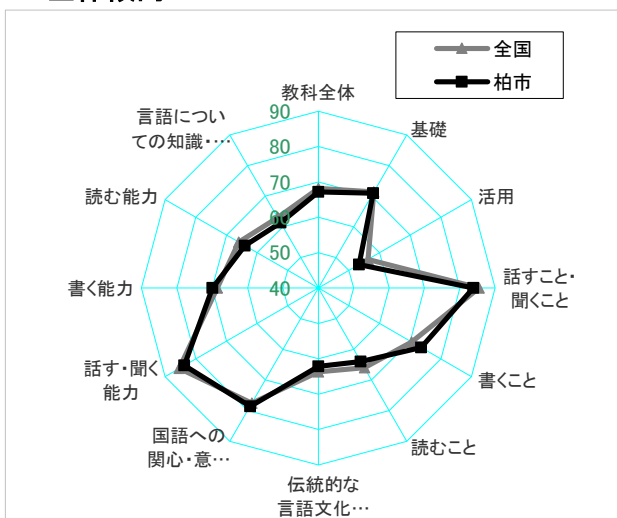


指導のポイント!

読書会は, 自分の意見が認められることで自己肯定感を高めたり, 他者の意見を聞いて影響を受けることで交流する楽しさを知ったりする活動として, 「道徳」や「特別活動」から広まりました。今では, 生徒が楽しく主体的に取り組みながら, 「C 読むこと」と「A 話すこと・聞くこと」の両方をねらう活動として, 国語でよく取り組まれています。読書会の際は, 学校図書館指導員に支援を頼みましょう。

## 中学 3年 国語

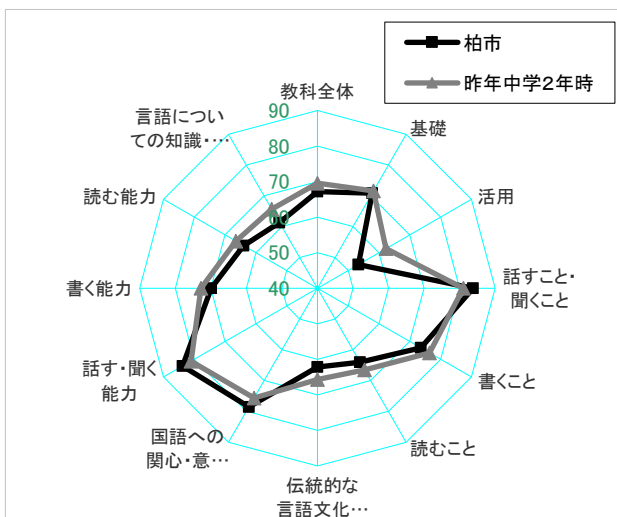
### 1. 全体傾向



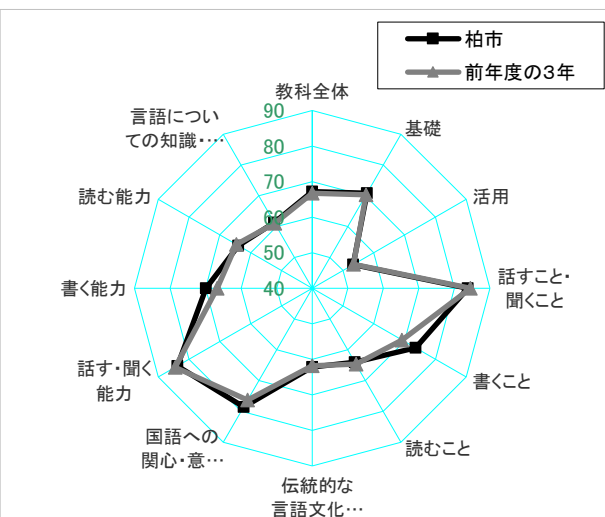
全国とほぼ同等で良好。

「読むこと」の領域が全国をやや下回っている。問題別にみると、「同音異義語」「手紙の書き方」の知識を問う設問が全国正答率より約5ポイント、下回っている。「グラフから読み取ったことを書くことできるか」を問う設問は、約8～9ポイント全国より正答率が高い。

### 2. 経年変化



現中学3年生は、中学2年生時と比較すると、問題の傾向によるものであると考えられるが、全体的に下回った。国語への関心意欲に向上が見られるのは成果である。



前年度の中学3年生と比較すると、ほぼ同等である。「作文」の設問が、前年度より正答率が向上している。特に、「グラフから読み取った内容を書く」が約11ポイント向上している。

### 3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

○全国と比較してほぼ同等であるが、現中学3年生は、「作文問題」が全国より上回っている。与えられた情報から思考し表現する力が向上したことは、現中学3年生の強みである。  
●「言語についての知識・理解」にやや課題がある。同音異義語や手紙の書き方については、日常生活と結びつけて、実践的に指導していく必要がある。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

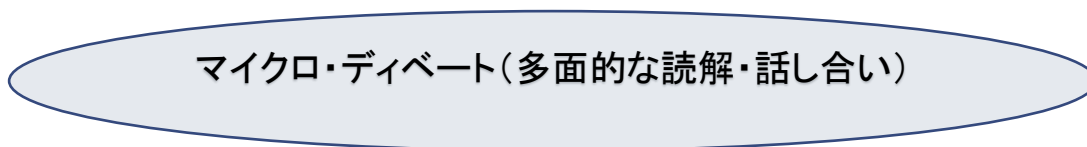
『故郷』

—— マイクロ・ディベートで読み深めよう ——

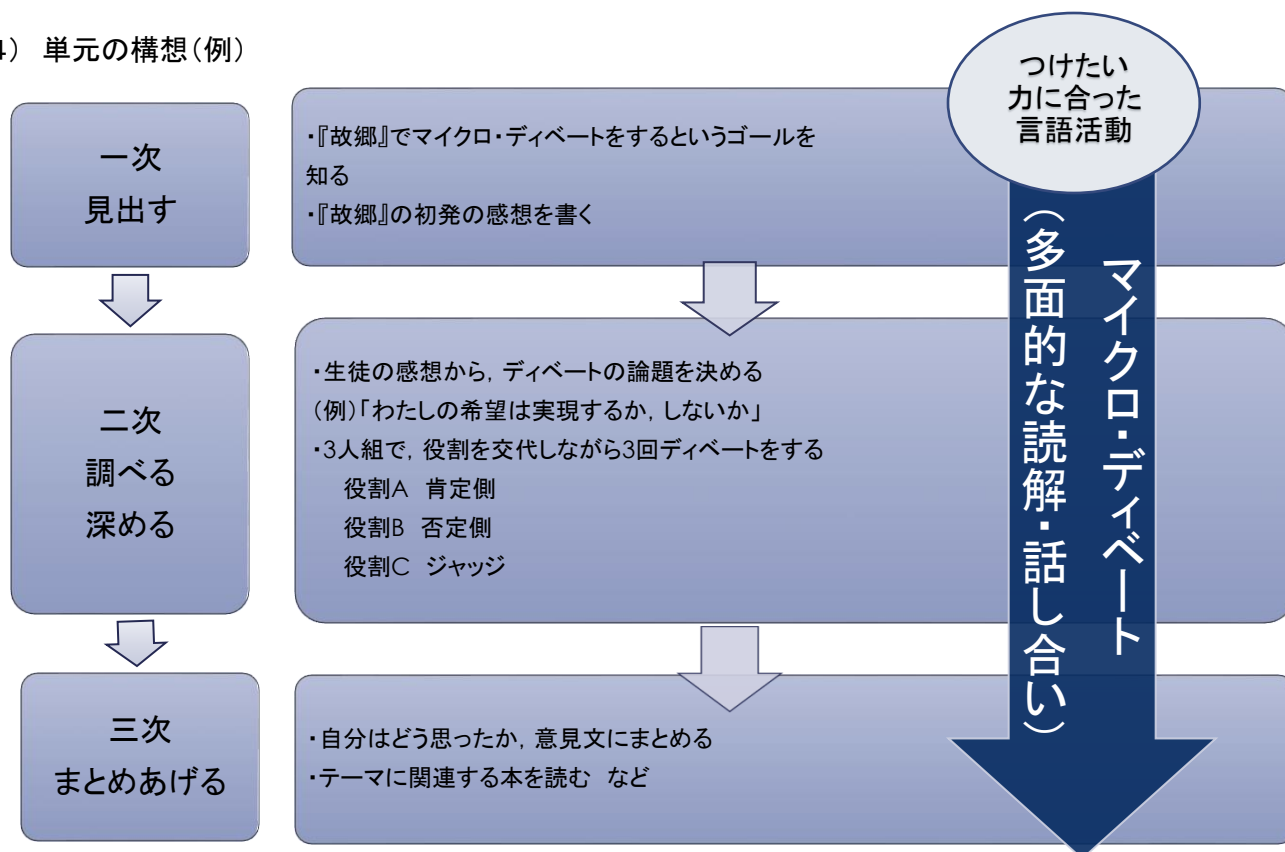
(2) つけたい力

- ・文章の論理の展開の仕方, 場面や登場人物の設定の仕方をとらえ, 内容の理解に役立てること(C 読むこと-I)
- ・社会生活の中から話題を決め, 自分の経験や知識を整理して考えをまとめ, 語句や文を効果的に使い, 資料などを活用して説得力のある話をする(A 話すこと・聞くこと-A)

(3) つけたい力に合った言語活動



(4) 単元の構想(例)

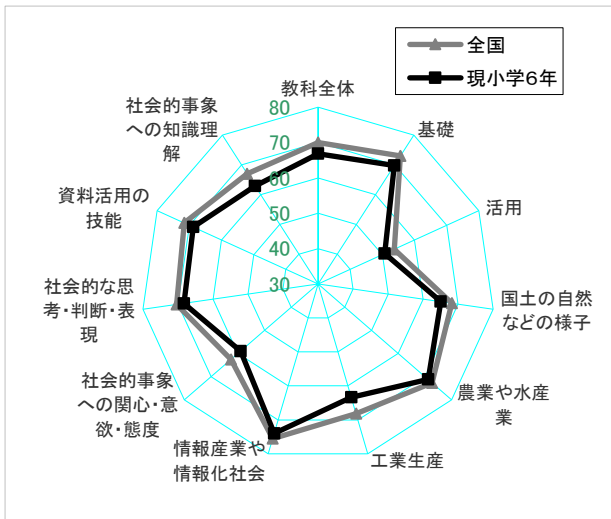


指導のポイント!

中学校のページに掲載した指導例は, どれも, 今求められている学習の形「アクティブラーニング」を意識したものです。「アクティブラーニング」とは, 先生の講義を受ける「能動的な学習」ではなく, 生徒の「能動的, 主体的な学び」です。生徒が本当に知りたいと思っていることを課題とし, 生徒全員が参加できるグループワークやディスカッションを取り入れることから始めてみましょう。授業は, 「講義」と「アクティブラーニング」を両輪とし, 必要に応じて使い分けて構成しましょう。

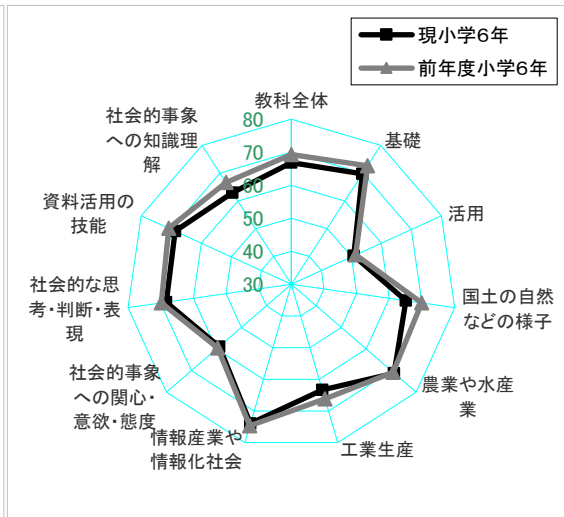
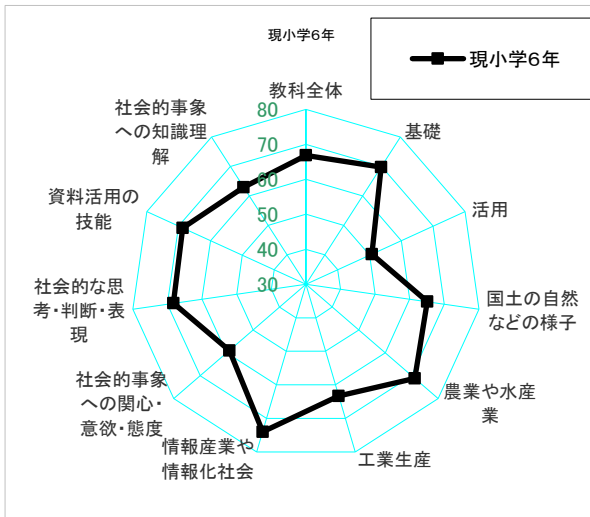
# 小学 6年 社会

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・教科全体としては、目標値を上回っていたものの、全国平均正答率は基礎・活用ともに下回っていた。  
 ・観点別正答率について、「社会的な事象への知識・理解」が目標値を下回り、それ以外の観点は上回っていた。全国平均との比較においては、すべての観点で下回っていた。  
 ・領域別正答率について、「工業生産」が目標値を下回り、それ以外の領域は上回っていた。全国平均値との比較においては、すべての領域で下回っていた。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 ※比較するデータが無いため、コメントはありません。

**コメント**  
 前年度に比べてすべての領域・観点で下回っている。特に、「国土の自然などの様子」や「工業生産」の領域が前年度に比べて低下している。観点別評価では、「知識・理解」が低下している。

## 3. 強みと弱み(○強み ●弱み)

- 全国平均を下回っており、改善が必要な状況である。
- 食料自給率のグラフを読み取ること。
  - 湖のよごれをおさえるための対策について、複数の資料の変化を読み取り、判断すること。
  - 地産地消の取り組みについての知識・理解。
  - 日本の貿易相手国について。
  - 年間を通した米づくりの様子について、農作業に使われる機械とともに理解すること。
  - 太平洋ベルトについてや、自動車の製作工程など工業生産について。
  - 北方領土について。



#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例 (小学校)

学習問題に「どのように」と「なぜ」を組み合わせることで基礎と活用を一緒に伸ばす

◎学習問題を最初に「なぜ～」の形にするのではなく、「どのように～」の形にすることで知識を習得させる。その後、「なぜ～」で学びを深めていく。

### 学習問題づくりのスタイル

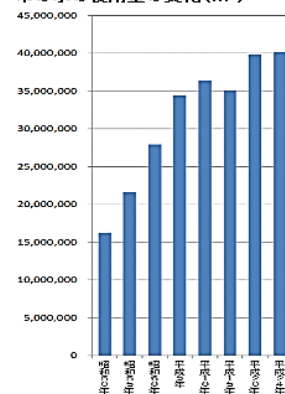
① 疑問つなぎ型… 1枚の写真などの資料をもとに疑問を出し合って、それらの疑問をつなぎ合わせて学習問題をつくる。



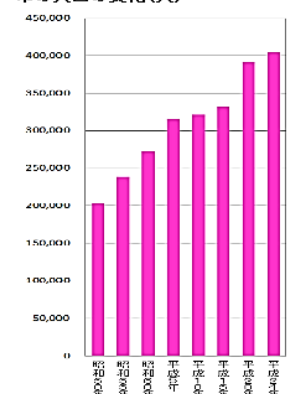
② 対比型… 情報Aを情報Bと比べさせることによって、特色や意味に着目させる。

【取り組みやすい】

市の水の使用量の変化(m<sup>3</sup>)



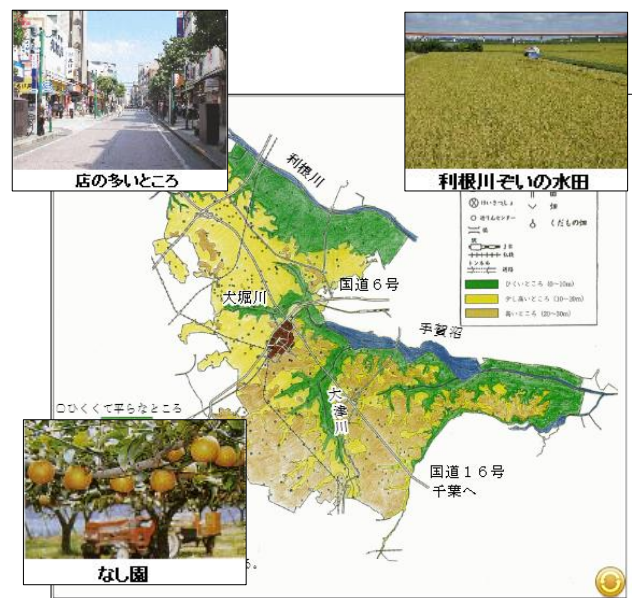
市の人口の変化(人)



③ トンネル型… これまでは情報Aだったのに、いつのまにか情報Bに変わっていた。情報Aと情報Bの間に何があったのか? を考えさせるもの。【取り組みやすい】



④ ヒント提示型… 最初に全体像を見せて、その後ヒントを提示していくもの。

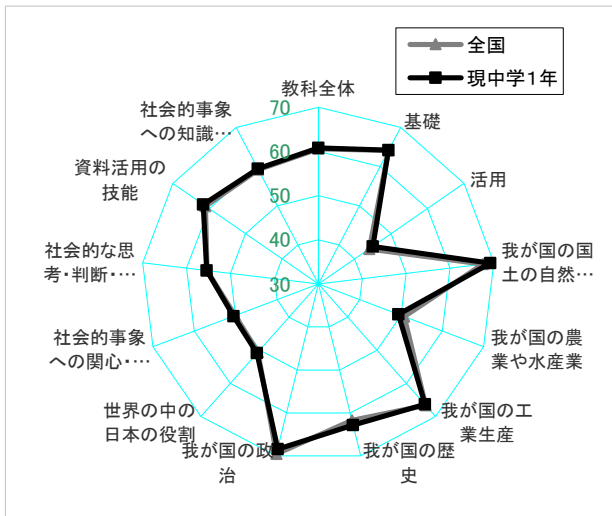


《引用・参考文献》

澤井陽介 2015 『澤井陽介の社会科の授業デザイン』 東洋館出版社 104-125

## 中学 1年 社会

### 1. 全体傾向



#### コメント

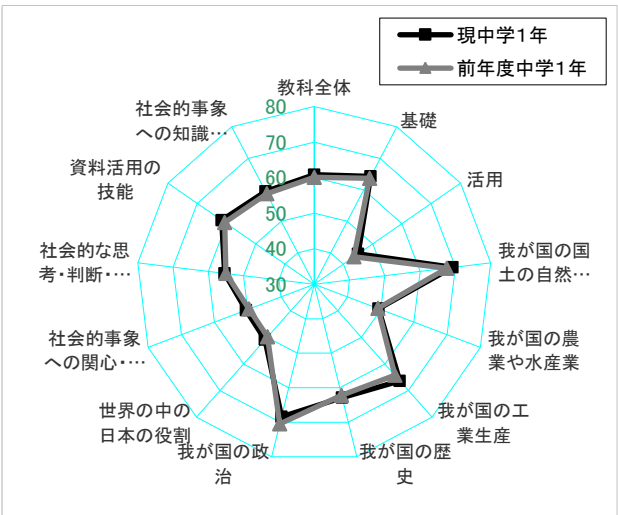
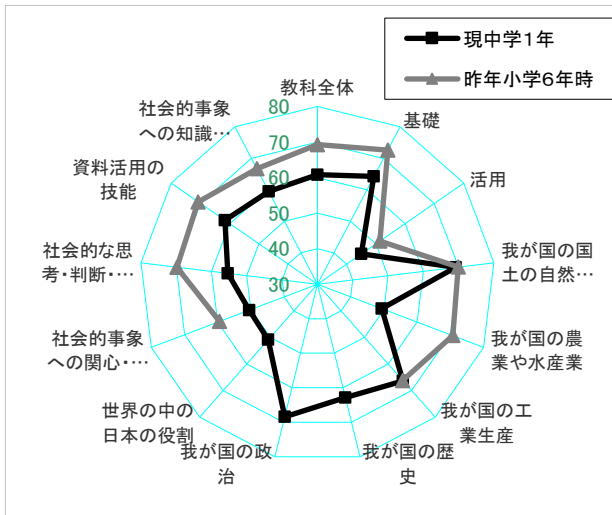
・教科全体としては、目標値、全国平均正答率とも同程度であった。

・「基礎」、「活用」とも全国平均正答率と同傾向であったが、「活用」については、目標値をやや下回った。

・観点別正答率では、すべての観点で全国平均と同程度か上回っているが、「資料活用の技能」以外の観点で目標値を下回っている。

・領域別正答率では「我が国の国土の自然などの様子」「我が国の歴史」が目標値、全国平均を上回った一方で、「我が国の農業や水産業」「世界の中の日本の役割」は全国平均を上回ったものの、

### 2. 経年変化



#### コメント

(昨年度に比べて受検者が289名減なので参考程度にとどめる) 全体的な傾向は変わらないが、各項目によって作られる領域が縮小している。「我が国の農業や水産業」は著しく正答率が下がっている。

#### コメント

昨年度の1年生と比較すると、全体的に概ね同様の傾向を示している。

### 3. 強みと弱み(○強み ●弱み)

全国とほぼ同程度で、良好な状況である。

○資料から、わが国の工業の特色を読み取ること。

○自由民権運動の資料を読み取ること、明治初期の改革について、その内容や目的などの理解。

○日本国憲法の三大原則について。

●養殖業の意味についての理解。

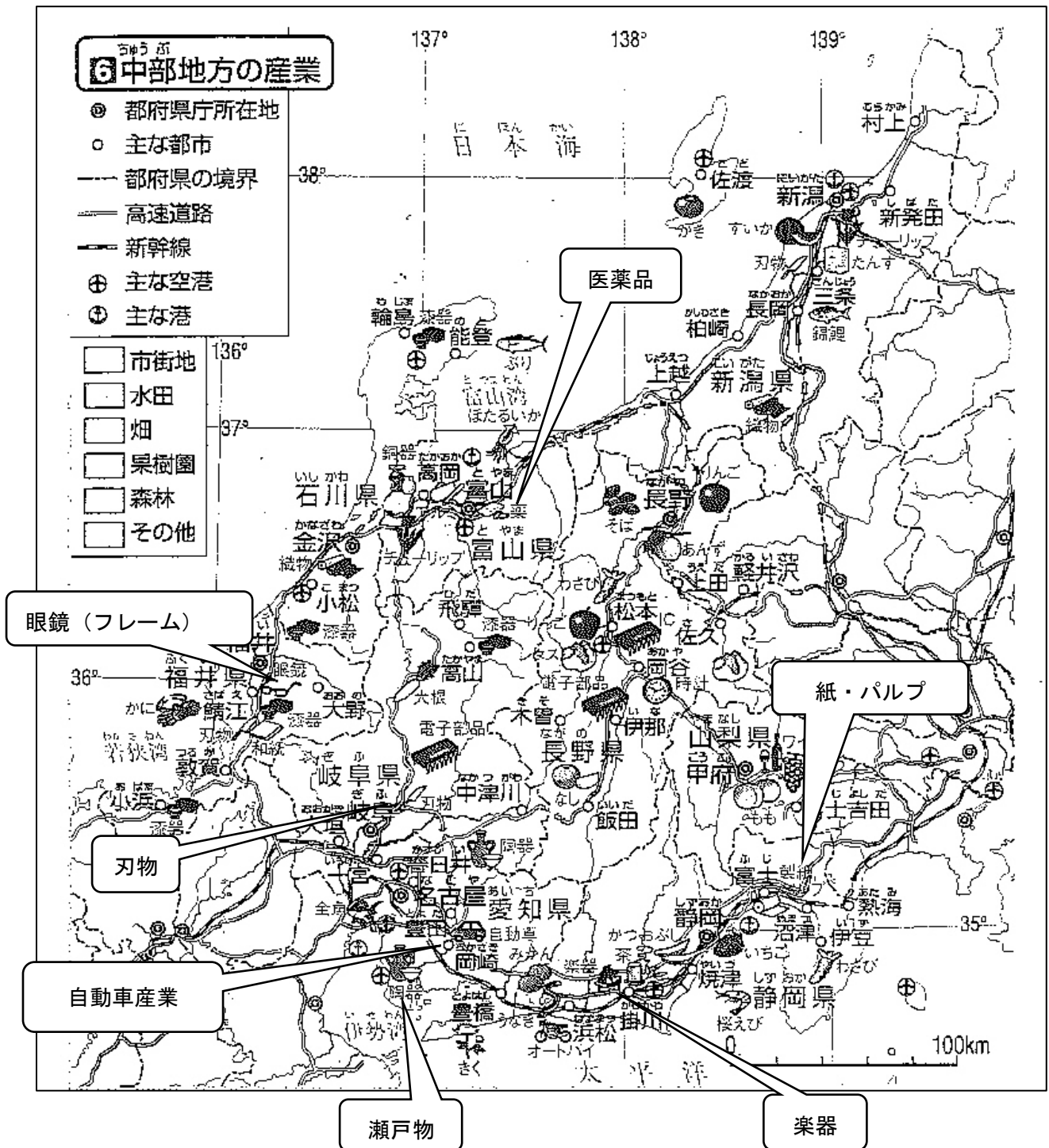
●工業のさかんな地域である「太平洋ベルト」という言葉の理解。

●国際連合について。


#### 4. 授業改善の方向, 効果的事例(中学校地理)

##### ◎身近なものの教材化

・「中部地方の産業（おもに工業）」を生徒の身近にあるものを通して実感させる……



(『新編新しい社会 地理』東京書籍 P. 219 6 中部地方の産業)

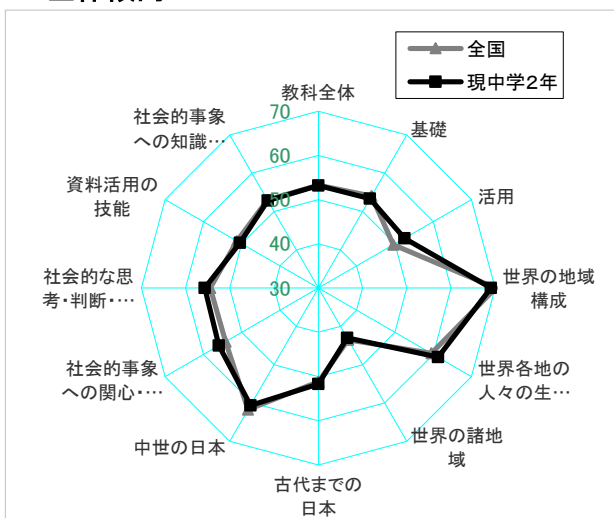
項目	説明
自動車産業	<p>豊田市は、「クルマのまち」として全産業に占める自動車産業の割合が非常に高い。工場数（従業者 4 人未満を含む）は、市内に 1,241 あり、そのうち自動車関連工場は 416 で全体の 33.5%。そこで働く従業者数は、86,343 人。これは、市内の工場で働く 101,943 人に対して 84.6%にも達している。（平成 22 年工業統計調査）</p> <p>また、豊田市の平成 22 年の製造品出荷額等は、10 兆 6,314 億円 で愛知県では第 1 位、全国でも第 1 位です。そして、その中でも自動車関連工場の製造品出荷額等は、10 兆 2,282 億円で全体の 96.2% を占めている。（豊田市HP）</p> <p>平成 25 年 世界での自動車販売台数 第 1 位 10,325(千台)。 （『日本国勢図絵』2015/16）</p>
眼鏡（フレーム）	<p>国内の約 9 割、世界の約 2 割にあたる眼鏡フレームが鯖江で生産されている。（鯖江市HPより）</p> <p>平成 25 年 メガネ枠生産 第 1 位 国内の 97%を生産。 平成 25 年 メガネ部分品生産 第 1 位 国内の 96%を生産。 （『データで見る県勢』2016）</p>
瀬戸物（茶碗）	<p>瀬戸焼（せとやき）は、愛知県瀬戸市とその周辺で生産される陶磁器の総称。東日本で広く流通し、瀬戸物は陶磁器を指す一般名詞化した。（「Wikipedia」より）</p>
刃物	<p>平成 25 年工業統計調査により、出荷額の全国シェアが高い主なものを紹介すると、関の刀鍛冶に端を発した刃物産業では包丁類 55.3%、理髪用刃物 74.4%と全国第 1 位。（岐阜県HP）</p>
楽器	<p>平成 26 年における静岡県のピアノの出荷量は 3 万 5174 台、出荷額は 230 億 4800 万円で、全国唯一となっています。（静岡県HP）</p> <p>平成 25 年 ピアノ生産 第 1 位 国内の 100%を生産。 （『データで見る県勢』2016）</p>
医薬品	<p>医薬品生産金額は 6,163 億円で全国第 2 位（平成 26 年「主要都道府県別医薬品生産金額順位表」）、また人口 1 人当たりの医薬品生産金額は、全国第 1 位（平成 26 年「主要都道府県別医薬品生産金額（人口 1 人あたり）」）。</p> <div data-bbox="1161 1697 1437 1861" style="text-align: right;">  </div>

……たとえば、このような視点を糸口にして、自分たちの身の回りにある「中部地方に関わりのあるもの」を見つけ出して、学習への意欲づけとしたい。



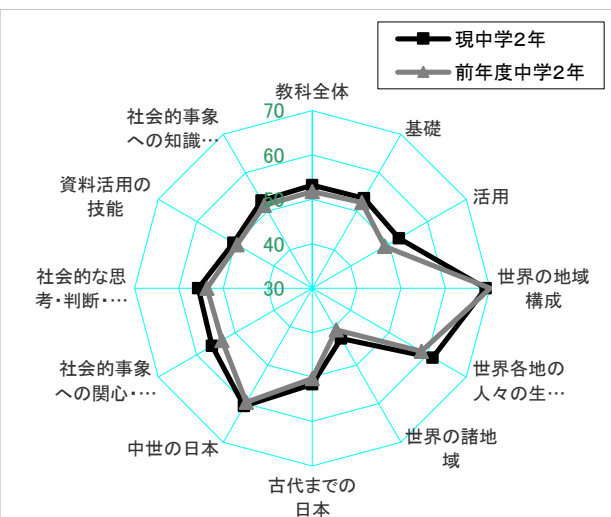
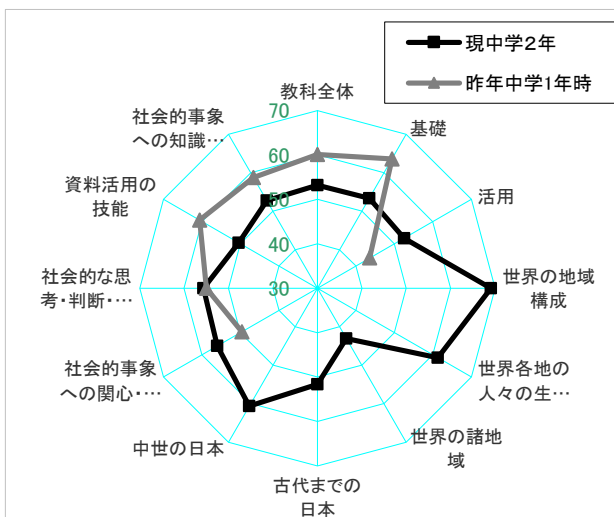
## 中学 2年 社会

### 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・教科全体としては、目標値を上回っており、全国平均正答率とほぼ同程度であった。  
 ・「基礎」は全国平均正答率と同程度であったが、「活用」は全国平均、目標値を上回った。  
 ・観点別正答率は、すべての観点で目標値を上回った。特に、「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断・表現」は全国平均も上回った。  
 ・領域別正答率では、「世界各地の人々の生活と環境」「古代までの日本」が全国平均及び目標値を上回ったのに対し、「世界の諸地域」「中世の日本」が目標値をやや下回った。

### 2. 経年変化



**コメント**  
 (領域が小学校の内容から中学校の内容に変わっているので参考にとどめる)「活用」が昨年度に比べてかなり上昇しており、観点別正答率においては「関心・意欲・態度」が高まっている。

**コメント**  
 昨年度の2年生と比較すると、すべての項目で上回っている。

### 3. 強みと弱み(○強み ●弱み)

- 全国とほぼ同程度で、良好な状況である。
- 稲作伝来後の社会についての理解をもとに、写真資料について考えること。
  - 世界の主な大陸と海洋の分布。
  - 大和政権の首長について。
  - 世界各地の人々が住む家のつくりについて考え、説明すること。
  - 大西洋、北海の沿岸地域の気候が、暖流と偏西風の影響を受けていることについての理解をもとに、資料を読み取ること。
  - 平安時代の蝦夷平定について。
  - 桓武天皇の政治について。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的事例(中学校歴史)

##### ◎身近なものの教材化

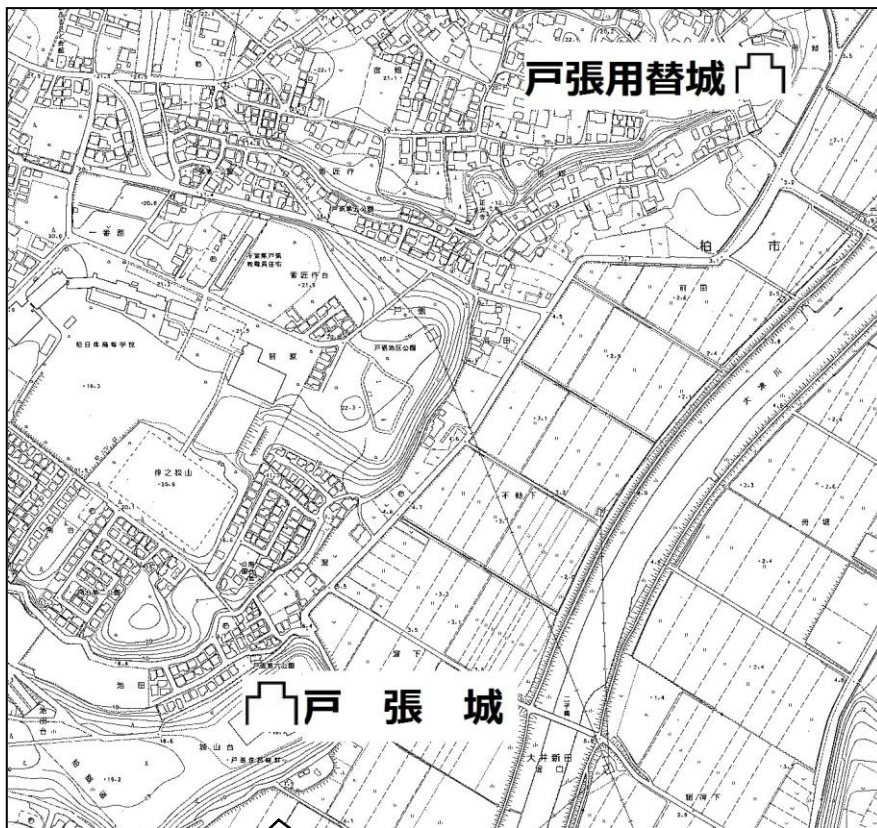
- ・身近にある歴史的遺物を, 授業の導入に使用したり, グループ学習や調べ学習のテーマの糸口にしたりする。

(例1) 大井郷(現柏市大井付近)から都に送られた税 [古代]

下総国相馬郡大井郷戸主矢作部弟荒戸口矢作部広足調并庸布壹端  
天平十七年(七四五)十月

[現代語訳]  
 しもうさのくにそうまぐんおおいごう やはぎべ おとあら  
 下総国相馬郡大井郷の戸主矢作部の弟荒の戸籍に属する  
 ひろたり  
 広足が、調ならびに庸の布一端を納めます。  
 天平十七年(七四五)十月

(例2) 戸張地区にある二つの城 [中世]



このような近い距離にある, この二つの城の関係はどうなっていたのだろうか?

(例3) 常夜燈 (呼塚河岸) [近世]



呼塚河岸 (船着場) の常夜燈。高さは約4 m。船の往来や旅人の目印として重要な役目を果たした。



Q右の写真では、「常夜燈」は、どこにあるでしょう？ちなみに写真に写っている道は、現在の国道6号線です。

(例4) 戦没慰霊碑 [近代]



「日露戦没軍馬紀年碑」  
(明治37年3月10日)  
※風早北部小学校前

(例5) 原爆の石 [現代]

昭和60年12月広島市から寄贈された原爆被災の証といえる被爆石 (広島市役所旧庁舎の側石と敷石)。

【関連】柏市の『平和都市宣言』や右の平和記念碑。記念碑の場所は、柏市役所本庁舎玄関。上述の被爆石も一緒にある。

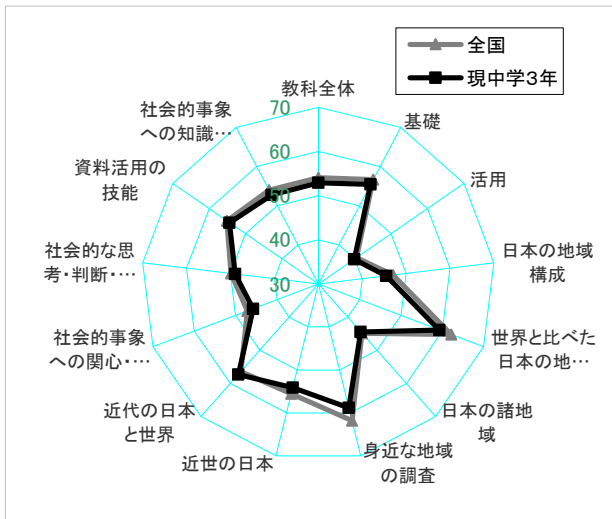


[参考資料] 『柏市史』, 『柏市史(古代中世 文献史料)』, 『沼南町史 史料集』



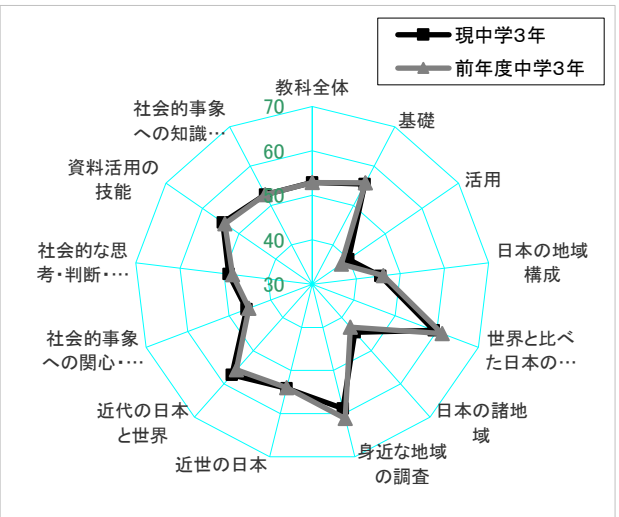
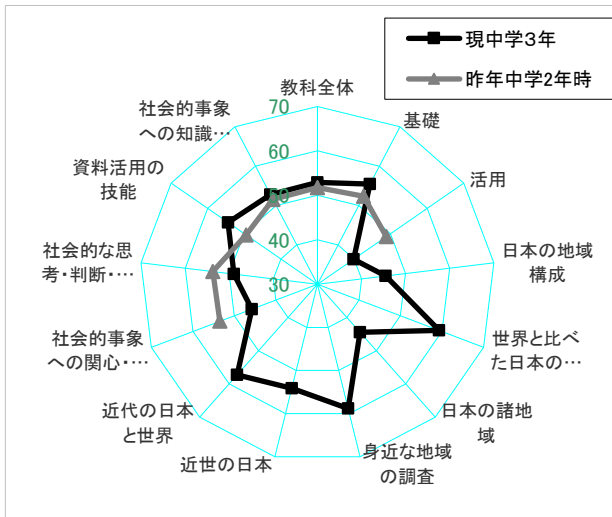
# 中学 3年 社会

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・教科全体としては、全国平均正答率及び目標値を下回っていた。  
 ・「基礎」は、全国平均正答率及び目標値を下回っていたが、「活用」は全国平均及び目標値とほぼ同様であった。  
 ・観点別正答率については、「社会的な事象についての知識・理解」が目標値及び全国平均正答率を下回っており、それ以外の観点は全国平均は下回っているものの、目標値を上回っている。  
 ・領域別正答率は、「近代の日本と世界」が全国平均及び目標値を上回り、「世界と比べた日本の地域的特色」が目標値を上回ったものの、その他の領域は全国平均及び目標値を下回っている。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 昨年と比較すると、「教科全体」と「基礎」は上昇しているが、「活用」は大きく下がっている。また、「資料活用の技能」「社会的な事象への知識理解」は上昇しているが、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」が下降している。

**コメント**  
 昨年度の3年生と比較すると、全体的に概ね同様の傾向を示している。

## 3. 強みと弱み(○強み ●弱み)

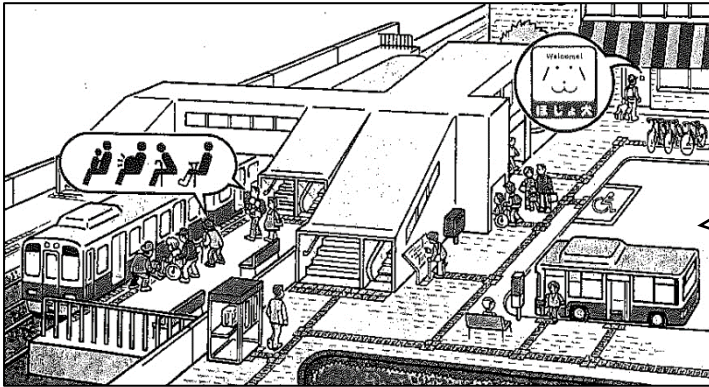
- 全国平均を下回っており、改善が必要な状況である。
- 日比谷焼き打ち事件が起こった背景に関する資料を読み取ること。
  - 日本の高齢化に関するグラフを読み取ること。
  - 諏訪盆地における工業の変化に関する資料を読み取ること。
  - 北陸地方の農業について。
  - 中京工業地帯について。
  - 日本の中部地方の地域区分について。
  - 日本の地域区分、都道府県の名称と位置、都道府県庁所在地名。
  - 武家諸法度の資料から、江戸幕府が行った大名統制を読み取ること。

## 4. 授業改善の方向, 効果的事例(中学校公民)

### ◎身近なものの教材化

・教科書の「公民にチャレンジ」等を活用し、生徒の今までの生活経験や生活感覚を通してグループ学習を行ってみる。

(例1) バリアフリーについて考えてみよう (教科書P. 49)



この取り組みを通して、自分たちが生活している身近な地域についても、どのようになっているかを思い浮かべてみよう。

(例2) X市の市長候補に立候補しよう (教科書P. 114~115)

私たちの住む  
柏市のまちづくり  
の計画についても  
参考にしてみよう!

(「柏市第五次  
総合計画」)

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/020100/p034547.html>



(例3) お金の使い道を考えよう (教科書P. 121)

項目		金額
美支出	消費支出	
	食料	43,088円
	住居	33,409円
	光熱・水道	7,497円
	家具・家事用品	3,458円
	被服および履物	8,516円
	交通・通信	25,769円
	教養娯楽	20,388円
	交際	11,037円
	その他の消費支出	13,733円
税金 社会保険料など	54,408円	
その他(預貯金, 借入金返済など)	86,670円	
平均年齢27.0歳, 実収入合計 307,973円 [2013年]		

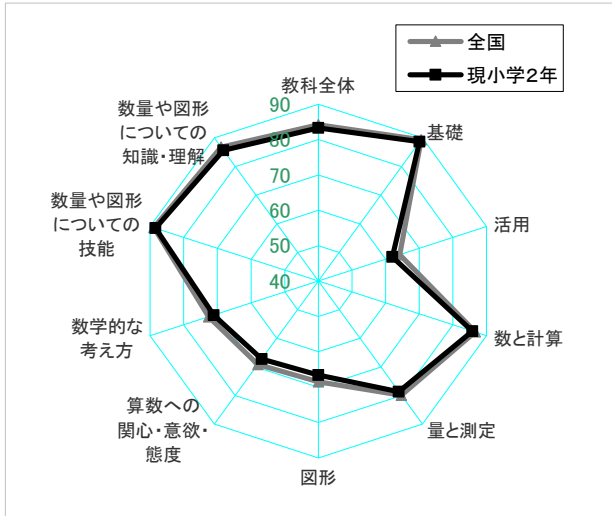
支出額については、その金額を算出するにあたって、「根拠(理由)」をそれぞれ示す必要がありますね。

例えば、住む場所、住居の間取り、生活スタイル等々……

……個人やグループで取組んだことについては、最後にクラス全体で共有したい。

# 小学 2年 算数

## 1. 全体傾向



### コメント

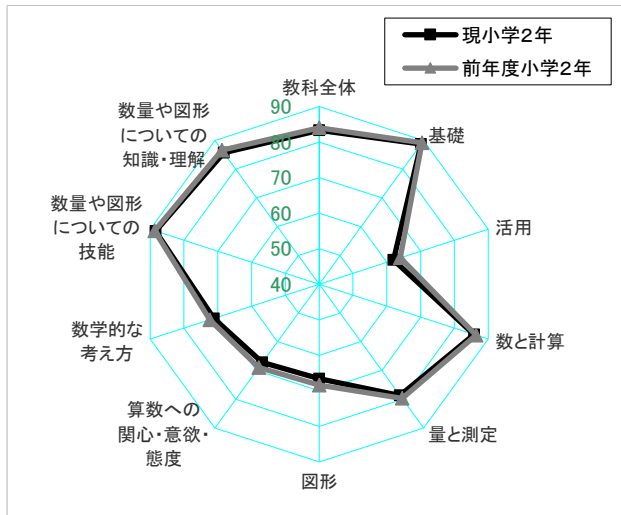
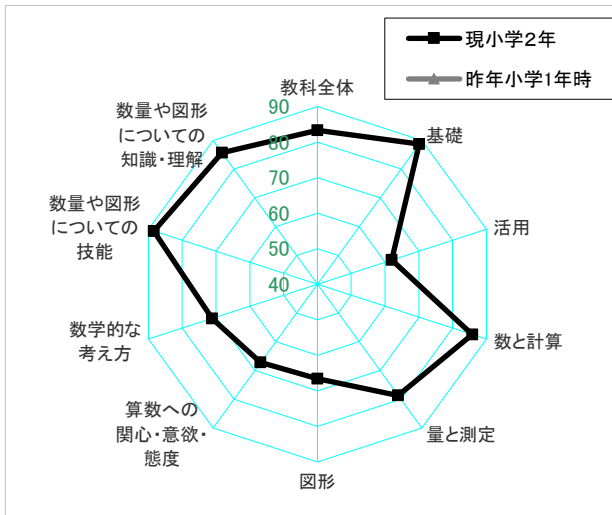
・全体的に見ると、全国とほぼ同程度で、良好な状況である。

・「数と計算」領域では、基本的な計算処理や位取り、立式については、相当数の児童が適切に捉えることができているが、文章問題については課題がある。

・「量と測定」領域は、長さの比較については、概ね適切に捉えられているが、時計の読み方や条件を満たす場面での考察や処理に課題がある。

・「図形」領域では、正しく位置を伝える問題に課題がある。

## 2. 経年変化



### コメント

第1学年未実施

### コメント

・平成27年度の小学校2年生と比べると、39問中29問において僅かではあるが、正答率が下がっている。

・方向や位置に関する言葉を使って、正しく位置を伝える問題については、昨年度の2年生より4ポイント以上下がっている。

## 3. 強みと弱み

○「たしざん」「ひきざん」「3つの数の計算」の基本的な計算の仕方を理解し、処理する力は95%前後の正答率であり、今回出題された内容は概ね身につけていると考えられる。

●課題のある問題や経年変化から見ると、次の3点の対策が考えられる。

- ・体験的な活動など身体を使ったり、具体物を用いたりする活動を多く取り入れ、時計の読み方などは、日常生活においても使う機会を多くする。
- ・長い文章問題から必要な情報を取り出すことができるように、文章を読み取る力をつける。
- ・「算数って楽しい！」と子どもが思えるような授業を展開していくこと。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

みんなと学ぶ楽しさを実感させる授業

指導例

目標及び内容 B(1) 長さ単位の測定

[算数的活動](1)

ウ 身の回りにあるものの長さや体積について, およその見当をつけたり, 単位を用いて測定したりする活動

体験から実感する算数

…遊びだけで終わらせない…

(1) 紙風船とばし競争をしてグループのチャンピオンを決めよう!



(3) 30cmものさしで測ろう  
(長さを体でつかむ)



長い長さをもっと  
うまく測れるよう  
になりたいね。

どうやったら  
くらべられる?

(2) クラスのチャンピオンはだれ?

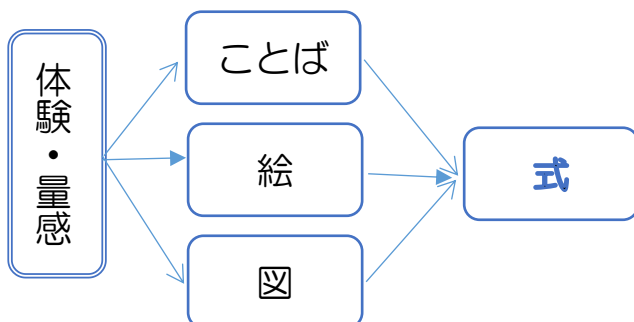


〇〇さんは, □□さんが説明している時に, にっこりしてうなずいていたね。よくわかったんだね。

【ワンポイントアドバイス①】

答えや考え方が間違っている場合も, その子が「何をしようとしたのか」「その子の意図や着眼点」に周りの子が気づく目と心を育てたい。

(4) 1mの単位を知り, 量感をつかむ  
(5) 1mをこえるものの見当をつけて, 測る  
(6) 1mのテープ作りをとおして, 長さの量感を高める。

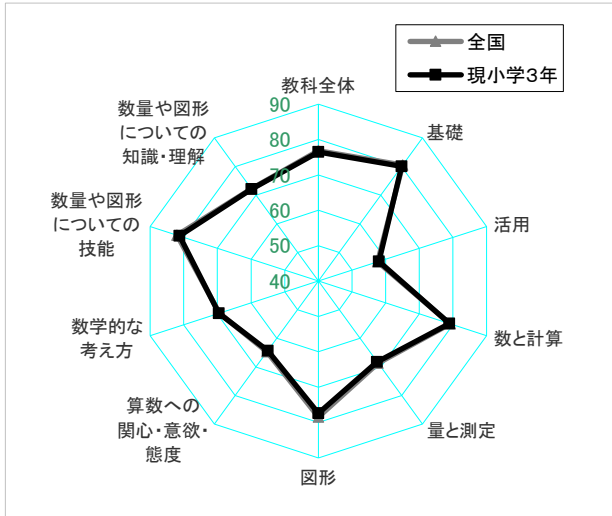


参考: 新興出版社啓林館 実践記録算数



# 小学 3年 算数

## 1. 全体傾向



### コメント

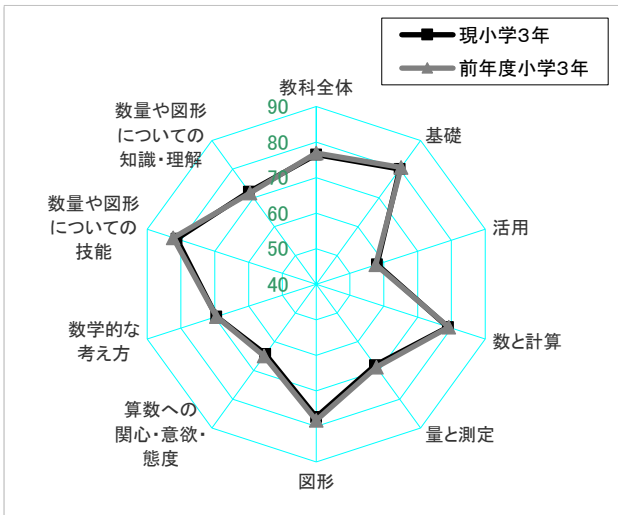
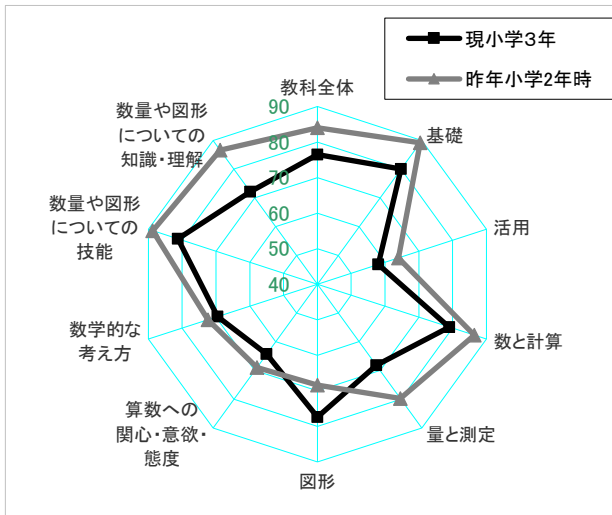
全体的に見ると、全国正答率とほぼ同等の結果である。

項目ごとに見ると、「活用」のみ50%台となっており、昨年度と同様に活用力を高める指導が、求められている。

問題別に見ると、全国正答率を2ポイント以上、下回ったのは、以下の設問である。

- ・3桁ー2桁の波及的繰り下がりがある計算。
- ・文章問題を乗法九九を適用して求める。
- ・乗数と積の関係を理解して求める。
- ・身近にあるもののかさを推察して、適切な単位を求める。
- ・直方体から写し取ることでできる面を求める。

## 2. 経年変化



### コメント

昨年度と比べると、全体的に正答率が7.5ポイント近く下がっているが、全国正答率を比較しても同様な状態であるため、問題傾向の変化に伴う正答率変化と考えられる。

「図形」については、昨年度より9ポイント近く上回っている。

### コメント

平成27年度の小学校3年生と比べると、ほぼ同等である。僅かではあるが「数量や図形についての知識・理解」は上がっているが、「数量や図形についての技能」は下がっている。

## 3. 強みと弱み

○児童の平均正答率からみると、今回出題された学習内容についてはおおむね身に付いていると考えられる。

たし算やひき算、かけ算の基本的な計算の仕方については、理解できている。

●課題のある問題を見ると、次の2点の対策が考えられる。

- ・かけ算九九の構成や暗唱と同様に、かけ算の式の意味理解を深める指導をする。
- ・具体的な操作活動や算数的な活動を多く取り入れ、身近なもので実感を伴った指導をしていく。



4. 授業改善の方向, 効果的指導例

## 算数を学ぶ楽しさや意義を実感させる授業の構成

指導例

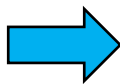
目標及び内容 D (3)

資料を分類整理し, 表やグラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりすることができるようにする。

ア 棒グラフの読み方やかき方について知ること。

### 算数的活動を重視した指導過程

1. 身近な出来事から探して



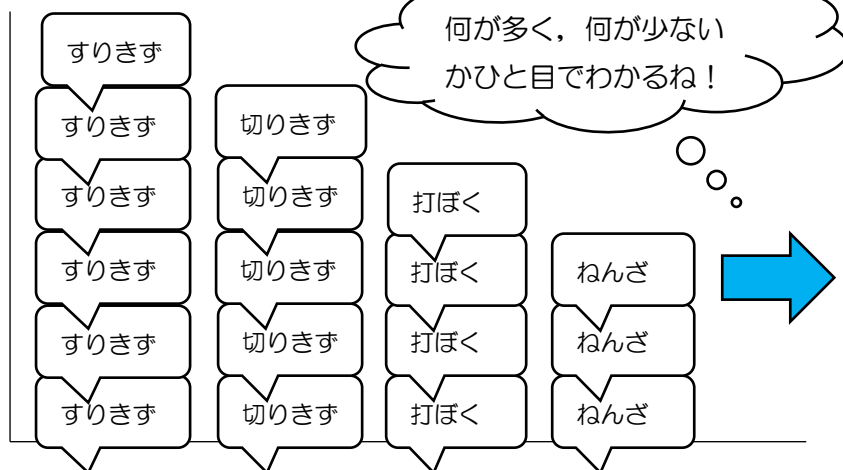
2. 自分で調べて

○学校で起こるけがについて調べてみよう。

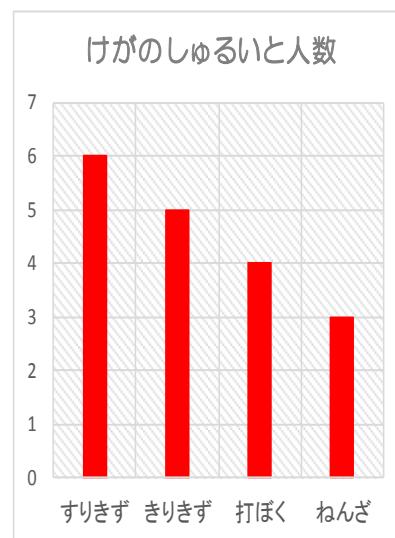


しゅるい	人数(人)
すりきず	6
切りきず	5
打ぼく	4
ねんざ	3
合計	18

3. 表にまとめて



4. 良さを实感する

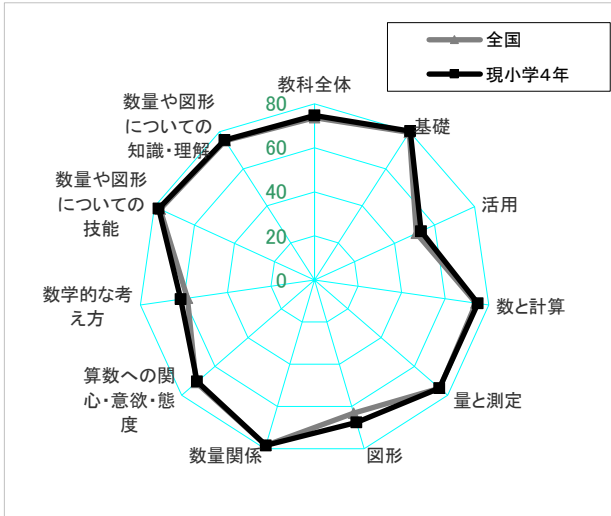


《ワンポイントアドバイス》

- ・表にする良さや特徴を実感させるための操作的な活動等を取り入れる。
- ・表の良さの意義がわかる指導過程にすることが大切です。

# 小学 4年 算数

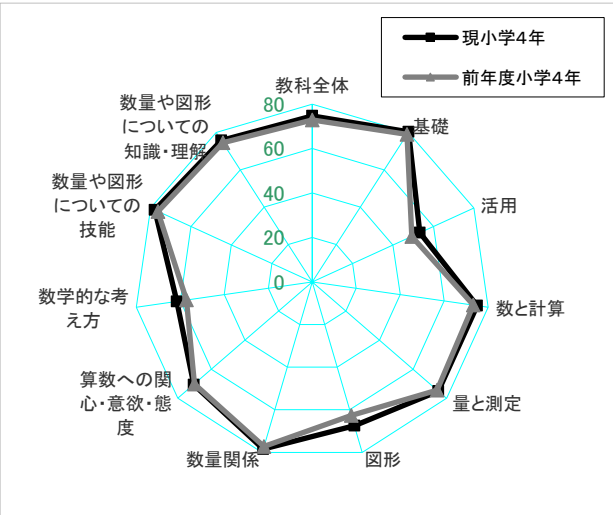
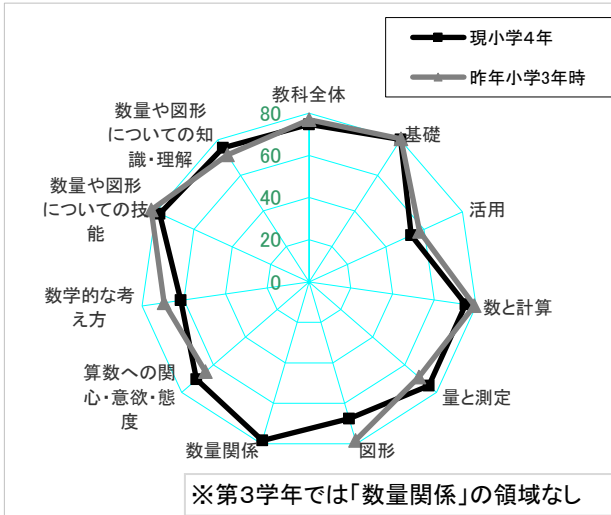
## 1. 全体傾向



**コメント**

- ・全体的にみると、全国とほぼ同程度で、良好な状態である。
- ・計算の基礎的スキルは身につけている。「数と計算」における除法の立式やあまりのあるわり算の処理は正答率が全国より4.5ポイント以上上回っている。
- ・「図形」領域においては、正三角形の性質の理解や二等辺三角形の定義の理解ができおり、全国より5ポイント以上上回っている。
- ・「数量関係」における棒グラフの有用性についての記述は正答率が全国より4ポイント以上上回った。

## 2. 経年変化



**コメント**

- ・小学3年時と比較すると、「算数への関心・意欲・態度」が5ポイント以上向上した。また、「数学的な考え方」や「量と測定」も向上が見られる。
- ・「図形」は低下が大きい。
- ・昨年度の4年生も同様の変化が見られている。

**コメント**

- ・昨年度の4年生と比較すると、全項目にわたり上回っている。
- ・「図形」については、昨年度の4年生より5ポイント近く上回っている。

## 3. 強み(○)と弱み(●)

- 全体的に見ると、今回出題された内容についてはおおむね理解ができていると考える。「数と計算」の除法の立式やあまりの処理については、定着ができている。また、小数の仕組みや計算も理解ができている。
- 図形については、正三角形や二等辺三角形の理解ができている。また、円の直径や球についても理解ができている。
- 棒グラフの読み取りや作成はできるが、有用性や特徴の記述ができていない。また、2つの表で異なる数値に着目し、条件を満たす条件を考えることの誤答率が高いので、表やグラフに表す意味や便利さを実感できるような授業の構成を考える必要がある。
- 身近にあるものの重さを推察することに苦しさを持つ児童が見られるので、生活の中で重さを実感できる場を工夫する必要がある。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

## 算数を学ぶ楽しさや意義を実感させる授業の構成

指導例

目標及び内容 D (4) 資料の整理分類

目的に応じて資料を集めて分類整理し, 表やグラフを用いて分かりやすく表したり, 特徴を調べたりすることができるようにする。

- ア 資料を二つの観点から分類整理して特徴を調べること。
- イ 折れ線グラフの読み方やかき方について知ること。

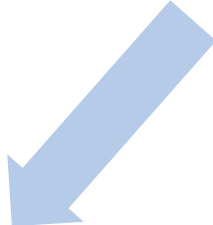
### 算数的活動を重視した指導過程

好きなおかずきらいなおかず調べ (3組)

1. 身近な素材を探して



2. 自分で調べて



3. 表にまとめて

好きなおかずきらいなおかず調べ (3組)



4. 良さを感じる

名前	肉	魚
ゆり	好き	きらい
まさお	好き	好き
けいた	きらい	きらい
よう子	好き	きらい
まり	きらい	好き
ゆうき	好き	好き
はると	好き	きらい
みさき	きらい	好き
じゅんや	好き	きらい
ひかる	きらい	きらい
こうた	好き	きらい
みち子	好き	好き

		魚		合計
		好き	きらい	
肉	好き	3	5	8
	きらい	2	2	4
合計		5	7	12

どんなおかずが好きな子が多いかがわかりやすいね。

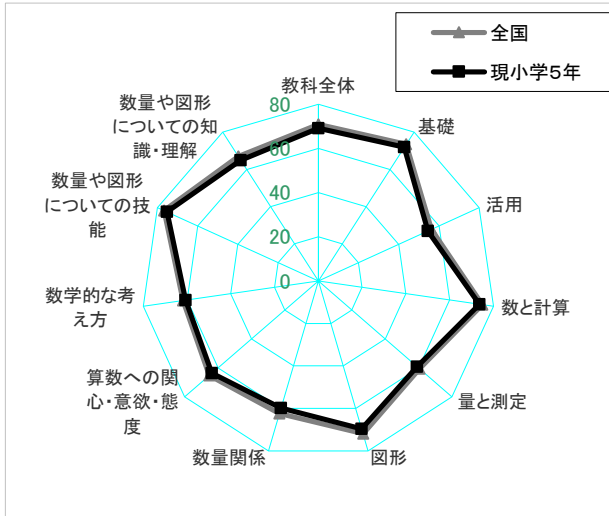


【ワンポイントアドバイス】

- ・二つの観点で調べたことを表にまとめることで, より詳しく特徴がわかると実感できる活動を考えましょう。

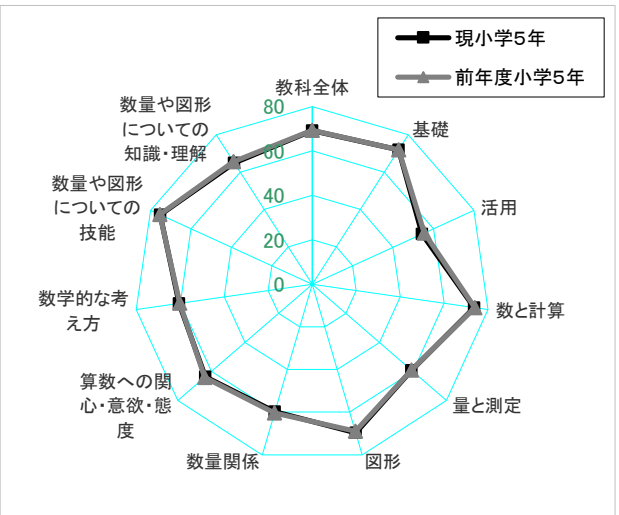
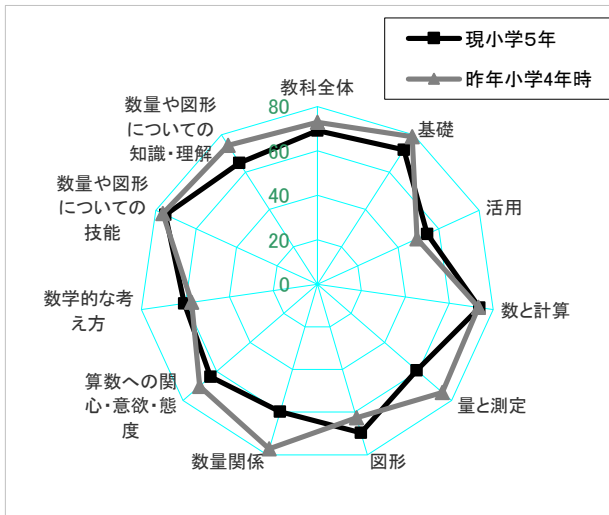
# 小学 5年 算数

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・全国と柏市で比較すると、ほぼ同等であるが、全ての領域・観点で約2ポイント平均正答率が下回っている。  
 ・分数の計算など基礎的技能は高いが、全国的な傾向と同様に、「数と計算」における小数のわり算の無回答が多い。また、「折れ線グラフと表」の二次元表の読み取りの正答率が低く、無回答も多い。  
 ・全国的な傾向とも言えるが、伴って変わる2つの数量関係から記号を使った式に表すことが苦手である。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 ・小学4年時と比べると、「活用」「図形」「数学的な考え方」が向上している。  
 ・昨年と同様に「量と測定」「数量関係」領域の低下が顕著である。

**コメント**  
 前年度の小学5年とほぼ同等である。

## 3. 強み(○)と弱み(●)

- 全体的には今回出題された内容については、おおむね身につけていると考えられる。
- 基本的な四則計算の技能が高く、四則混合や小数の計算も十分理解している。
- 分数の計算や分数の大小比較について、十分理解している。
- 「数と計算」領域で、位取り記数法を用いて数を表したり、概数に対する数の範囲を考えたりすること。数の意味や表し方について、表現する活動が必要である。
- 「数量関係」領域で、二次元表を作成し読み取ること。縦と横の分類項目から、対象のマスがどのような意味を持っているのか考えさせる必要がある。
- 筋道を立てて自分の考えをつくり、絵や図、数直線、図、数式、言葉の式を用いて説明する活動を充実させていく必要がある。

#### 4. 授業改善の方向，効果的指導例

### 筋道立てて考え表現できる授業の構成

#### (1) 授業改善の方向

小数倍，単位量あたり，百分率など，割合（比の考え方）を用いて学ぶ学習は，自力解決の前に，既習事項を整理し「見通し」をもって自力解決に臨めるようにしましょう。「比べる量」「もとにする量」「倍（割合）」など，2つの量の関係で何を基準にするかを考え，絵や図，数直線，図，数式，言葉の式で表現していくことで，子供たちの思考が深まります。

#### (2) 指導例 「比べ方を考えよう」

【問題】家で使っているせんざいが，20%増量して売られていました。増量後のせんざいの量は480mLです。増量前のせんざいの量は何mLですか。

#### 1 ねらいを明確にする

教師：「どんな式になりますか。」

児童1： $480 \times 0.8$

児童2： $480 \div 1.2$

児童3： $480 \div 0.2$

**ねらい** 20%増量する前の量を求めるための正しい式を，数直線をもとに考えましょう。

#### 2 見通しを持たせる【既習事項から】

<p>第1学年「ながさくらべ」 例「消しゴム四つ分の長さが，鉛筆の長さになります。」 →基準となる長さを基に，長さを測定する。</p>	<p>第2学年「1000までの数」 例「200は100が二つ分の数です。また，10が20個分の数です。」 →10や100などを単位として数の大きさを捉える。</p>	<p>第2学年「かけ算」 例「3cmの二つ分のことを3cmの2倍といい，<math>3 \times 2</math>と表します。」 →二つの数量の関係を倍を使って捉える。</p>	<p>20%の増量とは，どういことでしょうか。</p> <p>20%増量して，100%になることだと思います。</p>
<p>第4学年「小数のわり算」 例「赤色のテープの長さ30cmは青色のテープの長さ20cmの1.5倍です。」 →基準量と比較量から倍を求める。</p>	<p>第5学年「小数のかけ算」 例「1mの値段が80円のリボンがあるとき，このリボンの0.8mの代金は64円です。」 →基準量と割合から比較量を求める。</p>	<p>第5学年「小数のわり算」 例「ある犬の生後10日の体重が630gで，生まれたときの体重の1.8倍にあたる時，生まれたときの犬の体重は350gです。」 →比較量と割合から基準量を求める。</p>	<p>20%増えることですね。</p> <p>100%から，20%増量することだと思います。</p>

**自力解決**

図から分かったことをもとに，増量前後の関係をテープ図や数直線に表してみましょう。

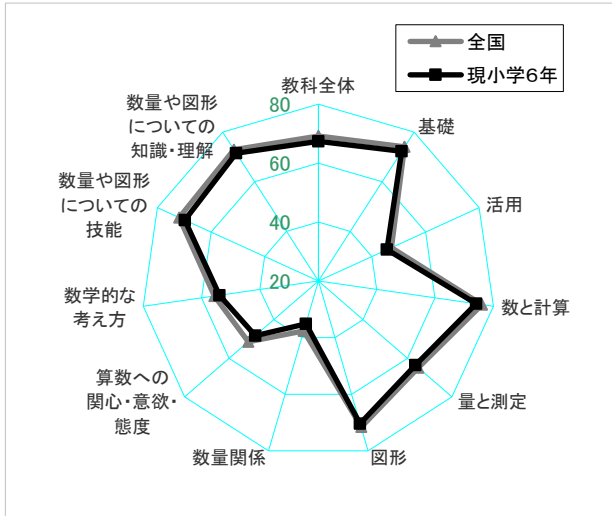
#### 《ワンポイントアドバイス》

- ・図や式を関連づけ，計算のイメージを持たせましょう。実感を伴って理解させることが大切です。
- ・なぜそのように計算したのか，根拠や意図を明らかにし，筋道立てた説明のためのモデルをつくりましょう。その際，算数の用語を適切に使わせる事も大切です。
- ・聞いている人に分かりやすく伝えるために，図を指し示しながら説明させましょう。



# 小学 6年 算数

## 1. 全体傾向

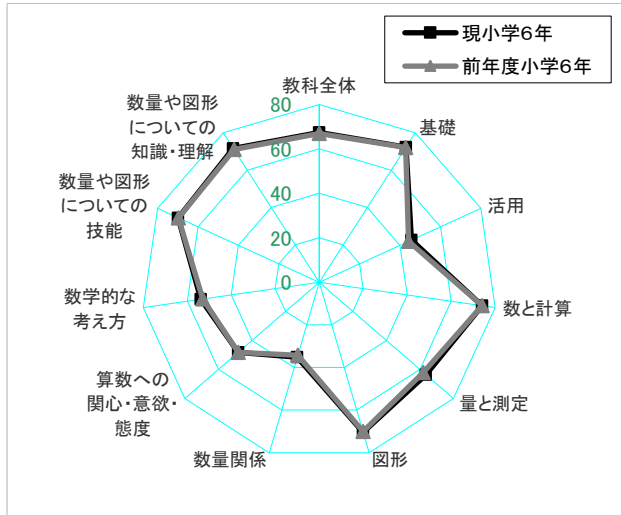
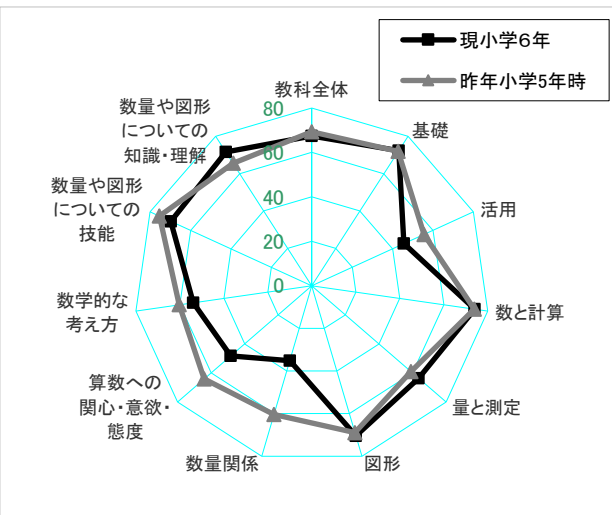


全体傾向は、全国平均を若干下回り、基礎内容に比べて活用内容が下回っている。

領域別では、数と計算と図形の分野は目標値が高く、数量関係の分野の目標値は低い、全国平均とほぼ同等である。量と測定の分野は全国との差が一番大きい。

観点別では、どの観点もやや下回り、算数への関心・意欲・態度が全国との差が一番大きい。

## 2. 経年変化



昨年の5年時と比べると基礎力はほぼ同等であるが活用力が大きく下回った。領域で顕著なのが数量関係で、大幅に下回っている。観点別では、知識理解は上まっているものの他の3つの観点は、下回り、算数への関心意欲態度が一番差が大きい。

前年度6年生との比較は、ほぼ同等の傾向が見られる。

### <強み>

- △「数と計算」分野では、計算の技能に高い定着率。
- △「図形」分野では、図形の角・円周を技能的に求める問題
- △「量と測定」の知識、技能を理解し求める面積や体積の問題

### <弱み>

- ▼「数と計算」分野の小数・分数の計算の確実な理解
- ▼「図形」の思考・判断力を要する問題
- ▼「量と測定」の単位量あたりの大きさの内容
- ▼「数量関係」の百分率とグラフの内容

#### 4 授業改善の方向, 効果的指導例

### 筋道立てて考え表現できる授業の構成

指導例

目標及び内容B (4) 速さ

速さについて理解し, 求めることができるようにする。



第5学年で学習する割合の内容は, 多くの単元・内容が関連します。第6学年では, 異種の二つの量の割合である速さについて学習します。

速さの学習では, 単に公式に当てはめてしまいがちなため, 文章の意味を理解していないことが原因の誤答が多くなります。

#### 【問題】

180km を 3 時間で進む速さは  
時速何 km ですか。

1.言葉の意味を確実に押さえます。

「速さ=道のり÷時間」と公式に  
あてはめてしまいがち…



「時速」とは, 1 時間  
あたりに進む道のり  
(距離) です。

2.求めるものは何かを明確にします。

3.答えを求めます。

180km を 3 時間ですから, 3 等分する  
と 1 時間に進む道のりが出ます。

$180 \div 3 = 60$  ですから, 1 時間に  
60km 進める速さですので,  
時速 60km になります。

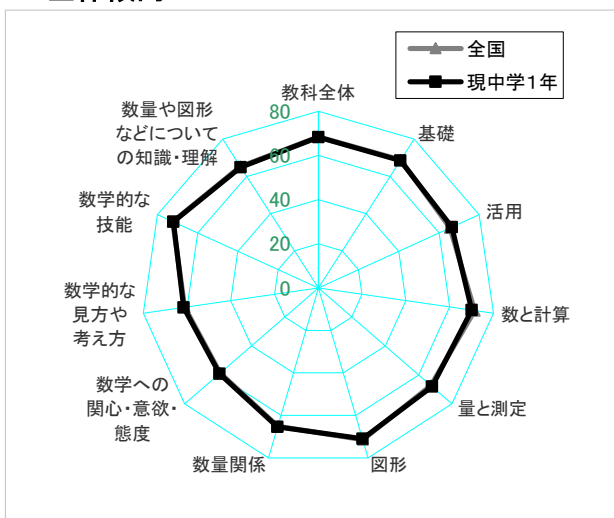
#### 《ワンポイントアドバイス》

考え方を記述する際の無記述が目立ちます。授業の中で, 解答をどのように導き出したのか筋道立てて児童同士で説明したり, ノートに記述したりする場面を作りましょう。また, 友達がどのように考えたのか, 別の児童に説明させる活動も効果的です。



## 中学 1年 数学

### 1. 全体傾向

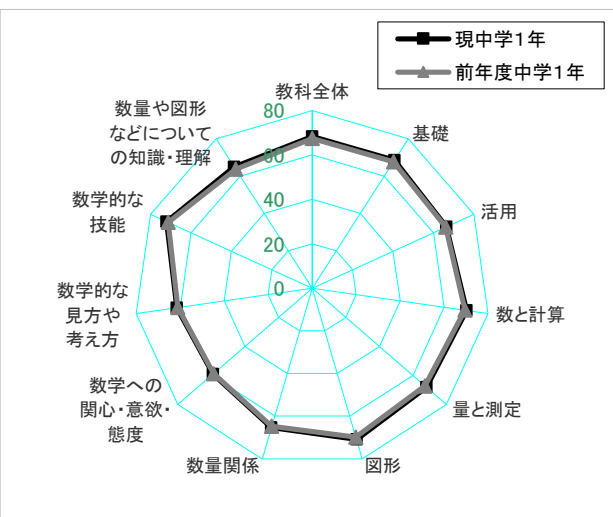
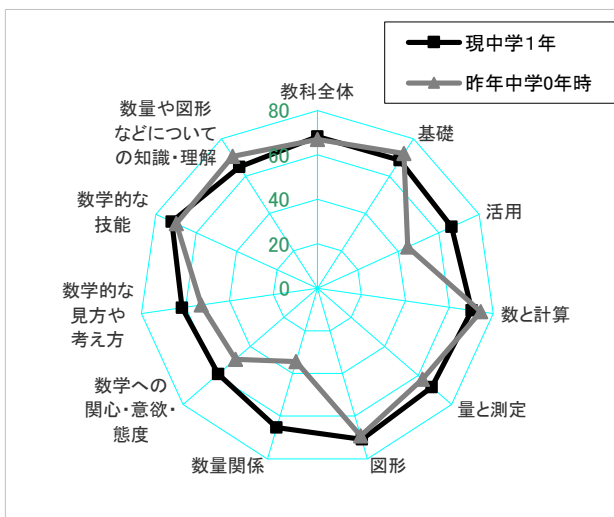


全体傾向は、すべての項目で全国と1ポイント未満でほぼ同等の数値である。

4つの領域の中で比べると数量関係が全体的に低い。

観点別では数学への関心・意欲・態度及び数学的な見方や考え方において低い傾向がある。

### 2. 経年変化



昨年度小学6年時と比べると基礎力が若干下がり、活用力が大幅に上昇した。領域別では数量関係が大幅に上昇し量と測定もやや上昇している。観点では知識・理解がやや下がっているが数学的な見方や考え方と数学への関心・意欲・態度が上昇し、全体的に平均化してきた。

前年度中学1年生徒の比較は、ほぼ同等の数値であるが、全項目において現中学1年生の方が上回っている。しかし、最大1.2ポイントの差である。

#### <強み>

△「数と計算」の技能的な計算

△「量と測定」の思考力を要する面積と体積の問題及び単位量あたりの大きさの考え方。

△「図形」の平面図形の知識理解

△「数量関係」の文字と式の技能と数学的な考え方及び棒グラフの読み取り

#### <弱み>

▼「数と計算」の分数の四則混合の計算

▼「図形」合同な四角形

▼「数量関係」2つの量が反比例している数量関係

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

##### (1) 授業改善の方向

第1学年の「一元一次方程式」の指導では、文字を用いた式の学習の上に立って、方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解し、等式の性質を基にして一元一次方程式を解く方法を考える。そしてそれらを通して、代数的な操作のよさを理解する。その活用としての文章題は、学び合いなどの活動を通して、立式の過程を自分の言葉で他者に伝えたり（方程式を使わない小学校の方法を含む）、ダイアグラムを考察することによって求めた解の妥当性を探ったりするような数学的活動を取り入れたい。

##### (2) 効果的な指導例

弟は家を出発して学校に向かいました。

その4分後に、兄が家を出発して弟を追いかけてきました

弟は分速 50m, 兄は分速 70m で歩いたら、

兄は家を出発してから何分後に弟に追いつくか。



【何がわかっていて何を求める問題か？】弟が先行した時間と二人の歩く速さがわかっている

⇒ 4分間で弟は兄より 200m 先にいる

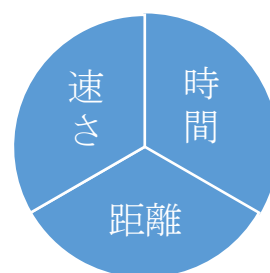
⇒ 1分間で 20m ずつ兄は弟の差を縮める

⇒  $200m \div 20m$  をすればいいんじゃない？ ⇒ **方程式は使わない**

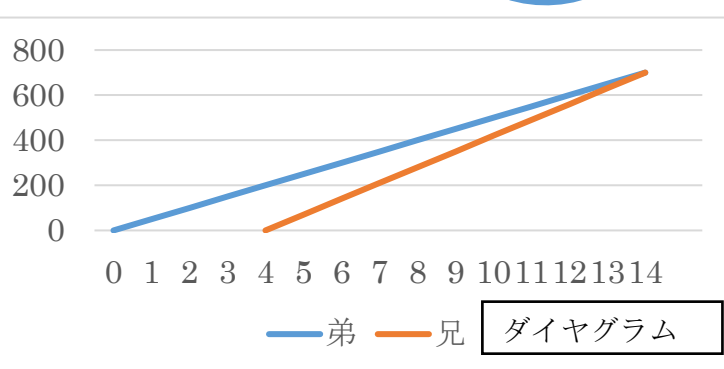
【何を未知数 X とする？】兄が追いつくまでの時間を X とする(左下表)

⇒ 弟は兄の4分前に出発している

⇒ 追いつくまでに二人の歩いた距離は等しい ⇒ **方程式を使う**



	弟 * 分速 50m	兄 * 分速 70m
時間	$X + 4$	$X$
距離	$50(X + 4)$	$70X$



##### 《ワンポイントアドバイス》

○ 伝え合う活動を通して、自分の説明の改善を図るようにする。

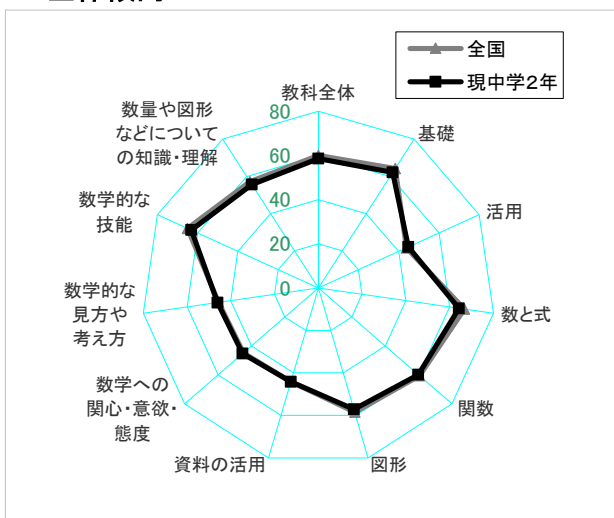
多様な方法で解決できる問題では、自分の考えを他者に説明する活動を充実する。

○ 求めた解が、題意に即しているか振り返って考えることができるようにする。

方程式とグラフの関係について、2学年の学習の素地となる。(右上グラフ)

## 中学 2年 数学

### 1. 全体傾向

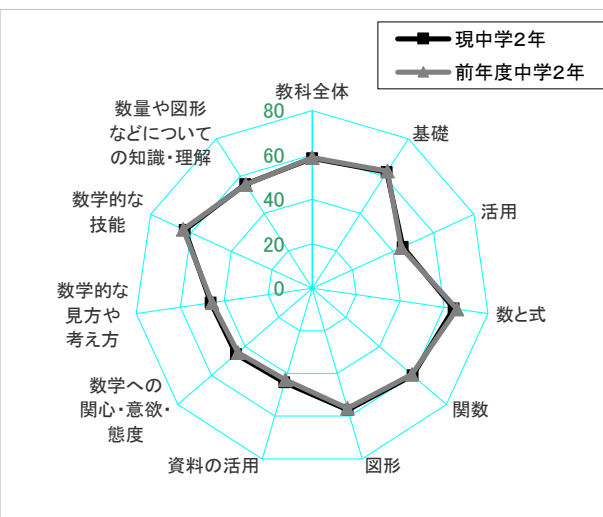
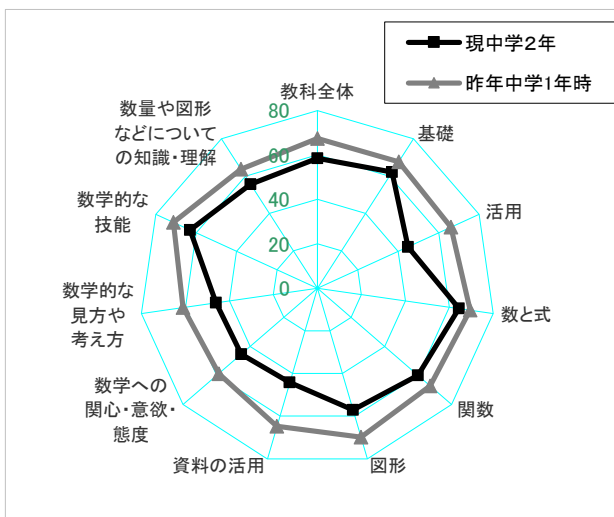


#### コメント

平均正答率に関しては、全国とほぼ同程度で、良好な状況である。

問題の内容面からみると、小学校の計算の復習や正の数・負の数の正答率が高いが、「数と式」領域の1次方程式の解法に関する「数学的な技能」は定着しているとは言えない。また、「関数」領域の比例の式からグラフをかいたり、条件に見合うグラフを選ぶなどの問題の正答率が低い傾向がある。

### 2. 経年変化



#### コメント

昨年の1年時と比べると、すべての領域・観点ともに下回っている。基礎内容はやや下回っている程度で、活用内容は大幅に下がっている。中学校数学の内容の難易度が高くなった影響によると思われる。

#### コメント

全体的に平成26年度とほぼ同等だが、正答率は若干下回っている。しかし、「資料の活用」の領域で全国を上回る問題がある。観点別では、「数学への関心・意欲・態度」と「数学的な見方や考え方」の観点でやや下回っていることで応用問題に弱い傾向がうかがえる。

### 3. 強みと弱み

○計算の復習や正の数・負の数の「数と式」領域の「数学的な技能」の観点で定着している。

○「図形」領域の空間図形の問題内容で、知識・理解の観点で定着している。

●「関数」領域の比例・反比例の内容において、式とグラフの読み取りの知識・理解と技能に課題がある

●「資料の活用」領域の「資料の散らばりと代表値」の内容で、知識・理解と考え方に課題がある。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

##### (1) 授業改善の方向

第2学年の「連立二元一次方程式」の指導では、第1学年の一元一次方程式の学習の上に立って、二元一次方程式とその解の意味や二元一次方程式を連立させることの必要性と意味及び連立二元一次方程式の解の意味を理解し、解を求めることができるようにする。その活用としての文章題は、学び合いなどの活動を通して、立式の過程を分かりやすく表現し、自分の言葉で他者に伝えあうようにしたい。

##### (2) 効果的な指導例

Aさんは自宅から峠を越えて18km離れた湖まで自転車で行きました。

自宅から峠までは時速8km,

峠から湖まで時速12kmで走ったら,

自宅を出発してから2時間で湖に着きました。

自宅から峠まで、峠から湖までの距離は何kmか。



【何を求める問題がつかれる?】

全体の距離と時間, 2つの速さがわかっている

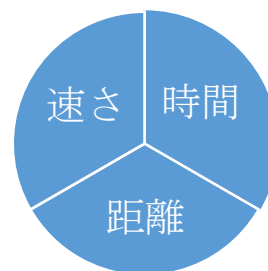
⇒ 峠までの距離と湖までの距離を求める

峠までの時間と湖までの時間を求める

【そのためには何を未知数XとYにする?】

⇒ 峠までの距離をX, 湖までの距離をYとする(左下表)

峠までの時間をX, 湖までの時間をYとする(右下表)



	自宅～峠 * 時速8km	峠～湖 * 時速12km	対 比	自宅～峠 * 時速8km	峠～湖 * 時速12km
距離 km * 全体18km	X	y		8x	12y
時間 時 * 全体2時間	x/8	y/12		x	y

《ワンポイントアドバイス》

○伝え合う活動を通して、自分の説明の改善を図るようにする。

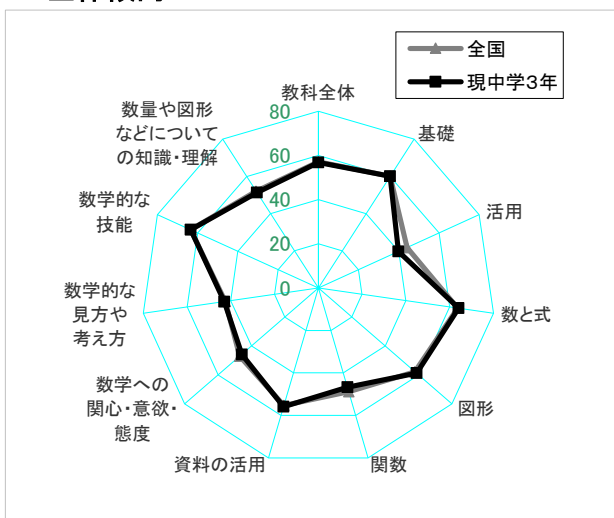
多様な方法で解決できる問題では、自分の考えを他者に説明する活動を充実する。

○伝え合う活動において、他者の考えを読み取ることができるようにする。

相手に式からどのように考えられるのかを推測させ、説明させる。

## 中学 3年 数学

### 1. 全体傾向

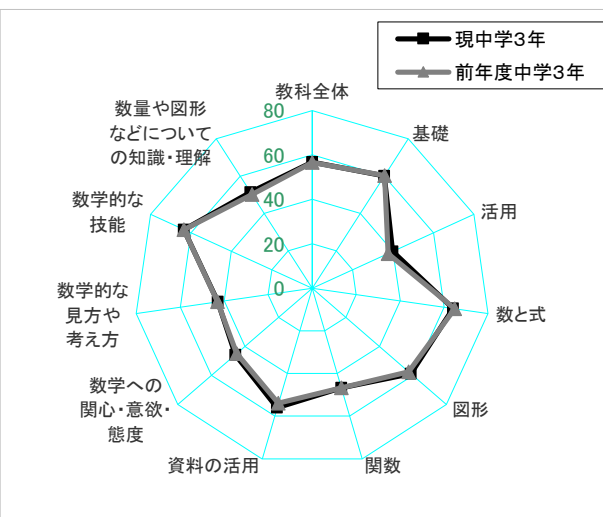
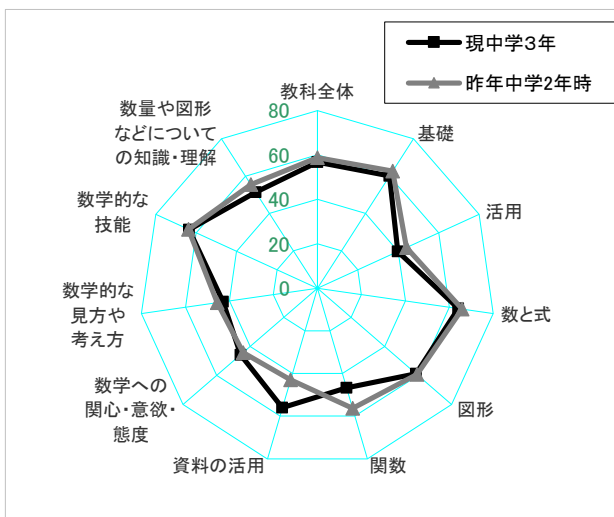


#### コメント

平均正答率に関しては、全国とほぼ同程度で、良好な状況である。

問題の内容面からみると、全国的な傾向として、計算の復習や図形の性質の正答率は高く、「数と式」と「図形」の領域の「数学的な技能」は定着している。その反面、1次関数と証明問題の正答率が低く、「数学的な見方や考え方」が定着していない傾向がある。

### 2. 経年変化



#### コメント

昨年の2年時と比べると基礎・活用内容ともに下回り、「数量や図形などについての知識・理解」の観点も下がっている。領域別でみると「関数」分野が大きく下回っているが、図形と関数が融合した総合問題によると思われる。

#### コメント

基礎内容は、平成26年度とほぼ同じであるが、活用内容で下回っている。「数学への関心・意欲・態度」と「数量や図形などについての知識・理解」の観点で下回っていることは、じっくり考えて答える問題に弱い面がうかがえる。

### 3. 強みと弱み

○計算の復習や式の計算の「数学的な技能」の観点は、全国平均を上回り、定着している。

○「図形」領域の図形の性質の問題内容で、知識・理解と技能の観点が定着している。

- 「関数」領域の1次関数の内容において、グラフを読み取る知識・理解を要する問題での正答率が低い。
- 連立方程式の問題文とそれを解くための連立方程式を読み取り、 $x$ と $y$ が何を表すのかに課題がある。
- 「図形」領域の証明問題の正答率が低い。
- 「資料の活用」領域の確率は、技能に課題がある。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

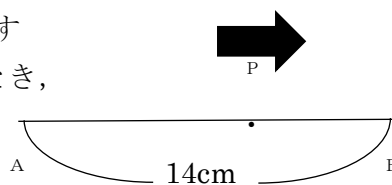
##### (1) 授業改善の方向

第3学年の「二次方程式」の指導では, これまでの方程式の学習の上に立って, 二次方程式を解くことができ, それを具体的な問題解決場面で活用できるようにすることによって, 方程式をこれまでより多くの場面で問題の解決に活用できるようにする。その際, 数学的な表現を用いて根拠を明らかにし, 筋道立ててお互いに説明し合う活動を取り入れるようにしたい。

##### (2) 効果的な指導例

長さが 14cm の線分 AB があります。

点 P は点 A を出発して秒速 2cm で点 B まで動きます  
AP, PB をそれぞれ一辺とする正方形をつくるとき,  
その面積の和が  $100\text{cm}^2$  になるのは,  
点 P が点 A を出発してから何秒後か。



##### ① まず極端な場合を考える

《点 P が点 A あるいは点 B 上のとき》

1 辺が 14cm の一つの正方形となる

⇒ この問題の最大値は  $196\text{cm}^2$

《点 P が線分 AB 上の midpoint のとき》

1 辺が 7cm の合同な二つの正方形となる

⇒ この問題の最小値は  $98\text{cm}^2$

求める場合は 2通りあるのかな？

##### ② 次に一般的な場合を考える

【何を未知数 X にする？】

⇒ AP を X とすると BP は  $14-X$  と表せる

【X を使った方程式は？】

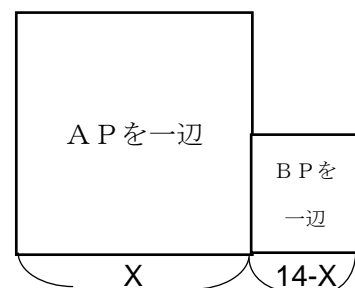
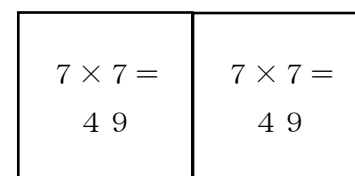
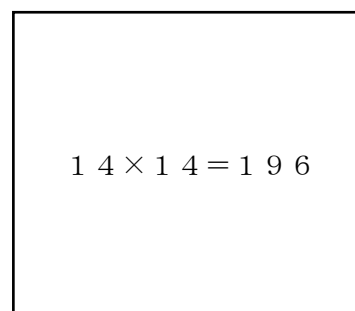
⇒ AP を一辺とする正方形は  $X^2\text{cm}^2$

⇒ BP を一辺とする正方形は  $(14-X)^2\text{cm}^2$

⇒ 面積の和が  $100\text{cm}^2$  だから・・・

求める場合は右側が大, 左側が小と

右側が小, 左側が大の 2通り！



##### 《ワンポイントアドバイス》

##### ○見通し(イメージ)を持たせるため, 図を示して自分の考えを他者に説明する活動

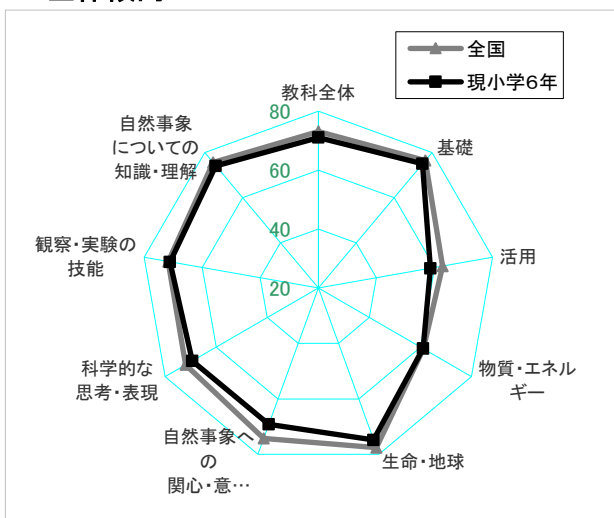
点 P が移動するに従って 2 つの正方形の大小関係が入れ替わるイメージがもてる。

##### ○論理的思考(詰める力)を養うため, 自分と相手の考えの相違を考える活動

求める解の個数が 2 つで正しいという判断が説明できる。

# 小学 6年 理科

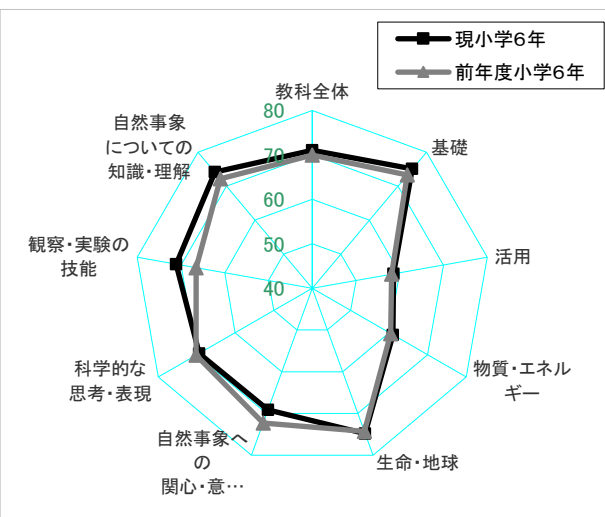
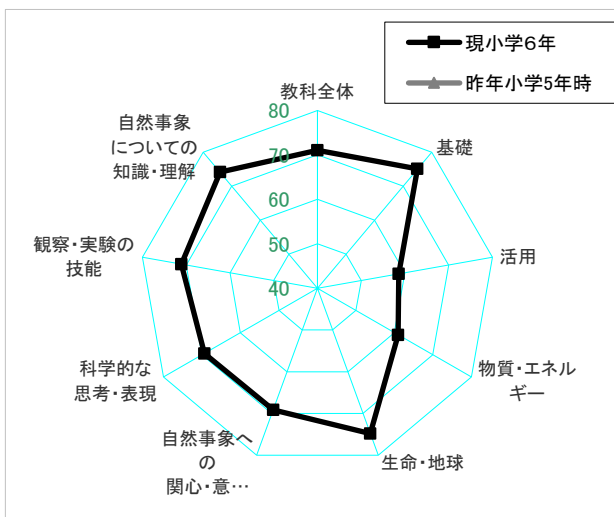
## 1. 全体傾向



### コメント

- ・学習の到達度は、全国平均と比較し、やや下回る。
- ・「活用」に課題がある。
- ・「自然現象への関心・意欲・態度」「科学的な思考・表現」を問う問題において、全国平均をやや下回っている。
- ・「観察・実験の技能」については、概ね身につけている。

## 2. 経年変化



### コメント

第5学年では柏市学力・学習状況調査の理科を実施していない。

### コメント

- ・「観察・実験の技能」については、昨年度より上回っている。
- ・「自然現象への関心・意欲・態度」については、下回っている。
- ・そのほかの分野においては、概ね、昨年度と同じ傾向である。

## 3. 強みと弱み

### <強み>

- 全国とほぼ同程度、達成されている。
- 「天気の変化」「植物の発芽と成長」の分野は、概ね理解できている。
- 「観察・実験の技能」については、理解が高まっている。

### <弱み>

- 「自然現象への関心・意欲・態度」が下回っている。学習への意欲付けが重要である。
- 「活用」の学力到達度がやや不十分である。実験の考察等での思考力向上が必要である。
- 「流れる水のはたらき」「人のたんじょう」が他の分野よりもできていない。



#### 4. 授業改善の方向，効果的指導例

##### (1) 授業改善の方向

理科の学習の流れとして，学習問題，予想，結果，考察やまとめの一連の流れを大切に  
して授業を構成し，問題解決型の学習を計画することが重要である。

科学的な見方や考え方が深まるように，予想や仮説と結果を関係づけながら言葉と体  
験を結びつけて考え，考察を言語化し表現するようにしたい。

そして，目的を持った観察や実験を通じて「体験活動」と「言語活動」を充実させ，学  
びの質を向上させていきたい。

##### (2) 効果的な指導例

###### ① 児童の視点を意識した学習ができるようにする。

児童全員が予想を立てられることが理想的ではあるが，中には，どうしても考えつ  
かない児童もいる。そのようなときは，他の児童が予想した考えをもとに自分の予想  
を立てたり，教員側で予想を3択や4択にして児童に選ばせ，どうしてその考えにし  
たのかを考えさせたりすることも有効である。

例：「水よう液のおもさ（5年 p. 132）」

<学習内容>

水とものを合わせた重さと，とかしたあとの水よう液の重さは，ちがうだろうか

<予想の3択の例>

- ①重くなる（理由：ものを加えるということは，重くなるはずだ。等）
- ②軽くなる（理由：ものが見えなくなるということは，軽くなるはずだ。等）
- ③変わらない（理由：ものが見えなくてもなくなったわけではない。等）

\*初めに児童に予想を発表させて，予想の整理をしていくのもよい。

\*具体的に予想をもって，観察や実験に臨むことは，学習に対する視点を持ち，意欲的  
に調べることにつながる。

###### ② 考察やまとめを深められるようにする

観察・実験の結果を踏まえた考察やまとめが導き出せるようにする。そのためには，  
自分の考えをもとに，児童同士のグループやペアでの「学び合い」の場を設定すること  
が重要である。その後で，自分の言葉でまとめが書くことができるようにする。

<考察・まとめの例>

「水の重さ」+「とかしたものの重さ」=「水よう液の重さ」と表すことができる。

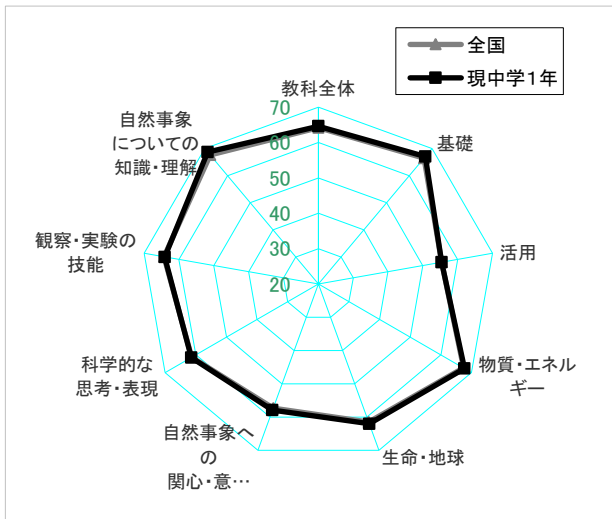
理由：水にもものをとかす前ととかしたあとで重さは変わらなかったから。

- \*③の予想が正しかったことについて，まとめの理由が書かれていることが必要である。
- \*ものが水にとけたときに，ものが見えなくなることなど疑問が深まり，その様子を表現  
できれば，科学的な見方や考え方が深まる。

※児童が，新たな疑問や興味がわくことが科学的思考の深まりを高めることとなります

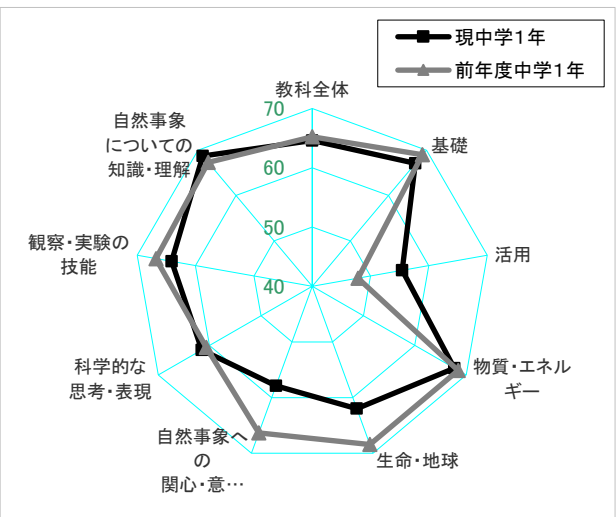
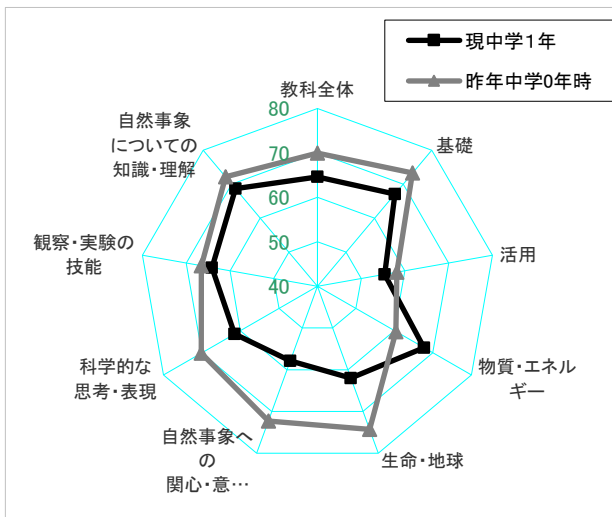
# 中学 1年 理科

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・学習の到達度は、全国平均と同等である。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 ・昨年度の6年生と比較すると、大きな違いがあるが、「物質とエネルギー」の分野は上回っている。

**コメント**  
 ・「活用」が大きく伸びている。  
 ・「自然事象への関心・意欲・態度」「生命・地球」「実験・観察の技能」については、大きく下回っている。

## 3. 強みと弱み

### <強み>

- 全体的には今回出題された内容については、おおむね身についていると考えられる。
- 「自然事象についての知識・理解」は、おおむね身についていると考えられる。

### <弱み>

- 昨年度の1年生と比較すると、低下した領域があるのが課題である。

#### 4. 授業改善の方向，効果的指導例

##### (1) 授業改善の方向

中学校では，観察・実験の結果を分析して解釈する能力や，導き出した自らの考えを表現する能力の育成を目指している。そのためには，教科を横断した「言語活動の充実」が重要である。

生徒が教えあい，学び合う時間を設けることにより，知識の定着はもとより，生徒に自己決定の場面を与え，自己肯定感や自己有用感を育むことができる。加えて，観察・実験前後の時間を充実させていくことで，生徒に主体的な学びを促すことになる。

##### 【観察・実験の「意義づけ」】

- ・本時のねらいを明確にして，子どもと共有し，観察や実験に意味を持たせる。
- ・学習問題，予想，結果，考察，まとめの時間を確保する。

##### 【観察・実験の「価値づけ」】

- ・グループ，ペアなど話し合う時間を設け，用語・原理・法則への理解を深める。
- ・まとめを子どもと共に練り上げたり，自分の言葉で書かせたりする。

##### (2) 効果的な指導例

##### ☆ 指導・学習活動例 ☆

観察の結果を適切に分析して解釈し，まとめたものを筋道立てて説明することで，思考力・判断力・表現力を育成する。

#### 第2分野・第1学年 大地のつくりとその変化

文部科学省  
「言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】」より

##### 1 ねらい

8個の岩石を観察して2～3種類に分類する作業を通して，岩石は鉱物の大きさや色，組織等の視点から整理することが適当であることに気付く。

##### 2 本時の展開と言語活動の充実の工夫

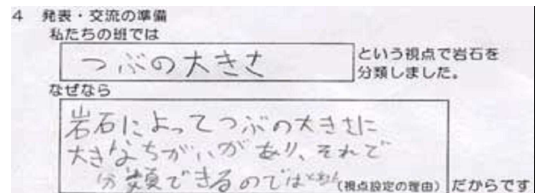
##### ○既習内容や知識を根拠にして分類の視点を見いだす

- ・既習内容として，生徒は前時までに，火山の形や噴火の様子と噴出物の色の関係，火山灰の様子，造岩鉱物の生成過程などについて学習している。そのことを生かして，未知の岩石を調べる学習である。
- ・観察の段階では，ルーペなどの観察器具を使用することに気付いたり，分類の段階では，火山噴出物の色や鉱物の生成過程と結び付け，岩石を色や構成する粒の大きさなどを基準として分類することを見いだすことができた
- ・「これまでに得た知識や学習経験などが根拠となっているかな」と，問い返しをすることで，より深く，筋道立てた思考へと導くことができた。



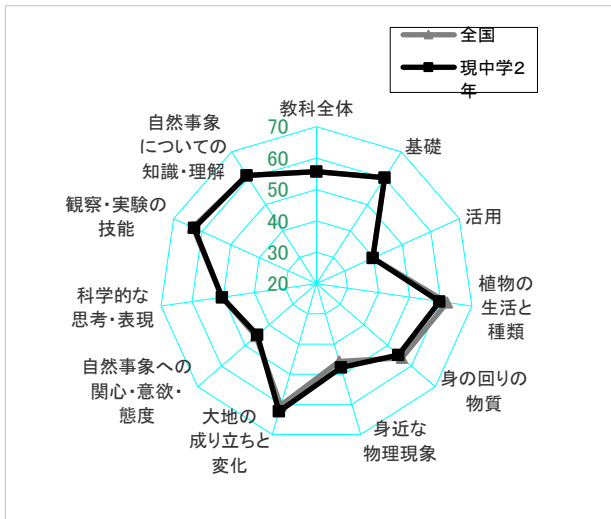
##### ○思考過程を明確にするワークシートを工夫する

- ・①分類の視点②視点設定の理由③分類結果のように，定型化したワークシートに記録する。これにより生徒は自分の思考過程を明確にすることができた。
- ・分類の結果を全体交流する際，表現活動を苦手とする生徒も記述内容を基に自らの学習成果を安心して発表することができた。全体交流の場面に，より多くの生徒が関わりやすくなることで，交流が活発なものとなった。
- ・資料集にある分類表と自分たちの分類を比較させた際，自分たちの視点と対比させながら，分類表からより深く情報を読み取っていく様子が見られた。



## 中学 2年 理科

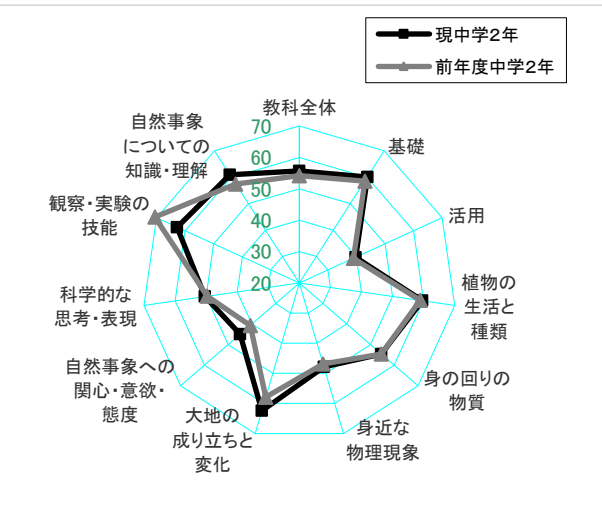
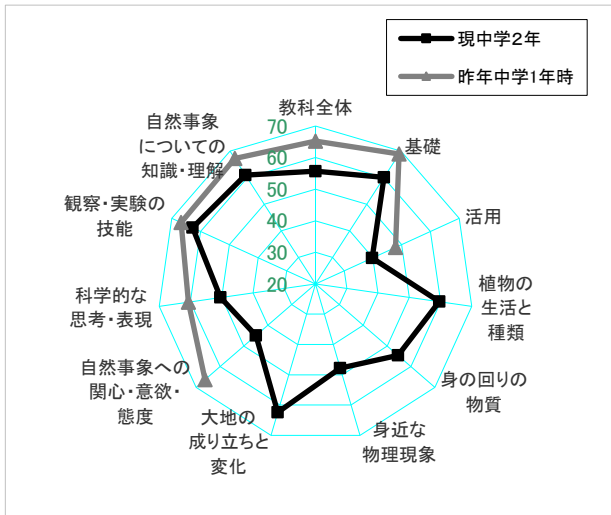
### 1. 全体傾向



#### コメント

- ・学習の到達度は、全国平均とほぼ同等か若干下回っている。
- ・「植物の生活と種類」「身の回りの物質」の領域の学習には課題がある。
- ・「身近な物理現象」「大地の成り立ちと変化」の領域の学習は概ね良好である。

### 2. 経年変化



#### コメント

- ・中学1年生の時と比較すると、落ち込んでいる。

#### コメント

- ・「自然現象への関心・意欲・態度」「自然現象についての知識・理解」が向上している。
- ・「観察・実験の技能」低下している。

### 3. 強みと弱み

#### <強み>

- 全体的には今回出題された内容については、おおむね身につけていると考えられる。
- 「自然現象への関心・意欲・態度」「自然現象についての知識・理解」が向上している。

#### <弱み>

- 「観察・実験の技能」が昨年度の2年生より低下しているのが課題である。

#### 4. 授業改善の方向，効果的指導例

##### (1) 授業改善の方向

理科の学習に対して，意欲的に取り組ませるためには，目的意識を持たせることが必要である。実験や観察を行うにあたり，自分で仮説を設定して実験を計画していくことで，学習意欲が高まると考えられる。

しかし，漠然と仮説を立てることは困難である。そのために，仮説を設定するための条件をいくつか提示することは，生徒が筋道を立てて考えさせるには有効であろう。また，仮説を話し合いで深めていくことも，学習のねらいを生徒に明確に持たせることができる。

仮説を意識させることが，授業改善の第一歩になるはずである。

##### (2) 効果的な指導例

###### ☆ 指導・学習活動例 ☆

- 話し合いにより，仮説を意識した対照実験を計画できるようにする。

#### 第2分野・第2学年 気象とその変化

文部科学省  
「言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】より

##### 1 ねらい

霧ができる条件を見だし，霧のでき方を説明できる。

##### 2 本時の展開と言語活動の充実の工夫

###### ○グラフの読み取りを生かした仮説の設定

- ・放射霧を扱い，早朝に霧ができた日とできなかった日の気温変化のグラフを比較して違いを読み取り，それを基に霧ができる条件を考えた。
- ・全ての生徒が「気温が下がること」を導き出し，根拠をもって仮説を立てることができた。

###### ○話し合いによる仮説を意識した対照実験の計画

- ・仮説を検証することを意識した実験を計画するために，実験の様子を示した4種類のカード(A:ぬるま湯を入れ保冷剤で冷やすビーカー，B:ぬるま湯を入れたビーカー，C:くみおきの水を入れて保冷剤で冷やすビーカー，D:くみおきの水を入れたビーカー)を示し，これらのカードを何枚か組み合わせて実験を計画した。
- ・仮説と条件制御の関係を意識しながら実験方法について個人の考えをグループで話し合っただけでなく，仮説が正しければどのような結果が期待できるか検討した。多くのグループがAとB(実験①)またはCとD(実験②)を組み合わせた実験を計画した。

###### ○結論を導き，結論で導いた言葉をキーワードにして霧のでき方を説明する場の設定

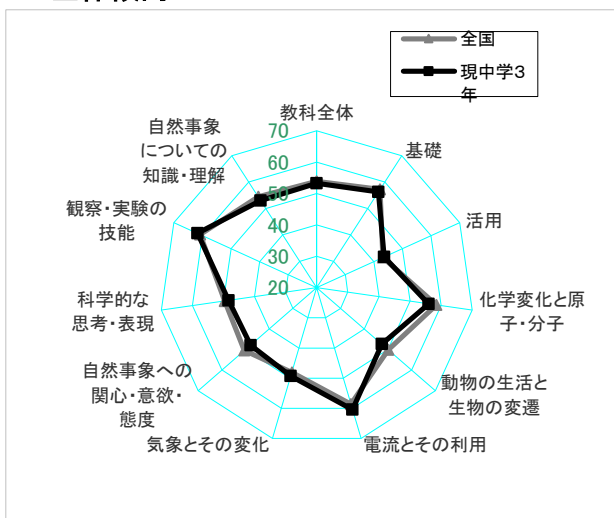
- ・実験後，グループごとに，仮説，実験方法を表した図，実験結果の予想，結果，結論を1枚の用紙にまとめ，提示しながら発表し交流を図った。
- ・交流を通して，霧ができる条件として気温が下がることを導くことができた。
- ・実験①・③の両方を行ったグループの発表を聞き，霧をつくる水滴は大気中の水蒸気が素になっていることに気付くこともできた。
- ・霧ができる条件を振り返り，霧のでき方を「水蒸気」と「気温」の2語を使って説明する活動を行った。「水滴」という言葉を自ら補って説明し，霧ができる仕組みを科学的にとらえることができた。
- ・学習後，「気温が下がるのはどうしてか。」，「気温が下がってもいつも霧ができるとは限らないのはどうしてか。」など多数の疑問がでてきた。これらの質問については，放射冷却を紹介したり，飽和水蒸気量の概念を導入した学習を行ったりすることで解決することができた。

#### 〔5〕班 霧ができる条件



## 中学 3年 理科

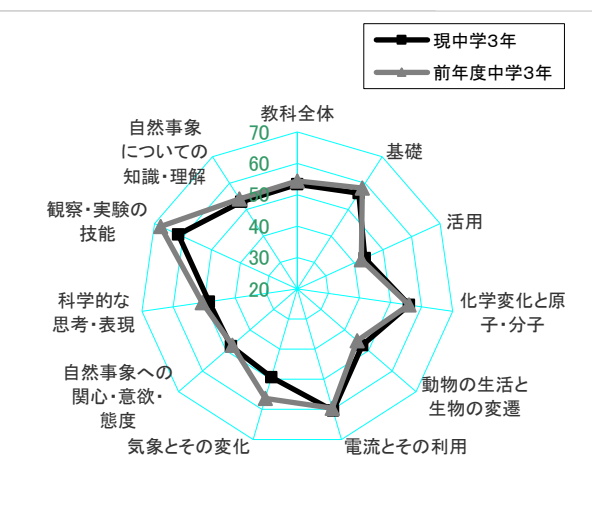
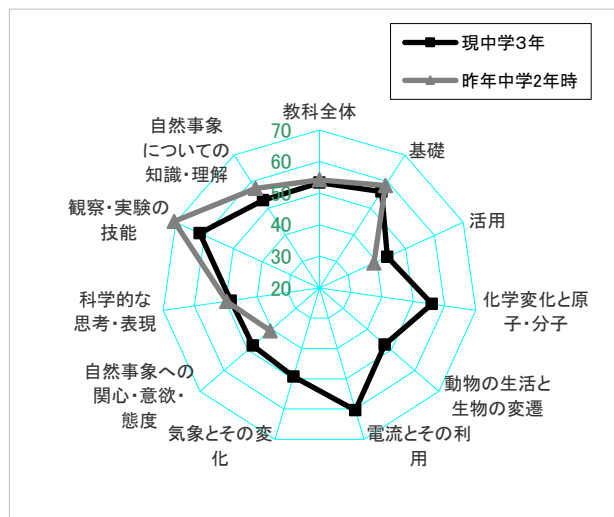
### 1. 全体傾向



#### コメント

- ・学習の到達度は、全国平均とほぼ同程度か若干下回っている。
- ・「観察・実験の技能」については、身につけている生徒が多い。
- ・「電流とその利用」の領域の学習は良好である。
- ・「自然現象への関心・意欲・態度」が下回っている。
- ・「化学変化と原子・分子」「動物の生活と生物の変遷」の領域の学習には課題がある。

### 2. 経年変化



#### コメント

- ・「自然現象への関心・意欲・態度」及び「活用」が向上している。

#### コメント

- ・「動物の生活と生物の変遷」の領域は上回っている。
- ・「実験・観察の技能」及び「気象とその変化」は下回っている。

### 3. 強みと弱み

#### <強み>

- 全体的には今回出題された内容については、おおむね身につけていると考えられる。

#### <弱み>

- 「自然現象への関心・意欲・態度」が課題である。



#### 4. 授業改善の方向，効果的指導例

##### (1) 授業改善の方向

中学3年生では、今までに学習してきたことを生かして、生徒に授業に取り組ませるようにしていくことも大切である。知識を生かして、自分の考えを深めていく学習が望まれる。

課題の本質を十分理解して学習するためには、自分の考えに他者の意見を取り入れながら、内容を理解していく必要がある。そのためには、話し合い活動が大切であり、考えを深めるためには、情報を整理する必要がある。情報を整理するための手段の一つとして、ワークシートを用いることは有効であろう。また、他者に説明するための方法として、どのような方法が良いかを検討することも必要である。話し合い活動が、威容句を高め、理解を深めることにつながる。

##### (2) 効果的な指導例

##### ☆ 指導・学習活動例 ☆

##### ○ 討論させることで理解を深められるようにする。

第2分野・第3学年 細胞分裂と生物の成長

文部科学省  
「言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】」より

##### 1 ねらい

「単細胞生物と多細胞生物では、どちらが環境に適した生物だろう？」という課題に対する考えを既習の知識を活用して、科学的な視点で説明することができる。

##### 2 本時の展開と言語活動の充実の工夫

##### ○言語活動を充実させるためのワークシートの工夫

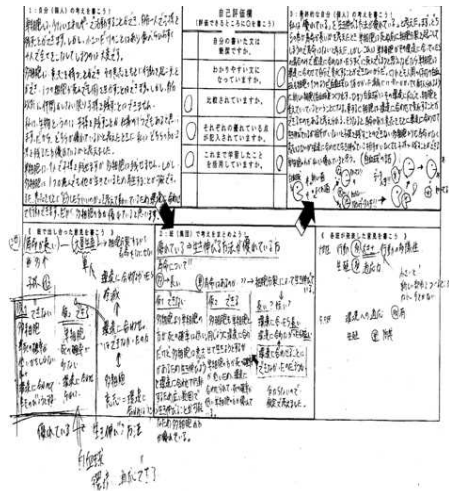
- ・他者の意見を取り入れることによって、課題に対する質的な高まりを各自が実感できるようにする。
- ・班員の意見や他の班の意見を記入できる欄を設定するとともに、最初の個人の考えが他者との話し合い活動を経て、どのように変化して最終的な個人の考えになったのか、比較できるように工夫した。
- ・話し合い活動を重ねると、考えが変化することを実感することができた。

##### ○図や絵などを活用しながら、意見を交流する

- ・同意・反対・修正等の議論を重ねる際、図や絵などを用いることで互いの考えの共有化を図ることができる。

##### ○討論の充実により思考を深める

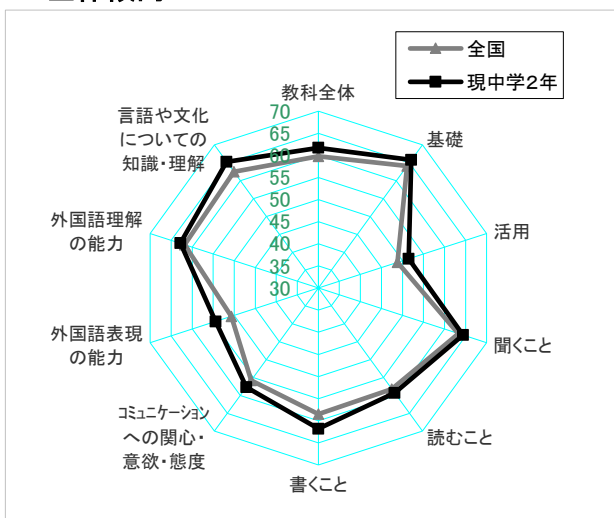
- ・「単細胞生物は、すべてが同じ情報だから、絶滅しやすい」という考えが多かった。しかし、他者の意見として、「多細胞生物の仲間は、子孫を残す相手を探さなければいけないが、単細胞生物の仲間は、相手を探す手間が省けるから、速やかに子孫を残すことができる」というものがでた。
- ・「多細胞生物は、複数の情報（遺伝子）を基に子孫を残すから、多様性があるが、単細胞生物の場合、多様性がないから、絶滅の可能性がある」との意見に対しては、「だからこそ単細胞生物は、比較的環境の変化の少ない水中で生活しているんだ」などの意見が次々に交わされた。
- ・一つの事象だけにとらわれず、これまでに学習した知識を駆使しながら、他者との交流を繰り返す中で、考えが広がり、深まっていくことを生徒自身が実感することができた。生徒から出された疑問は、学習意欲を喚起させる意味でも、次への学習につなげる意味でも、授業を構成する際に有効である。





## 中学 2年 英語

### 1. 全体傾向



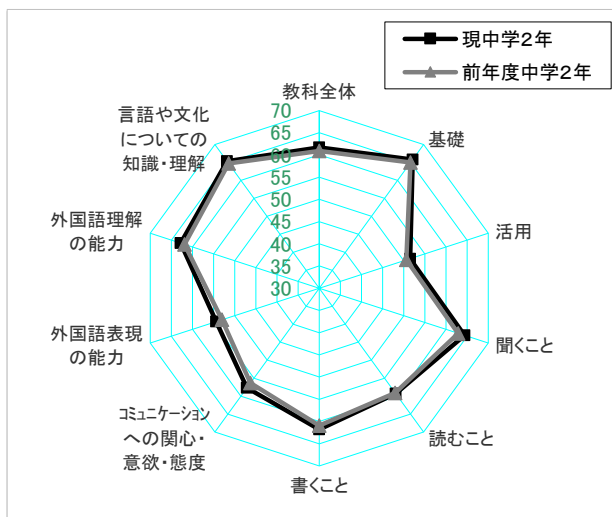
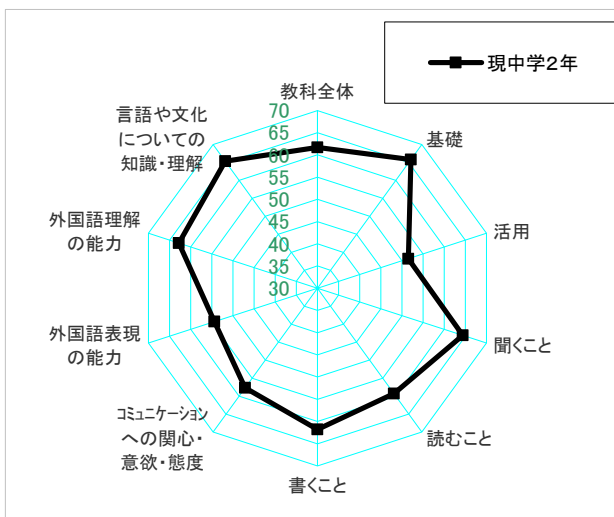
#### コメント

・柏市の正答率は、すべての領域・観点において全国の正答率を上回っている(1.0~3.7ポイント)。しかし、問題の内容別で比較すると、「リスニング」のいくつかの項目と「英作文」において全国の正答率をわずかに下回っている。また、長文の内容把握問題では全国より5.0ポイント下回るなど課題が見られる。

・柏市の強みと弱みの傾向は、全国と似ており、「活用」と「外国語表現の能力」が他のものと比べ弱いことがわかる。

・正答率が低い問題を見てみると、「長文の内容に関する質問に英語で答える問題」では34.5%である。

### 2. 経年変化



#### コメント

#### コメント

・今年度と昨年度の正答率の傾向はほぼ同じである。

・例年の傾向として見られるのは、「活用」が他と比べて明らかに低いことである。「外国語表現の能力」には、わずかながら向上が見られるので、このことを「活用」の正答率を上げることにつなげていきたい。

### 3. 強みと弱み(強み○ 弱み●)

- 「書くこと」の分野において、全国に比べ高い数値が見られる。
  - 「言語や文化についての知識理解」が特に優れている。
  - 「活用」には大きな課題があり、特に「外国語表現の能力」が低い。
  - 「基礎」的な知識を、「応用」的な知識による表現の能力までつなげることが必要となる。
- 「強み」の項目を表現活動に積極的に取り入れることで、「弱み」の克服につなげられると考える。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

中学2年生の時期:

小・中学校で英語を学習していく過程で、学習意欲を上げることがなかなかできない生徒が多くなる

1つの要因として:

- ・音声(聞く, 話す)の学習→文字(読む, 書く)の学習への移行
- ・文法などの学習内容が難しくなること

今回の調査結果から:

「聞くこと」の正答率が他の技能よりも高かったことを活かす

→「聞くこと」の活動を他の技能に「つなげる」活動や学習法を取り入れる

→学習意欲を高めることをねらいたい

〈「聞くこと」と「話すこと」をつなげる〉

- ・インタビューなどの会話活動(※起こりがちなミスの共有、修正まで)
- ・Q&A(一斉、ペアなど)
- ・ペア対抗、グループ対抗のクイズ活動
- ・英語の歌

〈「聞くこと」と「読むこと」をつなげる〉

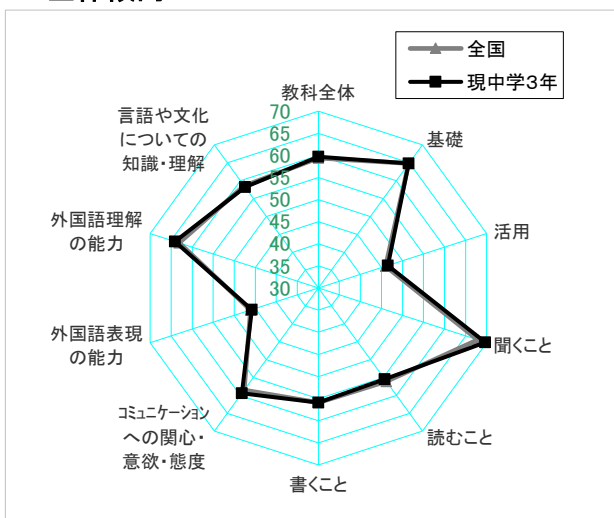
- ・英語の曲を聞いた後に歌詞を読んで意味を考える
- ・リスニングを十分に行った後に教科書の本文を扱う
- ・ストーリーの要約を音声で聞いてから、まとまった文章を読む

〈「聞くこと」と「書くこと」をつなげる〉

- ・ディクテーション
- ・聞いた内容を自分で要約して文を書く(単語からなど、段階を踏んで)
- ・スリーヒントクイズ:聞いたものを書き、グループで正解を考える

## 中学 3年 英語

### 1. 全体傾向

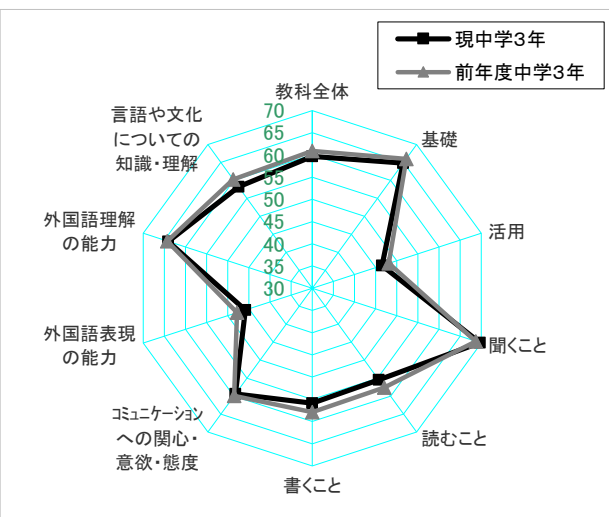
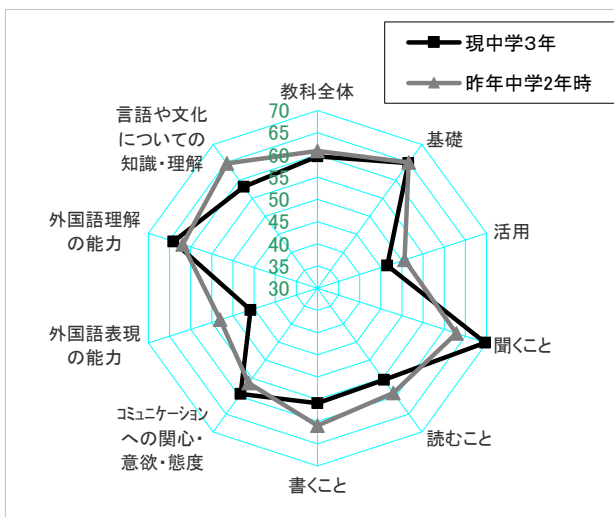


#### コメント

・柏市の正答率は、全国の正答率とほぼ同じと言える。わずかに上回っている(最大1.8ポイント)項目が多いが、「読むこと」、「外国語表現の能力」、「言語・文化についての知識・理解」の3項目ではやや下回っている。

・柏市の「弱み」の傾向は、全国と同様「活用」と「外国語表現の能力」にあると読み取れる。  
・正答率の低い問題は、長文の内容に関する質問に英語で答える問題、英語でたずねる文を書く問題、語形・語法の理解に関する問題である。

### 2. 経年変化



#### コメント

・2年次と比べて「聞くこと」、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」や「外国語理解の能力」が高くなっていることが見られる。一方で「言語や文化についての知識・理解」、「外国語表現の能力」が大きく下がっていることがわかる。  
・基本の語形や語法、文型の知識理解の力が下

#### コメント

・昨年度の傾向とほぼ同様であることがわかる。  
・「活用」と「外国語表現の能力」が弱いという課題が克服できていない。

### 3. 強みと弱み(○強み ●弱み)

○対話文の内容について、適切な答えを選択する。

○語彙の知識・理解に関する問題。

●英語の質問に対し、英語で答える問題。

●正しい語形を選ぶ問題のうち、動名詞の文(enjoy -ing)。

●場面に応じた表現を英語で書く(天気をたずねる、など)。

「強み」の項目を表現活動に積極的に取り入れることで、「弱み」の克服につなげられると考える。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

中学3年生の調査結果から, 中学校2年間の学習を経た「強み」と「弱み」の傾向がはっきりとしてくる。「強み」を生かしながら「弱み」を克服し, 結果につなげるために, ここでは全国との比較から正答率が高いケースと低いケースとに区別, 注目しながら今後の授業改善について考えていく。

##### 〈正答率が高いケース〉

###### ○結果から見える傾向

- ・「聞くこと」に関しては全国に比べてわずかだが上回り、相対的に見ても達成率が高い。

###### ○指導の方針

「強み」を「弱み」の克服に生かす。

→「聞くこと」を他の技能に「つなげる」授業デザイン。

###### ○指導内容の例

- ・(【英語】中2のページを参照)

##### 〈正答率が低いケース〉

###### ○結果から見える傾向

- ・全国と同様「活用」と「外国語表現の能力」がかなり低い。
- ・2年次に比べ, 「言語や文化についての知識・理解」と「書くこと」が弱み。

###### ○指導の方針

- ・「活用」と「外国語表現の能力」を育成することを意識

→自分なりの意見を持たせられる課題を与えることや, 相互作用(やりとり)がある場面設定(アクティブラーニングの観点も含んで)

- ・基礎知識を確実に身につけさせるよう, 「言語や文化についての知識・理解」の力を育成することを意識

###### ○指導内容の例

###### 【トピックトーク】

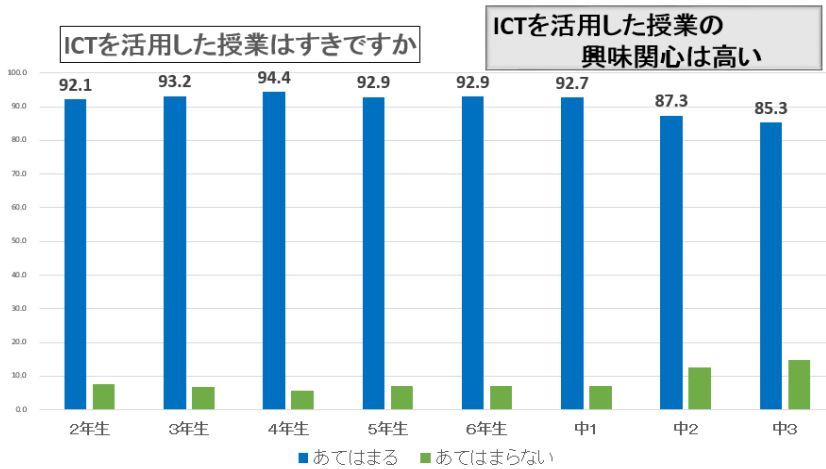
・グループやペアで共通のトピック(話題)について英語で話す。トピックは生徒に身近なことで, 伝えたい, 知りたい内容を持っているものを設定する。

・2分間会話を続ける, アイコンタクトをする, 失敗を恐れずに英語を話す, 2文以上で詳しく答えるなど, きまはつきりと設定する。

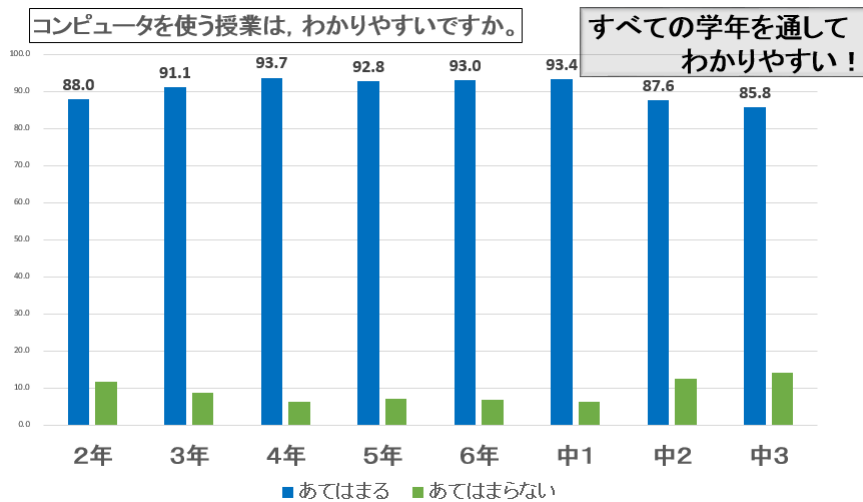
- ・話したことを書き起こすなど, 「書く」活動ともつなげる。

授業内で位置づけられる活動が, 「何を身につけさせるか」というビジョンを持ち, 学習指導要領にもあるよう「文法については, コミュニケーションを支えるものである」ことを踏まえ, 言語活動と効果的に関連付けて指導していきたい。

## ICT 活用に関する意識と課題

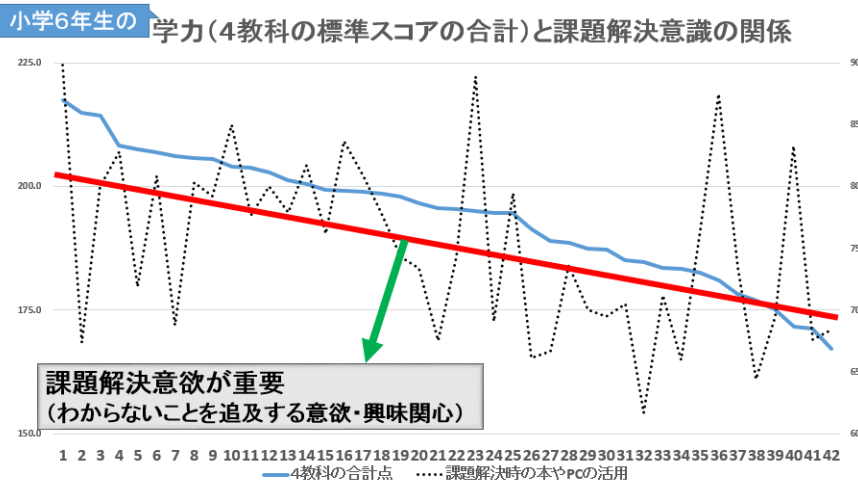


すべての学年において、ICTを活用した授業への興味関心が非常に高い。学年が上がるにつれて、多少興味関心が下がる傾向はあるが、ICTの特性である、児童生徒の視覚や聴覚にうったえるような授業を望んでいることがわかる。



すべて学年を通して、ICTを活用した授業はわかりやすいと答えている。デジタルコンテンツや動画等の活用や実物投影機による拡大提示など、ICT機器の活用は、学習内容の理解を深めるのに、非常に効果的であることがわかる。

### 小学校6年生の学力の結果（42校）とICTの利活用について



学力と課題解決時に本やPCを活用する児童の割合は、正の相関関係があることがわかる。教師は、いかに児童生徒が興味を持つような課題を設定できるかどうかが鍵となる。また、課題解決に向けて、意欲的に取り組む児童生徒の育成も重要になる。

児童生徒は、ICTを活用する授業を望んでいる。教師は、授業の中でICTを積極的に活用し、児童生徒の学習意欲を喚起するとともに、コンテンツや写真・動画などを活用したり、教科書や児童生徒のノートなどを拡大提示したりすることで、わかりやすい授業を展開していく必要がある。



柏市教育委員会では、ICTの効果的な活用に向けて、様々なコンテンツを用意しています。小学校のデジタル教科書（算数・社会）だけでなく、柏市教育委員会が制作している社会科副読本のデジタル版も配信しています。また、ITアドバイザーOnLineの学習メニューの中には、フラッシュ型教材をはじめ、「NHK for School」や「理科ねっとわーく」のように、無料で活用できるコンテンツも多数そろえています。

先生方の授業デザインに合ったコンテンツを選び、児童生徒にとって楽しく、そしてわかりやすい授業になるように、ICTを効果的に活用して授業改善をお願いします。



デジタル教科書算数（小学1～6年）



デジタル教科書社会（小学5・6年）



社会科副読本デジタル版（小学3・4年）



社会科副読本デジタル版（地歴編・公民編）



学習メニュー（中学校用・小学校用・特別支援学級用）



フラッシュ型教材



家庭学習用 IT アドバイザーOnLine



## 1 調査結果からみえる課題の改善には、学校図書館の活用が不可欠です。

### ①学校図書館で「読書習慣」

語彙力や漢字を読む力を育成するには、たくさんの生きた言葉に出会うことが必要です。学校図書館を活用して、語彙を増やしましょう。

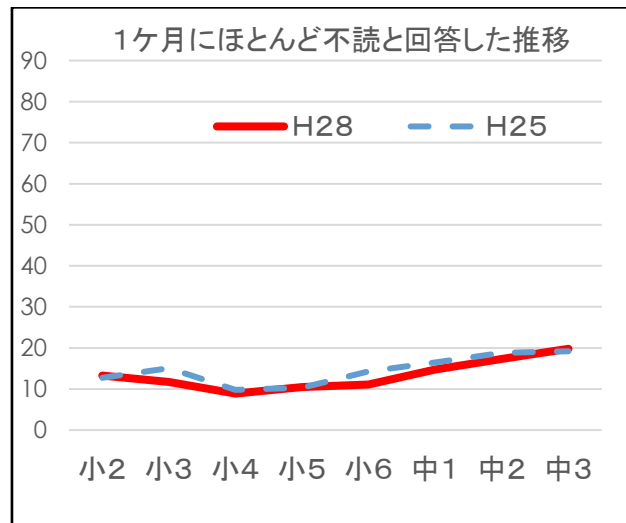
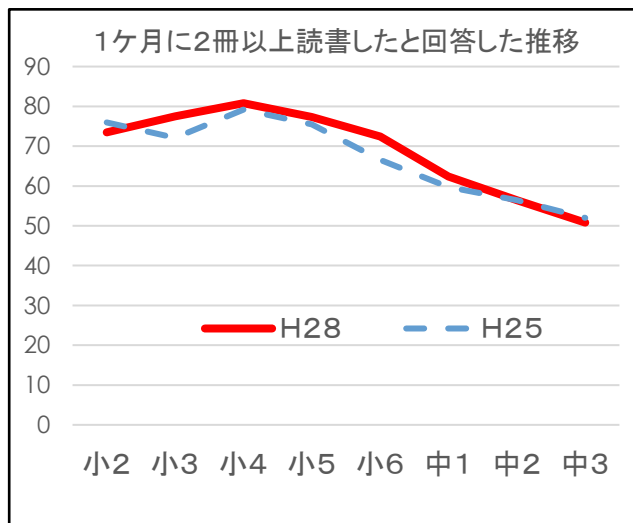
### ②学校図書館で「目的に応じた様々な読み」

日常生活では、時と場に応じて、様々な読み方が必要とされます。例えば、「全体を速く読む」「比べて読む」「必要な箇所を素早く見付けて読む」などです。学校図書館を活用して、様々な方法で読む力を鍛えましょう。

### ③学校図書館で「アクティブラーニング」

アクティブラーニングのキーワードは、「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」です。学校図書館を活用して、全ての教科領域で、主体的対話的な調べ活動を行い、学びを深めましょう。

## 2 学校図書館を「読書センター」から「学習情報センター」へ



### ★読書好きを伸ばし 不読者を無くそう！

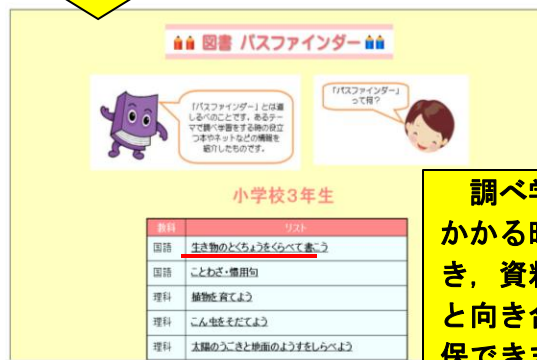
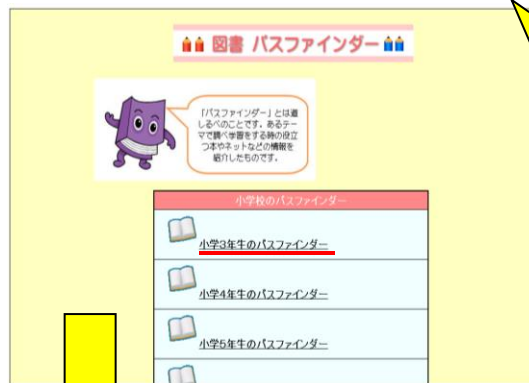
柏市の子供達に読書活動は、定着してきています。3年前の調査結果と比較すると、小5から中1にかけて、月に2冊以上読む児童生徒が増加しているのがわかります。柏市の子供達の少なくとも半数以上が月に2冊以上の読書をしています。一方、不読者も10%~20%程度存在します。3年前の調査と比較しても、不読率は改善されていません。朝読書や読み聞かせ等、小学生のうちにすべての子供が本を手に取りたくなる手立てを講じ、読書を習慣づけましょう。中学生の不読者を減らすことにつながります。



## ★学校図書館を、第2の教室に！

柏市には、学校図書館指導員が常駐しており、時季によって展示本が変わるなど、環境が整っています。そのため、休み時間や放課後に足を運び、本を手にとる子供達が増えてきました。しかし、学校図書館は、「好きな本を読む場 ～読書センター～」にとどまらず、「各教科領域の学習における情報収集・活用場 ～学習情報センター～」の機能も兼ね備えています。つまり、子供達にとっては、「第2の教室」です。

柏市教育委員会では、調べ学習を充実させるために、「図書パスファインダー」を作成しています。「図書パスファインダー」とは、小学校3年から中学校3年までの国語、社会、理科、総合の調べ学習で役立つ「書籍のリスト」「インターネット検索キーワード」などを紹介したものです。授業で活用できるようプリント形式にして用意してあります。学校のコンピュータのメニューからリンクもされていますので、調べ学習に活用してください。



調べ学習の検索にかかる時間が短縮でき、資料にじっくりと向き合う時間が確保できます。

小学校3年国語【生き物のとくちようをくらべて書こう】

調べてみよう！テーマ別

- ・生き物の体のとくちようを調べよう。
- ・生き物の食べ方ととくちようを調べよう。
- ・生き物の身の守り方を調べよう。

百科事典やポータルサイトのキーワード

- ・生物→動物

キーワード

こん虫、魚、ほ乳類、鳥、両生類、は虫類、口、耳、目、歯、鼻、しっぽ、手、足

本でしらべるには(参考図書)

- ・総合百科事典ポプラディア

本でしらべるには

書名	出版社	分類	本体価格	出版年
どうぶつのからだ 全6巻	徳文社	481	8,400	2010
ふしぎ発見シリーズ どうぶつ編 全6巻	アリス館	481	7,500	1994～
こん虫のふしぎ 全5巻	徳文社	486	8,000	2011～
育てて、しるべる日本の生きものずかん 全10巻	集英社	480	18,000	2004～
教科書に出てくる 生きもの疑問回答 1年生 5年の生きもの 6動物・鳥	学研教育出版	480	8,000	2011
動物のちえ 全5巻	徳文社	481	12,000	2013～
【新装版】科学のアルバム(空編) 全10巻	あかね書房	486	28,500	2005
【新装版】科学のアルバム(動物・鳥編) 全20巻	あかね書房	480	30,000	2005
ドクドクいっはい！空のくらし写真集 全16巻	ポプラ社	486	39,200	2000～

インターネットで調べるには

オンライン百科事典ポプラディアネット

さらに詳しく調べよう

# レーダーチャート分析シート利用方法

このシートは、当該学年の結果を柏市全体や同一集団の前年度、昨年度の同学年の結果と比較するためのものです。

- ① ファイル名  
 小学校用 「2016 小学校用レーダーチャート分析シート」  
 中学校用 「2016 中学校用レーダーチャート分析シート」
- ② シートは学年ごと、教科ごとに用意してあります。
- ③ 柏市平均正答率は既に入力してあります。
- ④ 入力データは、各年度の次のファイルを開いてコピーして貼り付けてください。  
 「柏市立〇〇〇学校 ①学力 (00) C1.xlsx」

★集計結果					★正答率の比		
	目標値	平均正答率	中央値	達成率	[確認・活]		
校内	81.1	87.0	75.9		100%		
市町村	78.0	80.1	82.6	74.7	90%		
全国	81.2	84.8	76.7		80%		

	目標値	平均正答率		
		校内	市町村	全国
78.0	81.1	80.1	81.2	
82.6	86.1	85.6	86.5	
57.3	57.3	54.4	55.9	
86.2	86.2	86.1	88.8	
75.5	75.5	75.9	77.8	
76.8	76.8	73.8	76.3	
83.5	83.5	83.1	82.7	
73.9	73.9	72.9	74.0	
86.7	86.2	86.1	88.8	
71.3	71.3	70.9	72.6	
70.6	70.6	67.5	68.7	
90.5	90.5	90.8	90.9	
78.4	78.4	76.3	78.0	
90.5	90.5	90.8	90.9	
68.0	68.0	67.9	69.5	

このデータを  
貼り付ける

学年の数字を入力(赤矢印)すると、表に学年が入ります。校種をまたぐ場合は手入力してください

	教科全体	標準	前年度
基礎	基礎	80.1	81.1
応用	応用	55.6	56.2
応用	応用	54.4	55.9
読むこと・聞くこと	読むこと・聞くこと	98.1	98.2
書くこと	書くこと	75.9	75.5
読むこと	読むこと	73.5	76.5
読解力と読書に関する事項	読解力と読書に関する事項	83.1	83.5
国語への関心・意欲・態度	国語への関心・意欲・態度	72.9	73.8
話す・聞く能力	話す・聞く能力	98.1	98.2
書く能力	書く能力	70.9	71.3
読む能力	読む能力	87.5	70.8
言語についての知識・技能	言語についての知識・技能	90.5	90.5

項目名とそれぞれの平均正答率を入力します。エクセルシートから「ただコピー」すると使いやすくなります。

小学 2年 国語

### 1. 全体傾向

表の目盛りを変更したい場合は、グラフを選択し「1」のツールバーで「数値軸」→「軸の書式設定」をクリック後、任意の目盛りを振ります

2. 前年変化

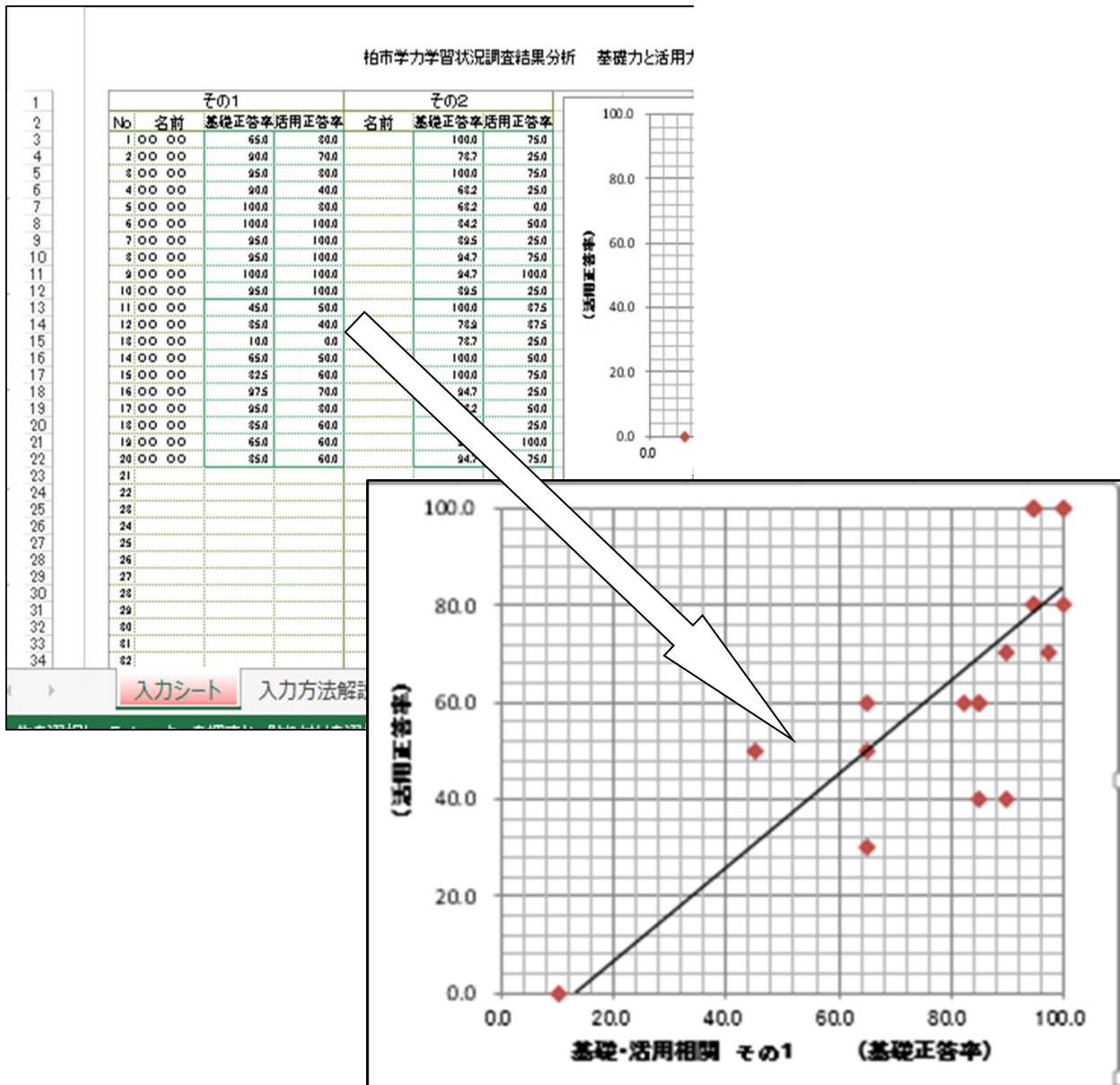
【国語】小2年 | 【国語】小3年 | 【国語】小4年 | 【国語】小5年 | 【国語】小6年 | 【算数】小2年

## 基礎と活用相関関係分析シート利用方法

このシートは、学級ごとに、基礎的な力と活用の力について、学級や一人一人の状況を分析するためのものです。

- ① ファイル名  
「基礎と活用相関関係分析シート」
- ② シートは必要数をコピーしてください。
- ③ 各学校に配付された「柏市立〇〇〇学校〇学年①学力 (\*\*) C1.xlsx」より、学級ごとのデータをコピーして貼り付けてください。
- ④ その1, その2の欄は、国語と算数, 昨年度と今年度など, 比較したいデータを組み替えて利用してください。

**※ 子供の名前を転記する際には、取り扱いに十分注意をしてください。**



平成28年度 柏市学力・学習状況調査  
「学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む」

編集：柏市教育委員会 学校教育課・指導課  
柏市立教育研究所

発行：平成28年8月1日(月)